Wet Docks.

	Princes Dock	Victoria Dock
Wid-th of Entrance North	66 bt.	80 bt.
Wid-th of Entrance South	55 〃	
Depth of '' sills belan l.w.s.t.	14 〃	16 〃
Width of Passage	64 〃	64 〃
Depth of '' Sills belan l.w.s.t.	16 〃	16 〃
Water area	30 acres	25 acres.
lineal Feat Auayage (total 2½miler)	5,960 bt.	7,425 1bt.
Area of Transit sheds	331,260 sg. ft.	307,642 rg .ft.
Cranes. 100 tans.	——	1
〃 30 〃	1	——
〃 20 〃	——	1
〃 30 cwts (total 102)	47	55

Ware Lause.

Appasite Princes' dock No. 1 to 7	123,500 sg. ft.
〃 〃 〃 〃 849 (ternpsrary)	15,660 〃 〃
〃 Victoria Dock A. B. C. D.	129,600 〃 〃
Total	=268,760 sg. ft.

Clbere weather Dry Dock.

Leagth an block	Coissan in inner grove.	500 ft.
	〃 〃 auter 〃	525 5/8 〃
Leagth over all	〃 〃 inner 〃	538 5/8 〃
	〃 〃 outer 〃	557 5/8 〃
Width of Entrance.		65 1/2 〃
Depth over sill H. W. O. S. t.		26 〃 3m
〃 〃 〃		30 〃 5〃
〃 〃 blocks H. W. O. st.		26 〃 2〃
〃 〃 〃 H. W. Ex. St.		28 〃 4〃

軍艦商船出入數

最近ノ調査ニ於ケル軍艦商船ノ出入數次ノ如シ。

入港艦船

國名	千八百九十一年ヨリ千八百九十二年ニ至ル 軍艦	千八百九十一年ヨリ千八百九十二年ニ至ル 商船	千八百九十二年ヨリ千八百九十三年ニ至ル 軍艦	千八百九十二年ヨリ千八百九十三年ニ至ル 商船
英國及印度			四六	一、一九〇
日耳曼			二	三九

墺地利	不詳	不詳		
波斯				
佛蘭西				
亞剌比亞				
亞米利加				
伊太利				
希臘				
瑞典				
和蘭				
諸威				
葡萄牙				
智利				
合計數	四九	一、三六一	五一	一三四六米
合計噸數	一一五、六二〇	一、九二〇、一二二	一二五、二一三	一、八二八、九三六
前年度ヨリ減			二艘增 九、五九三トン減	一五艘減 九一、一八六トン減

此内帆船四十六艘

出港船

墺地利	不詳	不詳		
波斯				
佛蘭西				
亞剌比亞				
亞米利加				
伊太利				
希臘				
瑞典				
和蘭				
諸威				
葡萄牙				
智利				
合計數	二	一	〇	一
合計噸數	四一	二	〇	一
前年度ヨリ減		一四	〇	八
		二七	〇	一
		一	〇	一
		一	〇	一
		四	〇	一
		一六	〇	一

	千八百九十一年ヨリ千八百九十二年マデ	千八百九十二年ヨリ千八百九十三年マデ	記事
船數	一、二八九	一、二九〇	前年度ヨリ增ス事 一
總噸數	二、〇二二、六二九	一、九〇五、二七四	同減スル事 一一七、三五五

大略前表ノ如クニシテ軍艦ノ出港數ヲ詳知スル能ハザリシモ、英國及ビ印度政府軍艦ノ外外國軍艦ノ寄港スルモノ實ニ僅少ナリト云フ。

孟買沿革ノ景況

孟買島ハ面積二十二英方哩ニ超ヘザル一小島ニシテ、南北ニ長ク東西ニ狹シ。而シテ其北端「マヒム」ハ淺ク且ツ狹マキ海峽ヲ以テ北方ノ大島「サルセツト」ト隔テラレシモ、今ハ此ノ海峽ヲ埋メ一帶ノ長堤ヲ以テ二島ヲ連絡シ鐵軌ヲ走ラス。

島中ノ南方ニ二條ノ山脈アリ。相距ル三里共ニ南北ニ走ル。島ノ南西端「マラバル」ハ最高ノ地ニシテ其高サ百八十呎ナリ。孟買市ハ此兩岳及岳間ノ低地ニアリ。

「マラバル、ヒル」ノ南西端ヨリ島ノ北端「マヒム」ニ至ルノ間延長八哩ノ沿岸小灣多シト雖ドモ僅カニ漁舟ヲ泊スルニ足ルノミ。「マラバル、ヒル」ト島ノ南端「コラバ」岬トノ間一大灣ヲナスト雖

ドモ、海底岩石多ク且ツ南西ニ面スルヲ以テ、南西信風時ニハ風浪猛烈到底船ヲ泊ス可ラズ。此大灣ヲ「バツク、ベー」ト云フ。灣ノ兩端ハ樹木鬱蒼タル岳陵ニシテ市中ノ富豪多ク此邊ニ住ス。而シテ兩岳間ノ沙濱ニ沿フテ鐵道及ビ廣濶ナル道路アリ。

此ノ海濱ノ大路ハ毎夕車馬輻輳四民群集シ繁盛ヲ極ム。蓋シ皆海灣ノ凉ヲ取ランガ爲メナリ。

島ノ南方一體ヲ「コラバ」ト稱シ、「コラバ」ノ北方ヲ「フオルト」ト云フ。蓋シ此兩地重ニ英人ノ住居スル所ニシテ「フオルト」ハ英國人市街ノアル所ナリ。「フオルト」ノ北方ヲ土人市街トス。以上ノ三地共ニ西方ハ「バツクベー」ニ望ミ、東方ハ孟買港ニ瀕ス。土人市街ノ東北端ヲ「マザゴレ」ト云フ。是レ孟買市東岸ノ北端ナリ。是レヨリ北六里餘ニシテ島ノ北端ニ達ス。其間沿岸漁村ノ散點スルアルノミ。

「マラバ」ヨリ「マザゴレ」ニ到ル、東岸一帶海ニ瀕スル所ヲ孟買港内最モ樞要ノ地トス。而シテ船舶輻輳商業繁榮ヲ極ムルハ土人市街ノ東端海ニ面スル所卽チ「プリンセス」及ビ「ヴキクトリヤ」船渠ノアル所竝ニ「フオルト」ノ兩所トス。

英領印度孟買市兵制視察報告

孟買兵制視察ハ本艦碇泊日數僅少ニシテ加フルニ要部ハ祕密ナルヲ以テ充分ニ其目的ヲ達スル能ハザリシト雖モ其大略ヲ記スルコト左ノ如シ。

印度艦隊ニ二種アリ、一ツハ英國ヨリ差遣セルモノ、一ツハ印度政府ノ直轄ニ在ルモノニシテ、其英國ヨリ差遣ハセル者ハ左ノ數艦ヨリ成リ、其本部ヲ孟買トシ、爰ニ艦隊司令長官ノ官舍アリ。此艦隊ノ管轄區ハ印度及ビ錫蘭沿岸、亞丁、「ペルシヤ」灣及ビ「ベンガル」灣沿岸ノ全部トス。

艦名	艦種	排水噸數	實馬力	武裝	記事
Boadicia	2nal cluss	4140	5130	2,6-in. 5-ton. 12,90-cot. M.L.R. 4,6-pnr. a.F. 2,5-pudr.a.F.Flag ships 10 machine gun 2. light geun, Z. L. Car.	
Brink	〃	1770	3600	6,6-in. 5-ton, 8,3-pdr. a. F. 2. machine gun. 1. light gun. 2. L. Car. 1 F. tu.	
Cassack	〃	1770	3600	6,6-in 5-ton, 9,6-pdr, a, F. 1,3-pdr. a. F. 3. m. G. 1. light gun. 2. L. Car. Z. f. tu.	
Marathon	〃	2950	9000	6,4-in 25-crut. 2,3-pdr. a. F.	
Lapuring	〃	805	1200	2. machine gun.	
Pigean	〃	755	1200	6,4-in 4. machine gun.	
Redbreast	〃	805	1200	6,4-in 25-crut, 2,3-pdr. a. F. 2. machine gun.	

艦名	艦種	排水噸數	實馬力	武裝	記事
Abyssinia	armaurad C. d. s. L.	2900	950	4.8-in. 14-tan. 5. machine gun. 2. light gun.	
Magdala	〃	3340	1440	4. 10-in, 18-ton, N. L. R. 4. machine gun.	
Assye	18t class or topeds	735	4500	2. 4. 7-in. Q. F. 4. 3-pdr, do.	
Plassy	〃 gun boot	735	4500	1 f. tu, 2. L. Car.	〃

Torpeds boots.

印度鎭臺ハ之ヲ三大部ニ分ツ「ベンガル」鎭臺「マドラス」鎭臺、「ボンベイ」鎭臺ト云フ。各陸軍中將之ヲ指揮シ陸軍總督全軍ヲ總轄ス。

孟買滯在中ノ兵ハ「ボンベイ」鎭臺ノ分遣隊ニシテ、先任陸軍大佐（陸軍少將ト大佐トノ中間ニアル官ナリ）之ヲ指揮ス。其兵數及ビ兵種ハ左ノ如シ。

砲兵	三中隊	土人歩兵	二聯隊
歩兵	一聯隊		

砲兵ノ携帶セル小銃ハ短馬銃（マルチニー）ニシテ歩兵ハ連發銃、土人歩兵ハ長馬銃トス。

兵舍ハ孟買島ノ南端「コラバ」ニ在リテ其構造ニ二種アリ、一ツハ新築ニ係ル者ニシテ歐風ノ石造ナリ。一ツハ舊造ニシテ我ガ浴屋ニ類似ス。營内酒保アリ弄球場アリ舞樂室アリ展覽所アリテ操練時間外ハ何時タリトモ兵舍ヲ出ヅルヲ得ルト云フ。歐兵ハ皆帶妻ヲ許サレ、其帶妻セル者ハ兵舍内ニ小家屋ヲ與ヘ、一ケ月八「ルーピー」ノ加俸ヲ給シ、一子ヲ擧グル毎ニ二「ルーピー」半ノ加俸ヲ支給ス。土人兵ハ百人ニ付二十人ノミ帶妻スルヲ得。是亦兵舍内ニ居住ス。兵舍ハ一ツノ構牆ヲナサズ、「コラバ」半島ノ平原ニ建築セルノミ。土人ノ兵舍亦全ク市街ニ近接セル所ニ在リ。

孟買ノ海岸防禦ハ左ノ諸砲臺ヨリ成ル（裝砲ニ隱顯砲架ヲ備フル者アリ）

別紙孟買港略圖ヲ以テ其位置ヲ示ス。

A、「クロス」島――ハ港ノ北端ニシテ海岸ヲ距ル千碼「ミツドル、グラウンド」砲臺ヲ距ル四千碼ニ在リ。未ダ工事中ニシテ一ツノ兵裝ナキモ、工事竣工セバ十二、五尹砲一門、九尹砲及ビ四十斤砲各二門ヲ裝備スル豫定ナリト云フ。

B、「ミツドル、グラウンド」砲臺ヲ距ル東北四千碼ニ於テ一ツノ淺灘アリ。其深サ十二呎之ニ小砲臺ヲ築キ、四十斤砲二門ヲ裝備セリ。

C、「ミツドル、グラウンド」島――ハ殆ンド港ノ中央ニシテ海岸ヲ距ル千八百碼ニ在リ。鐵楯ヲ以テ防禦セル九尹前裝砲二門及ビ砲塔内ニ裝備セル同徑砲一門ヲ裝置ス。而シテ是等ノ砲ハ水面ヲ距ル僅ニ數尺ニ在リ。

D、「オイスター」島――ハ海岸ヲ距ル千碼「ミツドル、グラウンド」砲臺ヲ距ル南西三千碼ノ處ニ在リ。此砲臺ノ兵裝ハ九尹砲三門、十二、五尹砲二門ヨリ成リ、尙ホ十尹砲及ビ七尹砲各二門ヲ增裝スルノ計畫ナリト云フ。

E、軍艦繫泊場ニ面シ禮砲用砲臺アリ。

F、港口ノ西北ニ「マラバー、ポイント」アリ。之ニ砲臺ヲ築キ砲塔ニ九尹砲三門ヲ構ヘ、又十二、五砲一門、十尹砲及ビ七尹砲各二門ヲ加裝スルノ計畫アリト云フ。

G、「コラバ」半島ノ南端ニ砲臺アリ十二、五尹砲一門、九尹砲三門ヲ有ス。尙ホ此砲臺ニ十二、五尹砲及ビ十尹砲各二門ヲ增加スルノ計畫ナリト云フ。

H、「マラバー、ポイント」ノ北方ニ「マハルクスミー」砲臺アリ十二、五尹砲二門、十尹砲三門及ビ九尹砲一門ヲ備フ。

右報告仕候也

明治二十七年二月三日

海軍少尉　田所廣海
海軍大尉　西紳六郎
海軍大尉　加藤友三郎

吉野艦長　河原要一殿

孟買港諸機械工場視察報告

印度國内ニ於ケル各種製造業ノ發達ニ隨テ、孟買市諸機械及鐵材ノ商況益々隆盛ニ赴ケリト云フ。四五年以前ニ在テハ器械及鐵材製造品ハ專ラ海外ヨリノ輸入品ノミナリシモ、漸次歐人ノ此地ニ製造業ヲ起スモノ增加シ、現今ニテハ英國ニ於ケル製造所ト競爭スルヲ得ベキ價格ヲ以テ販賣シ得ベキ諸機械ヲ製出スルニ至レリ。今此市ニ於ケル重ナル器械製造所ヲ列記シテ其概略ヲ示サントス。

諸工場中最モ大ナルモノハ「リチヤードソンクラツクス」會社ト稱シ、印度中最モ有名ナルモノノ如クニシテ、該會社ハ支場トモ二ケ所ノ製造所ヲ有シ、本社ヲ「ハイクユラ」機械工場ト云ヒ、他ヲ「ネスビツトロード」支工場ト云フ。兩工場及諸倉庫共總計面積四萬六千平方「ヤード」即十

「ユークル」以上ニ擴ガリ、場内縱横ニ馬車鐵道ヲ敷設シ、「クレーン」其他各種ノ運搬機ヲ備フ。其使役スル所ノ土人工夫日ニ一千三百人ニ下ラズ。而テ歐人諸專業ノ頭人トナリテ之ヲ監督ス。又備フル所ノ各種機械ハ皆改良精鋭ノモノニシテ、遙カニ英國屈指ノ會社ニ劣ラザルノ觀アリ。

鑄鐵所ハ長サ四百六十五呎幅平均七十呎ニシテ、五個ノ熔鐵爐ヲ備ヘ、最大ノ鑄鐵物三十噸ノモノヲ製造シ、一日總計百五十噸ノ鑄造ヲ成スヲ得。練鐵所ハ長サ三百八十呎幅八十呎ニシテ、一日三十個ノ鍛冶用火爐ヲ有シ、六個ノ蒸汽鐵槌、汽力整平器「ボルト」及「リベット」製造機ヲ備フ。東方亞細亞ニ於テハ錬鐵所中首位ヲ占ムルモノト云フモ敢テ過言ニアラザルベシ。橋梁組立場ハ新設ニシテ、長百二十呎幅六十呎餘、長大ナル「スパン」ヲ有スル橋梁工事ヲナスニ充分ナル場所ナリ。此場内ニ於テ各部分ノ組立ヲナシ、强力試驗等ノ執行ヲナシタル後、再ビ之ヲ分離シ以テ架設スベキ地ニ運搬シ、此所ニ初メテ眞個ノ結構ヲナスノ方法ナリト云フ。此種ノ工事ニ供スルタメ、改良セル種々ノ器械ヲ有ス。就中「エツチプレーニングマシン」ノ如キハ最モ大形ナル鐵板ノ側部及端部ヲ同時ニ削平スルヲ得ベキモノナリ。竝ニ汽力及水力打鋲機ハ「トウイツデル」氏移動形ノモノニシテ、一個ノ懸梁運搬機ノ下ニ裝置シアリ。僅カニ工夫一人ノ力ヲ以テ工場ノ一端ヨリ他端迄望ム所ニ移動シ、以テ打鋲セントスル物品ニ近接セシムベク、且ツ動作靜カニシテ往時ノ人力打鋲ノ如キ喧騷ニシテ且ツ工事ノ不確實ナルニ比スレバ、遙カニ重大ナル橋梁工事ヲ成工セリ。

「シユテツト」市「ブツキ」橋（九十呎ノ長サヲ有スル「ウエーレンガータースパン」三個）「ビルマ」國「レツトワイデツト」橋（長サ百〇七呎「スパン」一個）及同國「セルキヤ」橋（長サ百〇七呎「スパン」三個）等皆此工場ニ於テ架設セラレタリ。其他小橋ニシテ此社ノ工事ニ成ルモノ到ル所ニ散在ス。上ニ示ス橋梁工事ハ製罐業ニ異ナルコト少キヲ以テ、近來此工場ニ於テハ「マルチプル、ドリング」機「フリユーフラ・ライヂング」機及「ウエルヂング」機等ヲ備ヘ、業務ヲ擴張シ、大形汽罐ノ製造ヲナスニ至レリ。而シテ之等ハ皆紡績機械所ニ用フル銅鐵製「ランカシーア」形汽罐ニシテ、直徑七呎長サ三十呎使用壓力百斤ヨリ百十斤ノモノヲ通例トス。此等工事中政府ノ汽罐監督官來テ之ヲ監督シ、汽罐條例ニヨツテ證狀ヲ附與スト云フ。

各旋盤工場ヲ合同計算スルトキハ、長サ三百七十五呎幅五十二呎ノ場所ヲ有スベク、皆新式改良ノ器械ヲ備フ。

此會社ハ上文ニ示ス器械製造業ニ加フルニ各種鋼鐵、鐵、銅等ノ諸材料及諸器械ノ輸入販賣ヲナシ、「バレル」街ノ倉庫ニハ各種ノ喞筒類、機械用道具、鋼材鐵材錬鐵管、鑄鐵管竝ニ鍛冶用、蒸汽用石炭、及ビ鑄鐵用ニ供スル「コークス」等ノ多量ヲ貯藏ス。

土人ノ工夫技術熟達シ、彼等ノ仕上タル物品ヲ熟視スルニ往々歐人ノ手ニ成レルモノニ勝ルアルヲ見ル。

此會社ニ次デ「ラストムヂー」氏「カルセットヂー」氏合同設立ニ係ル「リツボン」機械工場アリ。重モニ鑄造業ヲナシ、「ビクトリヤ」船渠ニ面スル「ブレール」街ニアリ。中央ノ衝路ニ當テ緊要ナル位置ヲ占ム。備フル所ノ器械モ亦整頓シ、重大ナル旋盤工事ヲナスベク、且ツ最大重量二十噸ノ物品ヲ鑄造スルヲ得。而シテ裝飾的家具及門扉等ノ鑄造セラレタルモノヲ見ルニ、鑄皮膚平滑ニシテ物質能ク、實ニ片緻鮮明ナリ。此他製罐及錬鐵ノ工場ニモ汽槌及「ポンチング・シヤリング」機等ノ備ヘ紡績機械及橋渠ノ工事等ヲナス。

此會社ニ於テナシタル數多ノ工事中「マハツタ」鐵道會社ノタメニ架設シタル鐵橋（長サ六十呎ノ「プレートガータースパン」）ヲ最モ大ナルモノトス。其他紡績機械用ノモノ鐵柱及波動杖鐵板等ヲ製造ス、使役スル工夫大凡ソ四百人餘ナリ。

右ニ示セル兩會社ハ規模大ニ工事熟達ナリト雖ドモ、重ニ陸用諸機其他家屋橋梁ノ工事ニ從事スルモノニシテ、此他ニ孟買港ニ出入スル諸船舶ノ汽機、汽罐等ノ修繕工事ヲ專トスルモノ尙ホ二會社アリ。一ヲ「マザゴンデフエンス」工場ト稱シ、「カルナツク」ナル一支工場ヲ有ス。他ヲ「モヂベー」工場ト云フ。此兩會社共各一隻ノ小蒸汽船ヲ有シ、日々港內ニ碇泊スル各船舶ヲ巡回シ工事注文ノ有無ヲ尋ネ互ニ反目競爭ヲナス。

「マザゴンデフエンス」機械工場ト稱スルハ「アポロ」波止場ヲ去ル四哩「マザゴン」ト稱スル地ニシテ、彼阿會社船渠ニ接シ建設セラレ、其創立ハ千八百六十年則チ今ヲ距ル事三十餘年前ニ成レリト云フ。英人「アルユロウ」氏「アシダウン」氏及「ベツプウオース」氏合同設立ノ會社ナリ。全體ノ廣サ九千平方「ヤード」餘、工場中最モ大ナルモノヲ鑄造所トス。

鑄造所ハ全體ノ三分ノ二ヲ占ム。場內上部ニ三個ノ懸梁運搬機ヲ備ヘ、各擧重力十噸ノモノナリ。大小二個ノ煽風機及三個ノ熔鐵爐ヲ有シ、最大重量三十噸ノ物品ヲ鑄造スルヲ得。當時日々鑄造スル處ノ黃銅及鑄鐵ハ平均七八噸ナリト云フ。

旋盤所ハ鑄鐵所ニ接シ殆ンド一連ノ建物ノ內ニ在リ。「ローラー」機大小二個、「レース」機大形五臺、「ドリリング」機三臺（內ラヂヤル形一個）、「プレーニング」機一臺且ツ重大ノ物品ヲ運搬スベキ十噸ノ懸案梁運搬機二個「ポンチング・シヤリング」併用機一臺ヲ備フ。此旋盤及鑄造兩工場諸器械運轉用トシテ十二馬力ノ汽機及汽罐ヲ備フ。此所ニ於テ一個ノ汽罐ニ鋲穴（リベットホール）ヲ穿チ居ルヲ見ル、直徑大凡ソ六呎長四呎使用壓力百斤ニシテ該工場ニテ目今製造中ノ汽艇用アリト云フ。

錬鐵所ハ全體ノ僅カニ五分ノ一ヲ占メ、鍛冶用火床（フオーチ）十個二噸ノ汽槌一臺ヲ備フ。此所ニ於テ小形橋梁ノ一部及鐵道列車用小金物ノ製造ニ從事スルヲ見ル。此工場ニ接近シ他ノ旋盤所アリ。此兩場ノ中間ニ十馬力餘ノ機關ヲ備フ。諸機械及煽風機運轉用トナス。該旋盤所ハ前ノモノト略ボ同樣ノ廣サニテ「レース」大形一臺、「ドリリング」機小形五臺、「レース」小形三臺、「シエーピング」機

一臺、「スロッチング」機一臺其他「グライヂングストン」及「フハイブレーニング」機等ノ諸機ヲ有ス。一ケ年石炭七百噸鑄造用「コークス」五百噸ヲ消費スト云フ。

此他ニ模型工場及諸種ノ材料倉庫二三棟アリ。又他國郵船ノタメ新製シタル「スターンチューブ」一ケ長サ二十七呎直徑三呎餘ノモノヲ見タリ。物質緻密能ク眞直ニ鑄造セラレ一見シテ鑄造業ノ凡ナラザルヲ知ルニ足ル。

此會社ニテハ船體機關ノ修理、端艇及紡績機械ノ製造、鐵道列車諸金物ヨリ家屋建築用鐵材ニ至ル迄大小各種ノ工事ヲナス。

此會社ノ支工場タル「カルナツトアイロンウォーク」ハ「ヴイクトリヤ」船渠ニ接シ、廣サ千五百平方「ヤード」ニシテ一棟ノ工場中ニ製鑵、旋盤、鑄造及錬鐵ノ工事ヲナスヲ得、本機關十六馬力一臺「レース」機小形十臺大形二臺、「ポンチング・シヤリング」併用機大小各一臺、「プレーニング」機大形二臺、「ラジヤルドリーング」機一臺、「ドリリング」機大形一臺、熔鐵爐（一時ニ十噸ノ熔鐵ヲナシ得ベキモノ）二個、鍛冶用火床八個二噸ノ汽槌及小形「ローラア」等ヲ備ヘ、一日ノ石炭消費半噸ナリト云フ。其他倉庫三棟ヲ有シ、各種ノ煙管、角鐵、圓鐵、銅鈑、鐵板及各種ノ鐵鎖、機械用油ヲ貯ヘ、自己使用ニ供シ又ハ要スルモノニハ之ヲ販賣スルト云フ。

「マザゴン」本社ニ英人三名「カーナツク」支工場ニ英人二名之ヲ監督ヲナシ、他ハ皆ナ土人ヲ用ユ。而シテ兩工場工夫總計五百名以上ヲ使役スルト云フ。

「モヂベー」機械製造會社ハ「モヂ」灣ニ近ク建設セラレタルモノニシテ、僅カ二年以前ノ創立ニ係リ、英人「ワイズメン」氏其他七八名ノ合同設立セルモノナリ。此會社ハ前陳ノ諸社ニ比スレバ規模甚ダ狹少ニシテ工場ノ廣サ僅カ四百平方「ヤード」、備フル所ノ器械ハ「ポンチング・シヤリング・アングルアイロンカツター」併用機一臺、「ラヂヤルドリリング」機一臺、「レース」小形五臺、「プレーニング」機大形一臺、「レース」機大形一臺、小形汽槌一臺、鍛冶用火床六個、小形煽風機一個及小形黃銅熔解爐二個ニ過ギズ。工夫日々四十人、消費スル石炭一日半噸ナリト。然レドモ汽機、汽罐小部分ノ修理ヲ行フニ足レリト云フベシ。

前文ニ列記セシ諸工場ノ外、政府ノ設立ニ係ル所ノ「ガバーメント・ドツクヤード」アリ。該造船工場ハ稅關ト「アポロ」波止場トノ間ニ在テ、數棟ノ機關工場ト船渠トヲ以テ成ル。規模甚ダ壯ナラズト雖ドモ、構內整然稍ヤ以テ觀ルニ足ル可シ。工場ニ近接シテ二個ノ大船渠ヲ穿ツ、一ヲ「オールドボンベードツク」ト稱ス。千七百三十六年ノ築造ニカヽル、其總長六百四十八呎之ヲ區劃シテ三個ノ小船渠ニ分ツ。名ヅケテ「アツバー・ミツドル」及「ローアボンベードツク」ト稱ス。而シテ甲ハ其幅四十七呎七吋長サ二百〇九呎、乙ハ幅五十一呎十吋長サ百八十三呎、丙ハ其幅ヲ乙ニ等フシ、二百五十六呎ノ長サヲ有ス。他ノ船渠ヲ「ダンカンドツク」ト稱ス（按スルニ「ダンカン」ノ名稱ハ其當

時此地ヲ支配セシ「ガバーナア」ノ姓氏ヲ探リシモノナリ）之レ又「アツバー」及「ローア」ノ二船渠ニ區分セラレ、千八百四十五年成リシ所ノモノナリ。「アツバーダンカンドツク」ハ長サ二百八十六呎幅六十三呎ニシテ五船渠中ノ最大ナルモノナリ。「ローアダンドツク」モ其幅之ニ等シク其長サ二百四十六呎ナリ。而シテ此二小渠ヲ一貫シテ五百三十二呎ノ一大船渠ヲ形造ルヲ得ベシ。抑モ該造船工場ノ起源ヲ茲ニ考フルニ、西歴千六百七十三年東印度會社ガ專ラ威力ヲ奮ヒテ印度全州ヲ統轄スルノ頃ニ際シ、「マラバー」海賊近海ニ出沒シ、掠奪ヲ事トセシヨリ、彼等ガ跳梁ヲ抑制シ併セテ自家貿易ヲ保護センガタメ兵艦製造ノ必要ヲ感ジ、「スラ」港（孟買ヲ距ル北凡ソ百五十英里）ヲトシ茲ニ初メテ造船工場ヲ建設シタリシモ、地利ノ適セザリシタメ、千七百三十五年之ヲ孟買ニ移シ爾來工ヲ積ミ今日ノ造船所ヲ成スニ至ル。

該造船所ノ開設以來製造竣工セシ船舶尠キニ非ズト雖ドモ、未ダ大噸數ノ巨艦ヲ造ルニ至ラズ。近時建造セル兵艦中「ミーニー」號ノ如キ蓋シ其最タルモノナランカ。同艦ハ千八百四十七年成ル所ノモノニシテ、八十四ノ砲熕ヲ裝シ、二千四百ノ排水噸數ヲ有セルモノナリ。此他尙ホ小汽船「スクーナア」等ニ至テハ當時該工場ノ手ニヨツテ成リシ所ノモノ甚ダ多シト雖ドモ、何レモ皆舊式ノ木造船艦タルニ過ギズ。近來鐵材應用ノ術進ミ、且ツ其本國タル英ノ造船事業ノ大ニ發達シテ隆盛ヲ極ムルニ至テヨリ以來、此地計畫新企ノ工ハ專ラ之ヲ母國ニ托シ唯修補ノ工事ノミニ止マラシムルニ至レリ。

機關工場ハ船渠ニ沿フテ建ラレタル一大屋宇（長サ四百呎幅四十八呎高サ四十二呎）ノ内ニアリ。區劃ヲ以テ諸門ノ工場ニ別タル、場内ニ上下ノ二床アリテ、上床ニハ總テ小形ノ機械ヲ備ヘ、特置ノ小機關ニヨリテ運轉セラル、「ローリング」「プレーニング」「ドリリング」「スロツチング」機ニ各種ノ「レース」等大形大量ノ機械ハ其部類ヲ別タレ、下床ナル各工場ニ配羅セラル。而シテ此等諸機械ヲ運轉セシムルタメ二組ノ蒸汽機關アリテ、其馬力一ハ十他ハ二十ヲ有ス。「フハウンダリー」「バータン」ノ兩工場ハ相連接シテ該屋宇ノ端隅ニアリ、「キユポラ」「クレーン」等ノ裝置我ガ造船所ニ於テ見ル所ノモノニ異ラズ。要スルニ該工場ハ開設以來星霜ヲ經ルノ久シキ其體裁殆ンド完キガ如シト雖ドモ、其裝備スル所ノ諸機具ハ何レモ舊時ノモノタルニ過ギズ。之レ其期スル所唯艦船ノ修補ニ止マリ、該新計畫ノ工事ハ一ニ之ヲ本國ニ仰グガ故ニ、敢テ鋭意以テ其改良擴張ヲ計ラザルニ由ル。當時該造船所ノ占ムル所ノ地圍凡四十五萬平方碼、其日々使役スル工夫ノ數凡ソ九百人ナリト云フ。伍長以下ノ工夫多クハ土人ヲ役ス。聞ク所ニヨレバ該工場ニ於テ年々修補スル所ノ船舶ノ數平均四五十艘ナリト。蓋シ全印度領内ニ於ケル造船所中ノ首堅タルモノニシテ、彼ノ「カルカツタ」ニ於ケル「キダポール」工場ノ如キモ亦之レニ及バズト謂フ。

以上ハ孟買市中ニ現在セル諸機關工場ニ就テ其大要ヲ略陳セシ所ノモノナリ。以下一轉シテ紡績

工場ニ關シ聊カ見聞セル儘ヲ摘錄セントス。

近代印度ニ於ケル紡績事業ノ大ニ發達シテ頓ニ彼ガ富源ヲ開發シタルノ事實ハ夙ニ世ノ認識スル所ニシテ、就中孟買州ニ於ケル既往二十年間ノ斯業ノ勃興隆起ハ特ニ其著シトスル所ナリ。抑モ孟買港ハ彼ノ北米「オルレアン」港ト東西竝ニ立テ世界ノ二大綿港ト稱セラレ、其年々此地ニ輻集湊合シ來ル所ノ棉花ノ量額無慮七百萬「ハンドレットウエート」、其之ニ相當スル所ノ金額實ニ百二十萬磅ナリト謂ヘリ。若夫レ彼ノ「コツトン・グリーン」（孟買市ニ於ケル有名ナル棉花ノ大市場ノ名）ニ於ケル取引ノ忙劇雜駁ナル狀況ヲ窺フモノ、若クハ彼ノ幾多ノ紡績煙突ガ滔々タル黑烟ヲ吐テ雲際ヲ薰スルカヲ疑ハシムルノ壯觀ヲ目擊スルモノ、誰カ又斯業ノ隆昌、盛榮ナルヲ想見セザルモノアラン。宜ナリ印度綿絲ガ近年「マンチエスター」ト拮抗シ大ニ聲價ヲ東洋ノ市場ニ博シツヽアルヲ。

左表ハ東洋ノ大華主タル淸國ニ年々輸入シ來ル綿絲ノ量額ナリ。近年印度產綿絲ガ如何ニ英國產ヲ壓倒シツツアルカ蓋シ瞭然タルベシ。

年次	英國ヨリ輸入高（擔）	印度ヨリノ輸入高（擔）
一八八九年	五〇一四四、三五	六二八四一三、四九
一八九〇年	八八三四九、六九	九九三一四五、二六
一八九一年	七三〇五八、五二	一一三八〇八三、七三
一八九二年	四九〇一九、三九	一二五四四八九、六四

以上ノ表ニ據テ見ルニ淸國ハ年ヲ追フテ其需用ヲ增加シツツアルニ英國ヨリノ輸入ハ次第ニ減退シ印度絲獨リ增加スヲ見ル

孟買州ニ於ケル紡績事業ガ如何ナル趨勢ヲ以テ今日ノ盛榮ヲ致スニ至リシヤ、少ク玆ニ陳ブル所アラン。抑モ汽關的紡績機ノ初メテ此地ニ輸入セラレシハ未ダ僅ニ四十年以前タルニ過ギズ。而テ其當時ニ在テハ此業ニ從事スルモノ皆機械的製作ノ利便ヲ知ラザリシガタメ、其年ニ製出スル所ノ量固ヨリ微々トシテ內地ノ需用ヲ充タスニ足ラザリキ。然レドモ其原料タル棉花ハ固ト之レ此國特殊ノ大產物タルヲ以テ、當時既ニ汎ク之ヲ海外ニ輸シ、專ラ其製作ヲ他國ニ仰ギタリ。然ルニ千八百五十四年孟買紡績會社ナルモノ創立セラレ、始メテ彼ノ機巧ナル紡績器械ヲ採用スルニ至リテヨリ、爾來年々此業ノ繁盛ヲ來シ、其後十年ヲ經ザルニ既ニ十三ケ所以上ノ同業會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ。次ノ表ハ孟買紡績協會報告書中ヨリ轉載セシ所ノモノナリ。千八百六十六年以降此地紡績事業ノ發達セル程度ヲ徵スルニ足ラン。

則チ昨年末ノ調査ニ據レバ紡績機ノ數總計九十八、其運轉錘數二百四十九萬九千二百十一ニシテ、其年內消費原料ハ實ニ二百九十三萬四百三十八「ハンドレットウエート」ノ多キニ及ベリ。

表ノ示ス所既往二十年間ニ於ケル其發達進步ノ速カナル亦驚クベシ。現今我國紡績事業大ニ隆起シ、各地紡績所ノ數四十有餘ニ及ベルモ、其錘數未ダ三十六萬本（二十六年四月）ニ過ギズ。之レニ當時迄新企增設ノ企畫中ニアルモノヲ加ルモ（合計六十五萬七千餘）尙ホ孟買一州ノ四分一タルニ及バズ。然リト雖ドモ現時我國ニ於ケル該業發達ノ速度ハ彼レニ比シ一層ノ著キヲ見ル、則チ二

年次	紡績臺ノ數	運轉錘數	紡績機ノ數	工夫ノ數（一日ノ平均）	消耗棉花（三百九十二磅入梱）
1866	13	309911	3455	7733	不詳
1867	〃	313597	3779	8630	
1868	〃	318184	3844	8715	……
1869	〃	321414	3920	8857	……
1870	14	343460	4441	9503	……
1871	〃	358436	4641	9953	……
1872	15	367036	4653	10216	……
1873	18	450156	4972	12217	74924
1874	19	524530	6003	13323	91329
1875	36	886098	8339	15696	……
1876	39	963983	8681	……	……
1877	41	1043944	9291	24174	179800
1878	42	1104846	11544	31670	232048
1879	〃	1147310	12311	34482	212744
1880	〃	1154184	12396	35060	257708
1881	〃	1158510	12510	37028	311932
1882	49	1237536	13046	37567	314928
1883	51	1245042	13616	40977	354232
1884	60	1524499	14299	44900	413028
1885	68	1650036	14588	51426	465980
1886	70	1698797	14635	54179	480344
1887	75	1779220	14926	54715	542456
1888	82	1820368	15564	59199	597066
1889	91	2002994	16677	65580	667698
1890	94	2356728	17735	73209	751986
1891	91	2360170	18487	78121	893080
1892	96	2380178	19117	79951	849490
1893	98	2499211	21425	83965	837268

十五年產出ノ綿絲額ヲ以テ之ヲ二十年度ニ比スルトキハ凡ソ十倍ノ增大ヲ以テセリ。特ニ近時銀貨暴落ノ變動ニヨリ我國製出綿絲ノ需要益々好況ヲ呈シ來リ、加フルニ從來地味不適ナリトシテ顧ミザリシ所ノ原料洋綿ノ試植近時各地共頗ル好成績ヲ得ルニ至リシ等、旁以テ此業ノ前途亦有望ナルヲ期セラルルモノノ如シ。今左ニ我國綿絲ノ產出高ヲ揭ゲ對照ニ便ニス。

年次	運轉錘數	綿絲產出高（貫）
明治二十年	七〇二二〇	一一六五〇七三
同 二十一年	一一三八五六	一五九三一〇三
同 二十二年	二一五一九〇	三三五八〇四二
同 二十三年	二七七八九五	五一三二五八八
同 二十四年	三五三九八〇	七六八九九三八
同 二十五年	……	一〇三一六〇一六

當時孟買州中ニ現在スル紡績會社ノ總數九十三ニシテ、內六十四ハ孟買市中ニアリトス。其多數ハ何レモ合資、株式ノ組織ニ成ル。其拂込資本ノ最高ナルモノハ四百萬「ルピー」（一留ハ英貨十六片）ニシテ、最低ナルモノハ二十二萬二千五百留ナリ。而シテ其內ニ就キ屈指ノ有名ナルモノハ、Alliana Cotton M Co. Orier tal S & W Co. Colaba lard & Mill Co Manackjee petite

M Co. Sarron S & W Co. Smaderhi.

等ニシテ何レモ百五十萬留以上ノ資本ヲ有スルモノタリ。

孟買州中是等九十有餘ノ紡績所ニ於テ日々使役スル所ノ工夫ノ數ハ平均八萬三千九百六十六人ニシテ、是等工人ノ手ニヨリ日々消費スル原料(棉花)凡ソ十萬斤ニ上ルト云フ。印度ニ於ケル紡績業開始ノ濫觴ヲ尋ネルニ、實ニ千八百五十一年「ナナベーコウス・デー・デバー」ナルモノ初メテ一臺ノ紡績機ヲ孟買市ニ輸入シタルニ始マルト云フ。然レドモ世ノ傳フル所ニヨレバ、先是「ベルガル」州ノ「フーレー」河畔ニ於テ既ニ一紡績所ノ設立ヲ見シト雖ドモ、何レノ年何人ノ手ニ由テ初メテ成リシヤヲ審ニセズ。而シテ前記「デバー」氏ハ千八百五十四年ニ至リ一ノ株式會社ヲ起シテ盛ニ其製造ヲ初ムルニ至リテヨリ、續テ「マノクヂー・ペタイト」氏以下漸次此業ヲ起スモノ多ク、其後十年ヲ經ザルニ既ニ十三ケ所ノ增設ヲ見ルニ至レリ。

而シテ此後十一年ヲ經過セル千八百七十六年ニ至リ、印度全州ニ於ケル紡績所ノ數ハ四十七ニ達シ、其運轉錘數ハ百十萬餘ニ及ベリ。而シテ其内三十七ノ紡績所ト九十六萬有餘ノ錘數トハ實ニ孟買一州ニ屬スル所タリ。當歳以後印度國特ニ孟買州ニ於ケル增設ハ特ニ著キヲ見ル。印度紡績聯合協會ノ報告ハ明カニ是等ノ事實ヲ證明セリ、則チ左表ノ如シ。

年次	印度全州ニ所在スル紡績臺ノ數	同上錘數	同上紡績器械數	孟買州ニ所在スル紡績臺ノ數	同上錘數	同上紡績機械數
千八百九十年	一三七	三一七四一九六	二三四三一	九四	二三五〇七六	一七七三五
千八百九十一年	一三四	三三五一六九四	二四五三一	九一	二三六〇一七〇	一八四八七
千八百九十二年	一三九	三四〇三三三	二五四四四	九六	二三八〇一七八	一九一一七

而シテ昨年末ノ調査ニ據レバ孟買州ニ於ケル現在ノ紡績臺ハ九十八、其運轉錘數ハ二百四十九萬九千二百十一、紡績器械二萬一千四百二十五ニシテ、其拂込資本總額一億〇〇七十八萬七千八百九十七留ナリト云フ。

株式組織ヲ以テ成ル所ノ諸紡績會社ハ總テ一定ノ條例ヲ遵守シ「ボールド・オフ・ダイレクトル」ノ管轄ニ屬スルモノナリ。玆ニ少ク組織ニ就テ陳ベンニ、各會社ニハ必ズ一ノ支配人ヲ置キ、棉花、石炭其他需品ノ購買竝ニ製産綿絲織物等ノ賣捌方等重要ナル事項ヲ擔當セシム。之ヲ稱シテ「セクレター或ハフアーム・オブ・エヂエント」ト呼ベリ。而シテ是等支配人ニ對スル報酬ハ通常産出綿絲一英斤ニ付キ三「パイス」ノ割ヲ以テ給スト云ヘリ。「セクレタリー」ノ次席ニ位スルモノヲ「マネーヂヤー」ト云フ。所謂技師ニシテ百般ノ工事ヲ監督シ、兼テ工夫等ガ身上ノ取締ヲナス所ノモノタリ。彼ハ技術ニ於テ極メテ老練ニ最モ經驗ニ富ミ、且ツ敏達ナルモノヲ要ス。其俸給ハ通常四百乃至千留ナリトス。此他「ヂヨバー」ナルモノアリ、是レ老巧ニシテ術務ニ長ジタル職夫ヲ拔選

シテ命ズル所ノモノニシテ、通常五十留ヨリ百五十留迄ノ俸給ヲ受クルト云フ。他ニ尙ホ若干ノ機關手ヲ置ク、之レ專ラ汽機汽罐ヲ管理スル所ノモノニシテ紡績機ノ運轉上ニ付テハ一切關セザルモノナリ。

工夫日常ノ狀態ニ關シテハ政府モ亦之ヲ等閑視セザルモノニ似タリ。現時彼等ガ起居動作ノ疾苦如何ヲ取調ンガタメニ特ニ委員會ヲ設ケタリト云ヘリ。

工夫等ガ日々服スル勞働ハ晨曉ヨリ黃昏ニ至ル短カラザル時間ナリト雖ドモ、此間彼等ハ二度ノ食事休息ノ外ニ尙ホ自由ニ喫煙ヲ許サル。而シテ此他尙彼等ハ一年若クハ二年毎ニ樂シキ鄕里ニ歸着スルコトヲ得ベク、以テ一家團欒ノ快ヲモ味ヒ得ベキナリ。

工夫ノ多數ハ大抵男子ヲ以テ成ル、間々小童ヲシテ助手タラシムルモ、十二歲以下ハ條例ニ因テ使役ヲ禁ズル所ナリトス。

婦女ハ多ク之ヲ「リーリングルーム」內ニ働カシムルヲ常トセリ。工夫ノ給料ハ何レモ月極メヲ以テセズシテ彼等ガ勉否ニヨリ結果スル所ノ仕上高ニ應ジテ給スト云フ。

紡績機竝ニ其所屬機關等ハ英國ヨリノ輸入ニカカルモノ多シ。現時最モ汎ク此地ニ採用セラルルモノハ、

Meorrs Howard & Bullaugh, Mr Bonjamin Yoodfellaw, Messrs Tinker sheuton.

等ノ製造セルモノ多シト云フ。

石炭ニ就テ

世界ノ各產地ヨリ孟買ヘ向ケ發送シ來ル石炭ノ輸入年額ハ其幾何タルベキヤ、未ダ此種ノ統計表ヲ得ザルヲ以テ其精細ナルヲ考査スルニ由ナシト雖ドモ、其額ノ比較的ニ多カラザルベキハ蓋シ確認シ得ベシ。夫レ孟買ハ印度領內ニ於ケル首位ノ港津ニシテ帆檣常ニ林立シ、船舶ノ出入最モ頻繁ヲ極ムト雖ドモ、從來此地ニ於テ石炭ノ搭載ヲ行フモノ割合ニ尠ク、定期ノ航行ヲナスモノスラ尙ホ石炭補充ノ一事ノミハ特ニ他港ニ於テ行フモノノ如シ。是レ實ニ怪訝ノ感ナキニ非ズト雖ドモ、價格ノ不廉蓋シ之ガ原因ノ礎ナルベク、而シテ因襲ノ久シキ慣例トナリ、是等ノ風ヲ馴成スルニ至リシナランカ。此地ニ輸入シ來ル外來石炭ハ英ノ「カヂフ」炭最モ多キヲ占ム、(英ノ「ノースカントリーコール」亦時トシテ輸入セラル)次ハ濠洲產石炭ナリ。此國ノ內地ニ於ケル炭田亦乏シキニ非ズト雖ドモ、其品質極メテ劣等ナルガ故ニ、他種ノ良炭ト混交シ燃焚セシムルニ非ザレバ到底單用スル能ハズト云フ。斯ノ如ク此地土產ノ炭質不良ナルガ故ニ、常ニ外國產ノ供給輸入ヲ仰グト雖ドモ、其原產地タル何レモ遼遠ニシテ、運漕上價格ヲシテ之ガ騰貴ヲ來サシムルハ理ノ正ニ然ル所ナリトス。近時我郵船會社新タニ航路ヲ此地ニ開キ、我國產出ノ三池炭ヲ輸送シ、以テ其販賣ヲ

試ムルニ至リ、又炭質ノ上ヨリ論ズルトキハ我三池炭ハ到底彼「カーヂフ」炭若クハ濠州炭ニ比シ劣ル所ナリト雖ドモ、我ノ恃ム所唯價格ノ低廉ナルニ在リトス。而シテ亦恐ルル所ハ其價格ノ極メテ低廉ナルガ故ニ、未ダ其品性如何ヲ知悉セザル彼等ハ徒ラニ劣惡採ルニ足ラザルモノトシテ擯斥シ去ルガ如キ傾向ナキヤ否ヤニ在リ。今日ノ處我航路開始以來日尚淺キガ故ニ、其評言スル所果シテ如何ナルヤ未ダ彼等ガ舌頭ニ上ル所ノモノヲ聞クヲ得ザリシト雖ドモ、今後續々輸入シ來ルニ當テハ石炭市場其影響スル所モ尠カラザルベク、隨テ其眞價モ評定サルルニ至ラン。抑我國ニ於テ石炭ヲ需要スルハ內地ノ紡績業者ノ消費額最モ多キニ居ル。而シテ彼等ハ業務上高價ナル英炭ノミヲ燃用スルハ經濟上許サザル所トシテ（英炭一噸凡ソ二十一二留合炭凡ソ十七八留）何レモ皆土產ノ石炭ト混用シツツアルガ故ニ、若シ幸ニシテ我國產ノ廉價ナル石炭ノ以テ、彼等ガ意向ニ適スルニ至ラバ、此地ニ於ケル我國石炭ノ販路ハ實ニ著シク增大セラルベキハ論ヲ俟タズト雖ドモ、是等混炭使用ノ積慣ハ永年ノ久シキ充分ナル滿足ヲ以テ深ク彼等ガ腦裡ニ刻徹セルガ故ニ、先入主トナレル此慣習ヲ打破シ、以テ我炭ヲシテ取テ之ニ代ハラシムベキコトノ稍ヤ難事タルベキハ之ヲ萬事ニ徵シテ明カナリ。故ニ我石炭モ其當初間ハ唯試賣ニ附スルノ考ヲ以テ其輸送額ヲ制限シ、成ルベク少額ヲ輸シ、靜カニ以テ彼等ガ意嚮ヲ察シ、漸次增輸ヲ企ツベキナリ。徒ラニ其廉價ナルヲ恃ンデ多額ヲ輸入スルハ却テ其品位ヲ失墮セシムルノミ。

「ヴヒクトリヤ」船渠ニ接近シテ濱岸ニ「コールバンダー」ト稱スル地アリ、所謂石炭河岸ノ謂ナリ。艦船ニ上下スル石炭ハ皆一ニ此處ニテ取扱フモノトス。岸ニ接シテ壯濶ナル石炭置場アリ、平常二三千噸ノ石炭ヲ貯フト云フ。該置場ハ唯野原ニ凡ソ四五百噸位ヅツ一纏ニ積上ゲテ互ニ區劃ヲナシ、之ニ番號ヲ附セルノミニテ、雨露ヲ凌グノ層蓋ヲ設ケズ。是レ此地降雨ノ極メテ稀ナルニ因テ然ルナリ。

此地石炭ノ販賣ヲ業トスルモノ三商アリ、共ニ「パーシー」ト稱スル種屬ノ營ム所トス。此地尙ホ石炭ノ請負、取引若クハ小賣ヲナスモノ甚ダ多シ。世界ノ諸港到ル所トシテ彼等石炭商ハ其顧客ヲ需ムルノ切ナル相反目シテ競爭スルヲ常トスト雖ドモ、此地ニ於ケル商人ハ敢テ互ニ著ク競爭ヲナサズ、而テ會々以テ多額ノ需用者此地ニ入港スルヲ聞知スルトキハ奇貨措クベシトナシ、彼等相結托シテ價格ヲ昂ゲ以テ不正ノ利ヲ擅ニスルガ如キ惡弊應々之レアリト謂フ。今回本艦搭載セシ石炭ハ前記三商中ノ一人ナル「ダダベーハルムスヂエー」ト稱スルモノヨリ納メシム。一噸ノ價格二十一「ルピー」半（時價凡二十七志）品種「カーヂフ」其質先ヅ佳ナリ。蓋シ此地ニテ常ニ最上ノ英炭ヲ需ムルハ稍ヤ難事タルベシ。何トナレバ前既ニ陳ベシ如ク此地艦船用石炭ノ販路大ナルガ故ニ、採掘原地ヨリノ炭船亦重キヲ玆ニ措カズシテ發船後途次各「コールステーション」ヲ訪ヒ、其需要ノ有無ヲ問ヒ、尙ホ剩餘ヲ殘スニアラザレバ此地迄回漕シ來ラズ。特ニ船ヲ艤シ此地ニ炭船ヲ

發向スル等ノコトハ未ダ聞カザル所ナリト。之レ固ヨリ傳聞スル所其言フ少ク酷ニ過グルヲ覺フト雖ドモ、亦以テ其一班ヲ推知スベキノミ。

終ニ臨ミ本港ニ於テ石炭積込ヲ行ヒシ當日ノ模樣ヲ少ク玆ニ述ブベシ。

本港灣ニアツテ石炭搭載ヲ行フニハ四月ヨリ十月ニ至ルノ間、則チ所謂南西信風ノ季節ニ際シテハ風威常ニ强烈ニ怒濤奔漲シ、「コールライダー」ヲ艦側ニ接シテ繫留スルコト難キガ故ニ、該季節ニ在テハ港内深ク潛入シ、「ベーシン」中ニ繫泊セザルヲ得ズ。本艦ノ今回寄港セシハ方言「シーゾン」ト稱スル最モ平穩ニ際シ、風靜カニ波ナク暑氣亦酷烈ナラザリシヲ以テ積込ニ當リ動作上最モ便ナリキ。搭載ノ額ハ五百噸ニシテ、商人ハ豫メ其量額ヲ見積リテ四艘ノ「ライダー」ニ積載セ來レリ。石炭ノ計量ハ二十三杯ヲ以テ一噸トセル小笊ヲ以テ積込ミノ際一々其數ヲ算ス（但シ積込ミヲ初ムルノ前石炭ヲ盛リタル右小笊ヲ天秤ニ掛ケ、其量目ヲ檢セリ。而シテ積込ミノ際自然紛散逸出スル粉炭ノ量ヲ見込ミ談判ノ上一笊ヲ加算シ二十四笊一噸トナス）積込人夫ノ外ニ炭庫内ニ入テ炭塊ノカキナラシ方ヲナサシムルタメ、若干ノ「コールトリマー」ヲ傭入レタリ。午前七時三十分積込ヲ初メ午後六時ニ終ル。人足ハ皆「ヒンヅー」ト稱スルモノニテ赤布ヲ卷テ帽トセル黑色ノ土人ナリ。彼等ハ多少英語ヲ解ス。擧止動作活潑ナラザルモ又甚シク懶惰ニモアラズ。五百噸ノ石炭積入ヲナスニ終日ヲ費スハ少ク遲緩ニ失スルノ感ナキニ非ザルモ、本艦炭庫ノ構造上ヨリ考フルトキハ亦無理ナラヌコトヽ云フ可ク、且ツ從來各港ニテ搭載セシ所ノモノト比スルモ決シテ遲キ方ニハ非ザル可シ。

右及報告候也

明治二十七年二月

海軍少機關士　鈴木富三
海軍大機關士　中島與曾八
同　鈴木三郎
同　三宅甲造
海軍機關少監　深見鐘三郎

吉野艦長　河原要一殿

孟買衞生ノ狀況

孟買港ハ印度國西海岸中ノ都會ニシテ、貿易ノ中心トナリ、位置ハ北緯十八度五十三分四十五秒、

東經七十二度五十二分ニ位スル一小島ナリ。然レドモ現今ハ鐵道築道ノ爲メ印度大陸ト連續シテ半島狀ヲ形成シ、面積ハ二十二平方哩アリ、大半ハ平地ニシテ只ダ小山脈二線アリ、其最モ高キヲマラバル丘ト稱ス、但シ海面ヨリ百八十尺アルニ過ギズ。

（天候） 孟買ハ他ノ熱帶地ト均シク夏期ノミニシテ之ヲ四季ニ區別スルヨリハ寧ロ乾燥濕潤ノ二期ニ區別スベシ。卽チ每年十一月ヨリ翌年四月迄ハ乾燥期（快晴期）ニシテ、連日降雨ナク、東北ノモンスーン風ハ陸上ヨリ徐ロニ吹キ、熱度稍ヤ緩漫（八十度內外）トナリ、就中一二月ノ頃ヲ良季節トス。五月ヨリ十月迄ハ濕潤期（梅雨期）ニシテ、西南ノモンスーン風ハ海上ヨリ烈シク吹キ來リ、晝夜降雨連續シ、氣溫百度以上ニ昇リ、九月十月ノ頃ニ至リ降雨減少シテ日中一層炎熱ヲ增シ、夜間ハ冷氣トナリ、晝夜寒暖ノ差十度餘ニ及ブコトアリト云フ。

（人種人口） 世界中何レノ國ニ於テモ孟買ニ於ケルガ如ク異人種異宗者ノ集合セル處ハアラザルベシ。之レヲ大別スレバ印度人、パーシー人、歐洲人、亞羅比亞人、土爾其人、マレー人、支那人、亞部矢尼亞人、ヂユー人、亞兒米尼亞人、等ニシテ、各々其宗旨ヲ異ニシ、風俗習慣等モ亦タ其宗旨ニ從ヒ異ナレリ。故ニ動モスレバ互ニ軋轢ヲ生ジ、鬪爭絕ユルコトナシ。今爰ニ孟買ノ人口ヲ宗旨ニ從ヒ區別スルトキハ左ノ如シ。

	ヒンツー	マホメット	ジエインス	クリスチヤン	パーシース	ヂユウ	佛教徒	アジースト	アグノスチツク	ブラモ	合計
男	三四五八一五	九五〇六五	一九三一七	三〇四三七	二四七〇五	二五九〇	一三七	一一	四	一三	五一八〇九三
女	一九七四六一	六〇一八二	五九〇八	一四八七三	二三七五三	二四三一	五三	五	二	三	三〇三六七一
合計	五四三二七六	一五五二四七	二五二三五	四五三一〇	四七四五八	五〇二一	一九〇	一六	六	一五	八二一七六四

紀元千八百八十一年ニ於テハ孟買ノ人口七十七萬三千百九十六人ナリシモ、其後チ十年間ニ四萬八千五百六十八人ノ增殖ヲ見ルニ至レリ。而シテ各宗旨共男女ノ敎非常ノ差アルハ政事上或ハ商業上ノ爲メ、男子ノ獨身者他國ヨリ移住シ、終ニ土著スル者多キガ爲メナリ。又日本人ニシテ當地ヘ居住スル者ハ男十五名女二十五名アリ。其內五六名ハ綿花會社ヨリ派遣シタル社員ニシテ正業ヲ營ムト雖モ他ハ賤業ニ從事スル者多シ。

（戶數） 孟買ノ戶數ハ二萬九千八百十二戶アリ、其內千五百二戶ハ空家ニ屬シ、全人口ノ內一千七百二十二名ハ貧民ニシテ家屋ヲ有セズ道路ニ眠食ス。故ニ全人口ヲ家屋全數ニ分割スルトキハ一家ニ付二十八人ヅヽ同居ノ比例トナレリ。卽チ一家ハ一家族ノ所有ニアラズ、數家族之レニ居住シ廣大ナル家屋ニハ五十家族已上ニ居住スルモノアリト云フ。

（體格） 土民ノ體格ハ男女共ニ日本人ニ比スレバ大ナル者多シ。然レドモ筋肉ノ發育不完全ニシテ菲薄骨立シ力量ニ乏シク動作活潑ナラズ、皮色ハ暗褐色ニシテ體毛多ク皮膚ニ色澤ナシ。顏貌ハ

眼球陷凹觀骨隆起シ鼻梁高ク眉毛濃厚前額狹少ナリ。一見以テ疲勞ノ狀ヲ呈ス。バーシー人ハ男子ニ在テハ骨格ノ偉大ナルコト殆ンド歐洲人ニ讓ラズ、皮膚ノ色澤ハ日本人ニ比シ稍々暗色ヲ帶ビ體毛ニ富ム、婦人ハ皮色蒼白體格小ニシテ一般ニ軟弱ノ狀ヲ呈ス。

（衣服） 宗派ノ異ナルニ從ヒ衣服及ビ外粧ニモ多少ノ差異アリ、バーシー教徒ノ男子ハ一種ノ冠然タル黑帽ヲ頂キ、外套ノ如キ長背膚及白袴ヲ著シ、靴ヲ穿ツ。女子ハ薄キ絹布ヲ頭部ヨリ軀體ニ至ル迄被ヒ帽ヲ用ヒズ、腰下ニハ歐風ノ袴ヲ着シ、靴ヲ用ユ。且ツ耳輪頸圍手腕及ビ手指ニハ歐人ニ於ケルガ如ク價値アル金銀寶石ヲ以テ裝飾トス。

ヒレヅーCマホメツト宗及ビ其他ノ土民ノ服裝ハ略ボ一樣ニシテ、男ハ上部ニ白色ノ金布ヲ纏ヒ、腰下ニハ着色シタル布片ヲ卷キ其一端ヲ股間ヨリ後方ニ適過シテ腰部ニ固着シ、一般ニ靴ヲ穿タズ。但シ時トシテハ一種ノ奇形ナル靴ヲ穿ツ者アリ。又タ支那人ノ如ク頭頂ニ少許ノ毛髮ヲ蓄ヘ、他ハ剃髮シテ赤色或ハ白色ノ綿布ヲ幾重ニモ卷纏シ、或ハ稀レニ帽ヲ頂ク者アリ。而シテ宗旨ヲ區別スルニ前額中央ニ横徑或ハ縱徑ニ畫クアリ、或ハ圓形ニ赤黃色等ヲ畫キ以テ區別スル者アリ。女子ハ束髮ヲ爲シ帽ヲ用ヒズ。被服ハ着色シタル大幅ノ金布ヲ以テ巧ミニ頭部ヨリ軀體ヲ被包シ、腰部以下ハ男子ニ於ケルガ如ク布片ヲ纏ヒ、通常洗足ナル者多シ。又女子ハ裝飾ノ爲メ耳輪鼻翼ヲ穿チ、金銀寶石ヲ飾リ、頸圍手腕手指下脚足趾等ニモ同樣ノ裝飾ヲ爲ス。

（食物） 土民ノ食物ハ一般ニ粗惡ニシテ、宗旨上ノ爲メ殆ンド肉食スル者ナク、中等以上ノ者ハライスカレー及ビ野菜ヲ以テ常食トナシ、下等社會ハ米糠ヲ焙リ水ニテ固メ、之レニ食鹽トカレーヲ加ヘタルモノヲ喰ヒ、牛乳ヲ飲用スル者多シ。且ツ食事ノ度數ハ朝夕二回ニシテ晝飯ヲ爲サズ、又食事ヲ爲スニハ食卓ノ設ケナク、床上ニ安置シテ皿ニ盛リタル食物ヲ手指ニテ喰ヒ箸ヲ用ヒズ。飲酒ハ元來宗旨上ヨリ彼等ノ忌ム處ナレドモ、時トシテ飲酒スル者ナキニアラズ。其酒類ニ種〻アリト雖モ普通飲用スベキモノハ恰モ耶子樹ノ如キ「モール」ト稱スル高キ樹木ヨリ得タル物ニシテ、コヽア汁ノ如キ白色ヲ帶ビ、其味ヒ美ニシテ凡ソ十ペルセントノ亞爾筒保兒分ヲ含有ス。此樹木ヲ所有スル者ハ酒稅トシテ毎年該樹木一本ニ付六ルピーヅヽ徵收セラルヽト云フ。又彼等ノ風習トシテ他宗家ニ到リ飲酒喫食スルヲ忌ム。若シ他ノ宴會等ニ臨ムコトアルトキハ、飲水並ニ菓物ヲ食スルハ例外ナリト云フモ敢テ之ヲ好ムニアラズ。曾テ本艦ニ茶話會ヲ開キタル際、數多ノ印度人來艦セシモ一人トシテ食セシ者ナシ。喫煙ハ彼等ノ嗜ム處ナレドモ、宗旨ノ禁ズル爲トナリ、他人ノ面前ニ於テハ決シテ喫煙スルコトナク、私カニ使用スル者アリ。且ツ或ル部分ニ於テハ支那人ノ如ク阿片ヲ飲用スル習慣アリ。之レガ爲メ中毒ヲ發シ入院治療ヲ乞フ者少カラズ。又彼等ノ旅行スルトキハ必ズ飲食物並ニ器物ヲ携帶スルヲ例トス。

バーシー人ノ食餌ハ歐洲人ト殆ンド同樣ニシテ、食事ノ體裁モ略ボ歐人ニ類ス。

孟買市ハ元來穀物並ニ獸肉ニ乏シキ地タリシモ、政府ノ奬勵ニ依リ近來ハ大ニ增殖シテ諸種ノ食物ニ富ミ、肉類野菜麵包類ノ如キモ廉價ニシテ不足ヲ感ズルコトナシ。本艦碇泊中ノ食物代價表ヲ擧グレバ左ノ如シ。

牛肉	一瓩ニ付	一ルピー	家鷄	一ダースニ付	六ルピー八アンナ
麵包	一二瓩ニ付	一ルピー	茶	一瓩ニ付	十三アンナ
七面鳥	一羽ニ付	三ルピー八アンナ	水兵用ビスケット	一一二瓩ニ付	十ルピー
家鴨	一ダースニ付	八ルピー八アンナ	珈琲	一一二瓩ニ付	三十九ルピー
牛酪	一瓩ニ付	十三アンナ	鷄卵	一ダースニ付	四アンナ
ミルク	一ダースニ付	四ルピー九アンナ	野菜	一瓩ニ付	平均一アンナ
カレー	一二瓩ニ付	五ルピー八アンナ	バナナ	一ダースニ付	三アンナ
羊肉	六瓩ニ付	一ルピー	パインアップル	一個ニ付	六アンナ
魚肉	一瓩ニ付	四アンナ	砂糖	一一二瓩ニ付	十七ルピー
鳩	一ダースニ付	三ルピー十四アンナ	氷	一瓩ニ付	半アンナ

（飲用水） 飲用水ハ孟買市ヨリ十五哩ヲ距ルビアー湖ト、ルシ湖（二十四夊三十二應ノ鐵管ヲ敷設ス）及ビ五十哩ヲ隔ツルタンサ湖（四十八應ノ鐵管ヲ敷設ス）ヨリ鐵管ヲ設置シ、市内西北部ノマラバル丘及ビ東北部ノバンダワダ丘ノ二ケ所ニ設ケタル貯水池ニ導キ同所ニ於テ濾過シ、水壓ポンプニ由リ大小數種ノ鐵管ヲ以テ市内各所ヘ配給スルノ裝置ナリ。市會報告ニ由レバ大約一日ニ費用スル水量ハ二千九百萬瓦倫ニシテ、人口一人ニ付三十六瓦倫餘ノ割合ナリ。但シ以上三湖ノ水量ハ非常ニ多量ニシテ、降雨ノ時季ニ際スルトキハ汎濫スルノ量市内配給ノ量ニ數倍セリト。故ニ曾テ水量ニ不足ヲ告ゲタルコトナシ。水質ハ當市會報告ニ係ル試驗成績表ニ由レバ左ノ如シ。

	バンダアワダ貯水地ニ於ケル濾過セサル「ピアー」湖ノ水			マラバア丘貯水地ニ於ケル濾過セサル「トルシ」湖ノ水			マラバア丘貯水池ニ於ケル濾過シタル「トルシ」湖ノ水			アーザーロードニ於ケル「タンサ」湖ノ水		
	遊離安母尼亞百萬ニ付比例	蛋白質性安母尼亞百萬ニ付比例	格魯林一ガロンニ付屯ノ量	遊離安母尼亞百萬ニ付比例	蛋白質安母尼亞百萬ニ付比例	格魯林一ガロンニ付屯ノ量	遊離安母尼亞百萬ニ付比例	蛋白質安母尼亞百萬ニ付比例	格魯林一ガロンニ付屯ノ量	遊離安母尼亞百萬ニ付比例	蛋白質性安母尼亞百萬ニ付比例	格魯材一ガロンニ付屯ノ量
千八百九十二年四月八日	〇、〇二	〇、一八	〇	〇、〇五	〇、一八	〇	〇、〇四	〇、〇五	〇	〇、〇六	〇、一〇	〇
四月二十日	〇、〇四	〇、一六	〃	〇、一〇	〇、一四	〃	〇、一一	〇、一一	〃	〇、〇九	〇、〇九	〃
六月一日	痕跡	〇、〇八	〃	〇、一〇	〇、一三	〃	〇、〇一	〇、〇三	〃	〇、〇一	〇、〇六	〃
七月二日	〇、〇五	〇、一〇	〃	〇、〇五	〇、一七	〃	〇、〇〇	〇、〇〇	〃	〇、〇〇	〇、一一	〃
七月四日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八月一日	〇、一五	〇、一六	〃	〇、〇四	〇、一三	〃	〇、〇六	〇、〇三	〃	〇、〇五	〇、〇七	〃
九月一日	〇、〇二	〇、〇七	〃	〇、〇一	〇、九六	〃	〇、〇五	〇、〇六	〃	〇、〇五	〇、〇五	〃
十月一日	〇、〇一	〇、〇八	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十月三日	〃	〃	〃	ナシ	〇、〇九	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
十二月一日	〇、〇三	〇、〇七	〃	〇、〇八	〇、〇七	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
千八百九十三年一月三日	〇、〇五	〇、〇六	〃	〃	〇、一四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一月五日	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	ナシ	〇、〇四	〃

本艦ニ於テ試驗セシ成績左ノ如シ。

色	臭味	反應	鹽分	石灰	安母尼亞	硫酸	亞硝酸	硝酸	有機物
無色透明	無臭無味	中性	少量	ナシ	ナシ	ナシ	少量	痕跡	ナシ

已上ノ成績ニ由ルトキハ其質純良ナリト云フヲ得ズ。故ニ爾後當港ヘ寄港スベキ船艦等ニ於テハ可及的蒸溜水ヲ用ユルヲ可トス。若シ已ムヲ得ザルトキハ煮沸ノ上飲用スルヲ安全トス。

飲用水代價ハ一噸ニ付一ルピー十二アンナリ。而シテ飲用水ヲ運搬スルニハ小蒸汽船ヲ用ヒ、蒸氣ポンプニテ艦内ニ汲入スルヲ以テ輕便トス。

（暗渠） 暗渠ハ歐人居留地及ビ土民町ノ一分ニ布設サレタルノミニシテ、未ダ全市ニ普及スルニ至ラズ。且ツ其構造ハ鐵管ヨリ成ルト雖モ、動モスレバ損所ヲ生ジ汚水管外ニ漏ルヽコトアリ。決シテ完全ナルモノト云フヲ得ズ。之ガ爲メ市内ニ不健康ヲ來タシ、衞生上ノ缺點少カラザルヲ以テ市會ニ於テハ下水ノ增設及其改良ヲ主張スル者多シト云フ。

（住居） 孟買市ヲ別ツテ歐洲人居留地ト土人町トス。居留地ハ海岸ヨリ高燥地タルマラバル丘ヘ位置ヲ占メ、土人町ハ其東南ニ並列ス。居留地市區ハ概シテ道路開濶人道馬車道ノ區分アリ。且ツ樹木ヲ路傍ニ植付ケ日光ヲ遮斷シ、一般ニ清潔ナリ。家屋ハ宏大ニシテ石造或ハ煉瓦ニテ構成シ、五六階ナルモノ多シ。土民ノ居住地モ亦タ街路可ナリ廣大ニシテ常ニ土民輻輳シ、一種ノ臭氣ヲ放ツト雖ドモ、支那人居住地ノ如ク不潔ト云フニアラズ。土民町ハ各宗派共ニ雜居シ、上流社會ニアツテハ家屋ハ煉瓦或ハ石造ニテ五六階ヲ有スルモノ多ク、外觀美ナリ。建築法ハ歐風ニ均シク室内構造モ亦然リ。而シテ裝飾美麗ニシテ床上ニハセメントヲ敷設ス。貧民ニアツテハ寢ヌルニ寢床ナク、食スルニ卓ヲ用ヒズ、土間ニ寢食シ或ハ夜中屋外ヘ出テ睡眠スルノ習慣アリ。

（風俗） 結婚ハ印度國ニ於テハ早婚ノ弊未ダ脫セズ、男子ハ通常十四五歲、女子ハ十一二歲ニシテ結婚シ、十二三歲ノ少女ニシテ分娩スル者少カラズ。而シテ其父母タル者ハ姙娠中或ハ出產スルヤ直ニ嬰兒ノ爲メニ豫約ヲ爲シ置キ、彼等十二三歲ニ至レバ結婚セシムル者ナリ。但シ配偶者ハ同宗派ヨリ選拔シ、決シテ他宗ノ者ト結婚スルコトナシ。往昔ハ夫タル者死亡スルトキハ其妻ハ火中ヘ入リ、或ハ水中ヘ投ジ殉死スルノ惡弊アリシモ、今ヤ其弊風漸次消失シ、再婚ヲ忌ミ隱遁スルヲ例トス。

死者ノ葬式ハヒンヅー教ニ於テハ皆ナ火葬トナス。但シ之レヲ行フニハ日本ニ於ケルガ如ク市外ニテ執行スルニアラズ、市内空地ニテ之ヲ爲ス者ナリ。然レドモ臭氣甚シカラズ。市民ニ妨害ヲ與ヘザルハ香薰アル薪材ニ石油ヲ注ギ火葬スルガ爲メナリト云フ。耶蘇教並ニ佛教ハ埋葬法ヲ行ヘリ。然レドモパーシー教徒ハ一種ノ奇體ナル葬式ヲ執行ス。同宗旨中死者アルトキハマラバル丘上ニ設ケタル共同墓地ヘ之レヲ運ビ、一種ノ塔狀内ヘ置キ、恰モ鳶ノ如キ Vulturs ト稱スル鳥ヘ死

體ヲ食ハセシムル者ニシテ、初メ其塔内ヘ死體ヲ入ルヽトキハ該鳥諸所ヨリ飛ビ來リ、數分時間ニシテ喰ヒ盡スト云フ。其墓所ヲ一見スルニ同處ニ三個ノ圓形ナル塔アリ、上中下等ノ區分アリ此ノ塔ヲ名ケテ Tower of Sidenee ト云フ。其塔ハ高サ凡ソ三十尺、直徑四十尺モアルベシ。塔内ノ裝置ハ別圖ノ如ク、男女及小兒ヲ置クノ區別アリ。中央ニ圓形ノ大孔ヲ設ケ、夫レヨリ地下ヲ穿ツ。四個ノ暗渠アリ、塔外ニ設置シタル骨格貯留溜ニ連續スルノ裝置ニシテ、始メ十數日間ハ大孔内ニ於テ骨格ヲ曝露シ、然ル後チ塔外貯留溜ニ轉送スルモノナリト云フ。（塔ノ圖略ス）

（健康ノ狀況） 住民ノ健康ハ市區衞生委員ノ報告ニ由ルトキハ不健康ト謂ハザルヲ得ズ。蓋シ其原由ハ季候不順暗渠ノ不完全等ニシテ、漸次用水ノ供給增加スルニモ係ラズ、汚水ノ排除不充分ナルガ爲メ、動モスレバ汚水池上ニ溢レ、低地ニ貯留シ、土地常ニ濕潤スルヲ以テナリト云フ。

左ニ千八百九十二年中ノ死亡數及其比例ヲ揭ゲ參考トス。

死因	痘瘡	麻疹	熱性病	虎列拉	癆療	神經系病	呼吸器病	下痢	赤痢	外傷	總テ他ノ原因	合計
死亡數	西一	七一〇	七七五一	一六九	三五三八	二三三〇	四六〇二	二七二	六五一	三九二	四六六三	二六五一八
人口千ニ付比例	、六六	九、四三	九、四三	、三	四、三〇	二、八三	五、六〇	一、四三	、七九	、四八	五、六七	三一、二六

表中痘瘡ハ本年流行性ヲ呈シ、一千八百八十三年以來最モ多數ノ死亡數ニシテ、昨年ニ比スレバ四百三十三ノ多數ヲ示セリ。又痘瘡ノ死亡數ヲ月別スレバ、三月、四月、二月、五月ニ於テ最モ多數ニシテ、各人種中比例的ニ死亡數ノ多カリシハヒンヅー宗者、之ニ亞グ者ハ耶蘇教ノ土民ナリ。而シテ死亡數最モ少ナキハパーシー教徒ナリ。

（熱性病） ハ各死者中最モ多數ヲ占メ、死亡者中六二八四ハ弛張熱、一〇七一ハ單純熱、三七一ハ間歇熱、一九ハ腸窒扶斯ニシテ、本症ノ爲メ死亡スル者ハ四月、二月、一月及五月ニ於テ最モ多數ナリ。又死亡最モ多キ地方ハパーレル、シユーヂ、マンドビ、カラー、タラオ等ニシテ、同地方ハ暗渠不充分ナルガ爲メ常ニ土地濕潤居宅不潔ナリ。

（麻疹） モ痘瘡ニ於ケルガ如ク其死亡數ハ三月、四月、二月、一月ノ候ニ於テ最モ多シ。

（虎列拉） ハ八月、九月、十月及七月多數ニシテ、本症ニ罹リタル者ハ他ヨリ新タニ移住シタル者ニ多クシテ永住者ニ少シ。

本患者二百十九名ノ内飲用水ノ水原ニ由リ罹病數死亡數及其比例ハ左ノ如シ。

羅	病數	死亡數	罹病數ニ對スル死亡比例
ビアー、タンサノ湖水ヲ飲用セシ者	一七二	一二九	七五、〇
井水ヲ飲用セシ者	一五	一四	九三、三
不詳ノモノヲ飲用セシ者	三二	二六	八一、二

（癈瘵） ハ漸次死亡數增加スルヲ見ル。

一千八百九十二年ニ於テ孟買市ノ死亡數及誕生數左ノ如シ。

死亡數	二六五一八	人口每一〇〇〇ニ付	三二、二六
誕生數	一五四八五		一八、八四

（病院） 孟買市街ニ都合十一ノ病院アリ次ノ如シ。セントヂヨーヂ病院（歐人慈惠院）、ゼゼ病院（土民慈惠院）、眼科病院、ペチト氏病院、ゴカルダス病院、カマ病院、ビカルラ學校、病院、造船所、工夫病院、警視病院、癲狂院、マヒム病院是ナリ。

右病院中二三ノ主ナル病院ヲ視察セシガ故ニ其概況ヲ揭グ。

（セントヂヨーヂ病院） 本院ハ歐洲人ノ爲メニ設立セラレタル普通病院ニシテ、居留地內ノポートヂヨーヂ街ニアリ。アポロバンダー波止場ヨリ遠カラズ、院長ハ陸軍々醫監ゼ、アルノツト氏ニシテ、其他數名ノ內外科醫之レニ從事ス。看護人ハ四名ノ歐人婦女ノ外十餘名アリ病床ニ從事ス。

病室ハ新舊ノ二アリ、其構造ハ廣大美麗ニシテ室內ヲ內外科室、婦人室、小兒室、眼科室、產科室等ニ區分シ、其他外來患者診察所、手術室ノ設ケアリ室內ハ都テ整頓シ空氣ノ流通佳良ナリ。

本院昨一ケ年間ノ入院患者數一千八百八十一人、外來患者數ハ三千二百十六人アリ。其內主ナル病症比例ハ左ノ如シ。

病名	一八九〇年	一八九一年	一八九二年
赤痢	三、七	一、三	一、一
麻刺里亞熱	二〇、〇	二〇、六	一六、七
梅毒及下疳	二、二	三、七	三、九
僂麻質斯	二、四	二、二	三、〇
結核	一、二	一、〇	〇、八
下痢	四、五	三、八	三、八
肝臟病	三、一	二、一	二、八
皮膚病	四、八	五、三	五、三

本院維持費ハホートトラストノ補助金ト自費患者ノ入院料ヨリ成立チ、一ケ年間ノ收入ハ一〇九八八一ルピーアリ。一ケ年間ノ支出金高ハ七六三〇四ルピーナリ。

（ゴカルダス病院） 本院ハ土人病院ニシテ一千八百六十五年始メテヤムセツト、ヂー、ヂエゼブホイト云フ富有ナルパーシー人病院ノ設立ヲ必要トシ政府ニ建言シテ曰ク、若シ政府ニ於テ一萬磅及地所ヲ下賜サレ、市役所ニ於テ其維時ヲ爲スニ於テハ、自分ヨリ一萬五千磅ヲ出金スベキヲ建言セシガ、不幸ニシテ歲入不足ノ爲メ政府ニ於テ許可スルヲ得ズ、終ニ其計畫烏有ニ歸シ、數年間中絕セシガ、偶〻一富有人ゴカルダス、タツポール氏大ニ此企ヲ贊美シ、十五萬ルピーヲ寄附シ、政

府及市區員ヲ說キ一千八百七十年五月起工シ同七十四年四月竣工スルニ至レリ。

本院ノ建築費ハ三十六萬七千四百六十五ルピーヲ費セリト云フ。

本院々長ハ陸軍々醫總監バラーク氏ニシテ、之ニ從フ土人醫士數名アリ。看護婦ハ歐州婦女四名ニシテ他ハ土人看病婦十餘名ナリ。

本院建築ノ石材及木材ニ石灰ヲ附着シタル三階層ニシテ、上層ヲ外科室トシ下層ヲ內科室トス。其內婦人室、男子室及小兒室ノ區別アリ、凡ソ二百許ノ病床ヲ備ヘ其他ニ手術室、外來診療所等附屬シ其右側ニ賭所及倉庫等アリ。

本院歲入ハ州費區費等ヨリ成立チ、一千八百九十二年ノ總金高ハ五萬三千六百四十八ルピー餘ニシテ、歲出ハ四萬九千五百九十六ルピー餘ナリ。

昨年一ケ年間ニ於ケル入院患者數ハ三千百六十七名、外來患者數ハ一萬四千八百七名ニシテ最モ多數ヲ占ムル病症ハ麻刺里亞熱、僂麻質斯、呼吸器病、下痢、結核、赤痢及外傷等ナリ。

（ゼゼ病院）（ヂエーム、チー、ヂバブハイ病院ノ頭字ノミヲ取リゼゼ病院ト云フ）本院ハ土民ノ施療ヲ掌リ孟買中一二ヲ競フベキ有名ナル公立病院ニシテ、建築ハ石材ニテ構造セラレ、前回ノ一棟ハ二階ヲ有シ、之ヲ醫員詰所、外來患者、診察所、治療室並ニ藥局等ニ區別シ、病室ハ廣大ナル平家三棟アリ、之ヲ二十四室ニ別チ、內外科室及婦人科室等トシ各室共ニ床上ニハパーブメントヲ敷キ鋼製ノ病床五百臺餘ノ備ヘアリ、但シ平常入院患者ハ四百名內外、外來患者ハ每日二百餘名ヅヽアリト云フ。本院患者中主ナル病症ハ肺勞、梅毒、諸熱性病、赤痢、外傷等ニシテ再他諸種ノ病症アリ、其中日本人一名肝臟膿瘍ニ罹リ在院セシ者アリ。

本院ハ都テ公費ヲ以テ維持スルモノニシテ年額ハ凡ソ十五萬七千ルピー（我ガ貨幣凡ソ七萬八千圓ニ當ル）ナリトス。

本院々長ハ陸軍一等軍醫正グレー氏ニシテ、其以下英醫三名アリ。各醫務ヲ分擔シ外ニ土民ノ助手醫十二名アリテ醫務ヲ補助ス。看病婦ハ英國婦女二十四名アリ懇ロニ看病ニ從事ス。

本院邸內ニ附屬醫學校アリ、生徒七十名ヲ敎育ス。其內歐州人ノ子弟モアレドモ多クハ土民ノ子弟ナリトス。修學年期ハ四ケ年ニシテ英語ヲ以テ敎授シ、卒業ノ後ハ院內ノ助手醫タラシメ、或ハ內地ニ於テ開業セシムル者ナリ。本校ハ煉瓦石造ニシテ各醫敎場アリ、解剖室ノ如キニハ死體二三個ヲ並列シ、各生徒解剖ヲ練習セリ。又校內ノ中央ニハ博物館ノ設ケアリ、諸種ノ標本並ニ人體動物ノ骨格ヲ陳列セリ。但シ其數多キニアラズ。

（カマ病院）ハ富有ナルペルシヤ人カマ氏ノ創立セシ者ニシテ、ゼゼ病院ノ近傍ニアリ。均シク慈惠的ノ病院ニシテ貧困ノ婦人小兒ノミヲ施療シ、男子ノ入院ヲ許サズ。本院ハ十年前ノ建築ニ係リ二棟アリ、廣大ト云フニアラザレドモ煉瓦石造ヨリ成リ、外觀堅牢室內ノ裝飾美麗ニシテ各棟共ニ五十名許リノ入院者アリ。看病婦ハ英婦人並ニ印度婦人ニシテ十名內外アリ、殊ニ小兒室ニハ玩

弄物等ヲ備ヘ懇ロニ優待セリ、又患者中西洋婦人モ兩三名入院セシ者アリ。

本院醫務ハ女醫ノミニシテ分擔シ、院長ハペシーフキプソン夫人ニシテ、同子トマクドナード孃ハ內科ヲ掌リ、ウラーク孃シヤガナダン女ノ二名ハ外科擔當ナリト云フ。

以上記載セシ如キ衞生ノ結果ニ由ルトキハ、孟買公衆ノ健康狀況ハ不良ト言ハザルヲ得ズ。今死亡全數二萬六千五百十八人ヲ人口八十萬千七百六十四人ニ割ルトキハ、人口一千ニ付三二、二六ニシテ、千八百八十七年ヨリ千八百九十一年ニ至ル五ヶ年間ノ平均死亡比例ハ、人口一千ニ付二七、五〇ナリ。然ルニ英國內各所ニ於ケル十ヶ年間ノ平均死亡比例ヲ見ルニ、人口一千ニ付最低死亡比例ハ一七、三、最高死亡比例ハ二四、八ナリ。今之ヲ孟買死亡比例三二、二六ト比較スルトキハ、人口一千ニ付七、四六ノ差アリ。斯ノ如キ不良ノ結果ハ已ニ前記ニ陳ル如ク暗渠不足ニシテ汚水ノ排泄充分ナラズ、不斷土地濕潤スルニモ係ラズ、土民ノ習慣トシテ夜中屋外ニ睡眠スルモノ多ク、隅々屋內ニ臥スルモ其構造甚ダ不完全ニシテ地板ヲ備フルモノ少ナク、土間ニ於テ就眠スル者多キ等衞生上ノ缺點少ナカラザル原因ニ歸スルナルベシ。殊ニ當地ハ元來麻刺里亞熱毒ヲ有シ、且ツ氣候ハ晝夜寒暖ノ差大ニシテ、夜半ニ至レバ冷氣ヲ覺ユルコト甚シク、爲メニ戶外ニ臥スル者ハ動モスレバ冷氣ニ冒サレ呼吸器病ニ罹ル者多シ。加之貧民ニアツテハ一家內ニ群集シ、室內身體不潔ナルヲ以テ、不幸ニシテ一朝惡疫流行スルトキハ其蔓延ノ速カナルハ言ヲ俟タズ。右ノ如ク當地ハ不健康地タルヲ以テ、本艦在港中上陸員ニハ必ズ規尼涅ヲ與ヘ、陸上ニ於テ冷水ノ飲用ヲ禁ゼシガ、其結果ナルヤ熱性病ニ罹リシ者ナカリシハ幸福ト云フベシ。故ニ爾後當地ヘ來ルノ人員ハ必ズ規尼涅ヲ用ヒ、飲水等ニ注意スルヲ必用トス。右衞生視察大略報告仕候也。

明治二十七年二月

海軍大軍醫　鈴木重治
海軍大軍醫　荻澤貫一

吉野艦長　河原要　一殿

商業上ノ景況（貿易及輸出入概況）

孟買市ハ北緯十八度五十四分東經七十二度四十九分ニ位スル印度國第一ノ商業地ニシテ、市街平坦人家稠密人口大凡ソ八十萬餘トス。

抑モ印度ハ古代ヨリ各種ノ產物ニ富メル國ニシテ、今日ニ於テ最モ盛況ヲ呈スルモノハ綿花ナリトス。古代各國未ダ交通ノ道開ケザルノ時ニ當リテ、既ニ亞刺比亞人ト交通ヲ開始シ、年々貿易ヲナシ、亞刺比亞人ハ遂ニ地中海沿岸ノ各人種ト交通ノ道ヲ亞非利加ニ依リテ起シ、印度人ハ東洋ト

通商貿易ノ道ヲ開キタリ。卽チ二國ノ人民ハ東西兩洋今日ノ通商貿易ヲ開始セシメタル起源ト云フモ可ナリ。千七百七十年ニ至リテ支那ト交通ヲナシ、互ニ物産ヲ交換シ、千八百五年ニ於テハ其輸出セル綿花八萬梱（一梱ハ三百七十五斤入）ノ巨額ニ達セリ。又千八百十三年ノ頃ニ至リテ大ニ英國ヘ綿花輸出ノ計畫ヲナシ、千八百五十年ニ於テハ各國ヘ輸出セル綿花一億七千七百六十四萬七千二百六十九斤ノ巨額トナリ、其後四十年ヲ經テ千八百九十二年ノ輸出額ハ、實ニ三億九千六百九十三萬四千〇四十八斤ナリト云フ。

右ノ如クニシテ物産ノ輸出增加シ、外國トノ通商頻繁トナルニ從ヒ、自國ニ於テモ亦外國品ノ輸入ヲ要シ、市場次第ニ盛況ヲ呈シ、千八百六十四年ノ頃ニ至リテ諸會社、銀行、紡績會社、汽船會社、鐵道會社ノ類相踵テ起リ遂ニ今日ノ一大市場トナレリ。

紡績會社ノ如キモ千八百六十六年ノ調査ニ依レバ其數十三ケ所アリシモ、千八百八十年ニ至リ四十二ケ所トナリ、千八百九十三年ニハ九十八ケ所ノ多キニ達セリ。又右紡績事業ノ爲メニ使用スル職工、千八百六十六年ニハ七千七百三十三人、千八百八十年ニハ三萬五千六十六人、千八百九十三年ニ至リテハ八萬三千九百六十五人ナリシト云フ。

右職工人員ハ一ケ年間ニ使用セル人員ヲ一日ニ平均シタルモノヲ示セシナリ。

右ノ外猶內地各所ニ紡績所ノ設立アリテ、重モニ自國ノ需用ニ應ジ、而シテ餘裕アルトキハ皆之ヲ孟買ノ市場ニ積出シ、以テ輸出品ニ充ツルモノノ如シ。現今ノ景況ニテハ支那ニ輸出スルモノ尤モ巨額ナリト云フ。

以上ハ單ニ紡績事業ノ發達進步ヲ示シタルニ過ギズ。印度物産ニシテ外國ニ輸出スルモノ猶他ニ鴉片、茶、煙草、穀物類、寶石等ノ諸種アリ。

鴉片ハ重ニ支那ヘ輸出スルモノニシテ、內地各所ニ於テ製造ノ上孟買市場ヘ送附シ來ルナリ。是ノ商業ヲ營ムモノハ多ク「ジエース」人「バーシー」人或ハ印度內地ノ二三種族ニシテ、孟買市場ニ於テ取引ヲ爲ス其額夥多シト云フ。支那ヘ輸出スルモノハ多ク香港ニ送附ス。而シテ千八百九十二年ノ輸出額ハ一萬三千二十一「ハンドレツトウエート」ニシテ、前年ニ比スレバ一割五分ノ減額ナリ。鴉片ノ輸出ハ年々其額ヲ減ズル傾向ナリト云フ。

印度ハ其商業大ニ發達シ、現今世界各國殆ンド通商貿易セザル所ナク。而モ年々其額ヲ增加スルノ勢ニシテ、今其輸入品ニ對スル金額ヲ擧グレバ、千八百九十二年ニハ三億六千七百三十二萬三千三百三「ルーピー」ニシテ、千八百九十三年ニハ一億九千六百九十八萬八百十九「ルーピー」ナリ。而シテ輸入品ノ重ナルモノハ衣服、織物類、裝飾器具、砂糖、石炭、鐵具類、酒、器械、金屬、茶、油、玻璃器其他ノ雜貨品等ナリ。

器械類ノ輸入スルモノハ重ニ紡績器械ナリトス。是レ紡績業ノ進步發達ト共ニ其需用ヲ增加スル

ノ故ヲ以テナリ。

千八百九十三年ニ輸入セル紡績器械ニ對スル金額ハ千二百十萬九千七百四十九「ルーピー」ニシテ、前年ニ比スレバ百五十萬二千五百二「ルーピー」ノ增額ナリトス。

以上ハ輸入品ニ付テノ概況ナリ。印度ヨリ諸外國ヘ輸出スル貨物モ亦巨額ニシテ、千八百九十三年ノ調査ニ依レバ其金額輸入品ニ超過スルコト六千八百八十一萬五千八百七十八「ルーピー」ナリ。即チ千八百九十三年輸出物金額總計ハ四億六千五百七十九萬六千六百九十七「ルーピー」ナリトス。輸出品ノ重ナルモノハ綿花、藥材(鴉片ヲ含ム)、穀物、麻、種子類、茶、珈琲、象牙、金屬類、護謨、薑、木材、胡椒等ナリトス。

種子類ノ輸出スルモノハ重ニ亞麻仁、菜種「ジンジェリー」落花生等ノ數種ニ限ルト云フ。孟買ヨリ諸外國ニ輸出スルモノニシテ尤モ巨額ナルハ綿花ヲ以テ第一ト爲ス。而シテ之レニ次グモノヲ穀類ナリトス。

左ニ記載スルモノハ千八百九十二年竝ニ千八百九十三年ニ於テ商品ヲ積載シ、孟買港ヲ出入セル船舶數竝ニ其噸數ヲ示シタルモノナリ。

千八百九十二年	船舶數	噸數	千八百九十三年	船舶數	噸數
入港船舶	一〇二〇	一一三三八九四	入港船舶	九七八	一一四〇七一三
出港船舶	一〇〇五	一二一九〇五五	出港船舶	九二八	一〇八六五七三

石炭眞水糧食品其他諸物價

孟買市ハ諸器械工場紡績會社等ノ設立多ク又船舶ノ出入モ少數ナラザルヲ以テ石炭ノ消費從テ多額ナリ。

石炭商ノ重ナルモノ六七會社アリ。本艦碇泊ノ際ニ於テハ「カージツフ」炭一噸ニ付貳拾壹留八「アンナ」ヨリ二十二三留迄ヲ相場トス。右ハ港內碇舶ヘ給供スル代價ニシテ、運送ニ要スル「ライター」船及人夫等ヲ含有ス。若シ市內ニ於テ直接購買スルトキハ幾分カ其代價ヲ減ズベキナリ。眞水ハ孟買市ヨリ三十哩或ハ六七十哩北部ナル湖水ヨリ市內ヘ導キ、人民一般ヘ供給スルモノニシテ、艦船ヘ積込ムモノ亦同質ナリ。右ハ政府ノ有ニ歸シ一噸ノ代價一留十二アンナ內外ナリ。

印度ハ古來ヨリ穀類ニ富メル國ナリ。現今歐洲人ノ居住スルモノ多キニ至リシ爲メ、牛羊鷄豚ノ類又大ニ增殖ノ道ヲ設ケタルヲ以テ、糧食品ノ供給甚ダ容易ナリ。價格ニ至テモ他港ニ比スレバ廉ナリト謂フベシ。即チ艦船ヘ供給スル代價ノ大略ヲ示サンニ、

生獸肉	十二斤ニ付	一留
生野菜	一斤ニ付	一安

麵包	十二斤ニ付	一	留
鷄卵	一斤ニ付	四	安
豆類	一斤ニ付	二	安
砂糖	百十二斤ニ付	十五	留
麥粉	百九十六斤俵入	十九	留

菓物ハ「バナヽ」「密柑」「マンゴー」「パインアップル」無花果等ノ數種アリテ、「バナヽ」ヲ最モ廉價ナリトシ、(一打ニ付三「アンナ」) 而テ「マンゴー」ヲ尤モ貴シトス (一打ニ付十四「アンナ」) ナリ。

各國ホテル等ノ食卓上ニ於テ珍味ノ一種トシテ世ニ有名ナル「ボンベーダック」ハ卽チ此地ノ名産ニシテ、如何ナル糧食販賣店ニ於テモ之ヲ得ルコト容易ナリトス。而シテ其價千個ニ付二百留内外ナリ。

抑モ「ボンベーダック」トハ五六寸程ナル小魚ノ干物ニシテ、或ハ之ヲ「ドライ、ダック」ト曰フ其形細ク長クシテ我鯡ニ似タリ。

其他ノ食品香料等或ハ内地ニ産スルモノ、又ハ外國ヨリ輸入シ來レルモノアリ。何レモ得ルニ困難ヲ感ズルモノナク代價モ亦割合ニ貴カラズ。

郵便電信鐵道ノ交通幷ニ其賃銀

中央郵便局ハ「アポロ」波止場ヨリ數町ノ巨離ニ過ギズシテ、尤モ交通往來ニ便利ナル所ニアリ。其建築廣大美麗ニシテ、千八百六十九年四月工ヲ起シ千八百七十二年十一月全ク竣工ヲ告ゲタリ。而モ建築費ハ五十九萬四千二百「ルーピー」ヲ要セリト云フ。

孟買ヨリ歐洲或ハ亞細亞地方ニ向ヒ定期航海船ヲ發スルモノハ重ニ「ピーオー」汽船會社ナリトス。同會社千八百九十四年間孟買ヨリ英國ヘ向ケ定期發船ハ、一月ヨリ五月迄ハ毎週土曜日午後二時、六月ヨリ九月迄ハ毎週金曜日午後五時、十月ヨリ十二月迄ハ毎週土曜日午後二時ナリトス。而シテ各國ヘ郵便物ヲ運送ス。

又同地ヨリ香港ヲ經テ日本ヘ向ケ二週間ニ一回宛定期航海船アリ。卽「ピーオー」會社汽船ニシテ横濱ニ至ルモノナリ。

孟買横濱間豫定航海日數ハ二十七日ニシテ上等船客船賃ハ五百四十「ルーピー」ナリ、

現今ニ至テハ我郵船會社ニ於テモ同地ニ向ケ定期航海船ヲ發スルヲ以テ一般ノ便益少ナカラザルベシ。

孟買ヨリ支那、濠洲、日本ヘ向ケ發スル郵便船ハ、千八百九十四年間ハ毎月二回若クハ三回ニシ

テ二週日目ノ木曜日ヲ定期トス。

郵便切手代價通常書面ハ二分ノ一「ヲンス」毎ニ二「アンナ」半ニシテ新聞紙ノ類ハ二「ヲンス」毎ニ半「アンナ」ナリ。而シテ見本品ノ類ハ四「ヲンス」迄ハ一「アンナ」ニシテ二「ヲンス」ヲ增ス毎ニ半「アンナ」ヲ增スノ制ナリ。

右ノ外猶汽船會社アリテ歐州其他各國ヘ定期航海ヲナス。卽チ

一、「オーストレリヤン、ロイヅ、スチーム、ナブイゲーション」會社

二、「アンカーライン」會社

三、「ブリチツシ、インデイヤ、スチーム、ナブイゲーション」會社

四、「ホール、ライン、オフ、スチーマー」會社

五、「ペニシエラ、エンド、オリインタル、スチーム、ナブイゲーション」會社

等ナリ。右第五ノ會社ヨリ濠州、支那、日本等ヘ發スルモノアリ、横濱孟買間ノ賃銀ハ六ケ月間有効往復切手ニテ、上等七百五十「ルーピー」中等四百六十五「ルーピー」ナリ。

中央電信局ハ中央郵便局ニ接シタル「エスプラネート」街ニ在リ、千八百七十一年十一月工ヲ起シ千八百七十四年四月竣工セリ。而モ其建築費ハ二十四萬四千六百九十七「ルーピー」ヲ費シタリト云フ。

孟買ヨリ日本ヘ發スル電信料ニハ七種ノ區別アリ、卽チ其線路ニ依テ增減アルモノトス。而テ尤モ廉ナルハ香港ヲ經ルモノニシテ、一語ニ付四「ルーピー」十一「アンナ」ナリ。尤モ高價ナルハ「テーラン」ト呼ブ地方ヲ經過スルモノニシテ、一語ニ付七「ルーピー」ナリ。何レモ到着時間ニ至テハ大差ナシ。故ニ香港ヲ經ルモノヲ尤モ善トス。

歐洲諸國ヘ發スル電信料ハ一語三「ルーピー」一「アンナ」ナリ。

鐵道ハ孟買ヨリ內地ヘ向ケ發スルモノ二線アリ、一ヲ大印度半島鐵道ト曰ヒ一ヲ孟買「バロダ」中央印度鐵道ト云フ。

大印度半島鐵道ハ孟買孟ニ「プーナ」間ヲ往來ス。兩停車場共一日ニ六回ヅヽ發車ス。上等汽車賃七「ルーピー」七「アンナ」ニシテ、中等ハ其半額、下等ハ亦中等ノ半額ナリトス。

孟買「バロダ」中央印度鐵道ハ孟買竝ニ「バツセーン、ロード」間ヲ往來ス。右兩所間一日三回ヅヽノ發車ナリ。上等汽車賃二「ルーピー」二「アンナ」ニシテ、中等下等ノ割合ハ大印度半島鐵道ノ割合ニ同ジ。大印度半島鐵道ハ孟買市ノ中央ナル「ホーンビー」街「ブイクトリヤ」「タミナス」停車場ヨリ發車シ、都府「カルカツタ」及ビ「マドラス」等印度內地ヲ横過シ、其東岸及西岸ニ通ズルハ北線路ナリトス。

孟買バロダ中央印度鐵道ハ市ノ南端「アポロ」波止場ヨリ數町ニ過ギザル「コラバ停車場ヨリ發

車シ、印度西北ニ向フモノハ此線路ナリ。

「ヴイクトリヤ、ターミナス」停車場ハ其建築ノ廣大美麗ナルコト孟買市第一ノ建築場ナリト云フヲ憚カラズ。建物ノ前面即チ往來ニ面スル部分ハ長サ一萬五千呎(大凡四町)ニシテ、「ホーンビー」街ノ片側ハ停車場ナリト云フ可シ。

乘客待合所、食事場、切符賣場等ハ皆棋盤形ニ美麗ナル石ヲ敷キ詰メ、壁並ニ天井等ハ青色若クハ金箔ヲ以テ裝飾シ、屋根及入口等ノ支柱ハ皆壯麗華美ナル大理石柱ヲ用ヒタリ。歐州各國ヨリ此地ニ來ルモノ皆同停車場ヲ一覽シテ歎賞セザル者ナシト云フ。

圖面ヲ開キテ印度內地ノ鐵道線路ヲ見ルニ、實ニ蛛網ノ如クニシテ、文明ヲ以テ世界ニ稱セラルル歐州各國ニ讓ルトロコナシ、亦其繁盛ヲ知ルニ足ル。

銀行及諸會社ノ景況

孟買市ニ於テ重ナル銀行ハ「ベンガル」銀行、孟買銀行、「チヤータード」銀行、香港上海銀行、「パーシヤン」銀行、「ナシヨナル」銀行、「オリエンタル」銀行等ニシテ猶他ニ二十ケ所アリ。

諸會社ノ重ナルモノハ紡績會社九十八ケ所アリ、通信會社七ケ所アリ、汽船會社十ケ所アリ、鐵道會社アリ、建築會社アリ、瓦斯會社アリ、綿花會社アリ、諸器械製造會社アリ、其他貿易會社、製造會社、鐵道馬車會社等枚擧スルニ遑アラズ。

銀行、諸會社共皆相應ノ役員アリテ其事務ヲ處理シ、業務ノ發達進歩ニ汲々タルモノヽ如シ。然レドモ各會社ノ株數資本金等其他詳細ノ事項ニ至テハ碇泊日數ノ短キト、上陸時間ノ少ナキトニ依リ精細ニ調査報告スルヲ得ズ。

水產、鑛產物

水產物、鑛產物等印度ヨリ產出スルモノ甚ダ少ナク、金銀ノ輸出スルモノヲ先ヅ第一ト爲スベシ。鐵、鋼、銅、錫、水銀等ハ皆英國其他ヨリ輸入シ來リ、寶石ノ類亦英國ヨリ來ルモノ多シ。

土人ハ金銀ノ細工ヲ好クシ、廉價ナル賃銀ヲ以テ婦女子ノ裝飾品ヲ製ス。又土人ニシテ少シク富裕ナル者ハ皆寶石若クハ象牙鼈甲等ヲ用ヒテ頸飾、腕飾等ヲ爲ス又貝殼ノ類ヲ用ユルモノアリ。

カルカツタ近傍ニ於テ石炭ヲ採掘スト雖モ其質善良ナラザルノミナラズ孟買市ニ於ケル消費額ハ一部分ニ足ラズ補フモノヽ如シ

稅關ニ關スル件

孟買市上陸者所特品ニ對スル稅則ノ一般ハ左ノ如シ。

一、武器、彈藥、酒、酒精、麥酒、鹽、鴉片、煙草ヲ携帶上陸スル者ハ納稅ノ義務ヲ有ス。

一、前記ノ物品ヲ携帶スルモノハ其旨ヲ稅關吏ニ通知スルモノトス。

一、前記ノ物品ニシテ最初納税セシ期限ヨリ三ケ年ヲ經過セズシテ其所有者ヲ變ゼザルトキハ納税ヲ要セズ。

一、他國ヨリ孟買港ヘ來着上陸スルモノヽ行季ハ必ズ税關吏ノ檢査ヲ受クルモノトス。

一、前記ノ物品ハ上陸者自身ノ所有物タルト否トヲ問ハズ、税關吏ノ評價ニ依リテ制規ノ税ヲ課スルモノトス。

輸入税ヲ課スルノ割合竝ニ品目左ノ如シ

武器彈藥軍用品ノ類

一、銃器（拳銃ヲ除ク）	一個ニ付	五十留
二、銃身	同	三十留
三、拳銃	同	十五留
四、銃身（拳銃用）	同	十留
五、銃器ニ要スル「スプリング」	同	八留
六、銃床、照星ノ類	同	五留
七、銃器ニ屬スル各具	同	一留八安
八、火藥製造裝塡等ニ要スル器具	一個ニ付	十留
九、右ノ外武器及彈藥軍用品ハ原價ノ一割		

酒類

一、麥酒類	一ガロンニ付	一安
二、酒精	同	五留
三、藥用其他ノ目的ニシテ人民ノ使用ニ適セザル精酒	一ガロンニ付	五分
四、シャンペーン類	同	二留半
五、葡萄酒ノ類	同	一留
六、鴉片	八十「トラ」ニ付	二十四留
七、鹽		
八、油類	一ガロンニ付	六ピース

輸出税ヲ課スルモノハ米ノミニシテ大凡ソ八十二斤ニ付三「アンナ」ノ割合ナリト云フ。

孟買市ニハ一種ノ入市税ナルモノアリ、「タウン・デユーラー」ト云フ其割合左ノ如シ。

一、穀物豆類	一ガンデーニ付	四安
一、麥粉	同	三安

類		
一、酒	一ガロンニ付	四安
一、麥酒	同	六「ピー」
一、砂糖	百十二斤ニ付	八安
一、木材		二分五厘
一、薪	一カンデーニ付	二安

日本人在住數

孟買市内ニ日本人ノ在住スル者甚ダ少ク、三井物産會社、日本綿花株式會社、東京綿株式會社等ノ出張員同市ニ在リテ綿花ノ取引ニ從事スル者五名アリ。其他賤業婦女子ノ新嘉坡ヨリ渡來セル者大凡ソ二十名餘アリト云フ。

人種人口及外國人ノ數竝ニ區別

孟買市ハ印度國内尤モ人口多數ナル市街ニシテ都府「カルカツタ」及ビ「マドラス」市モ亦及バザル所ナリ。

千六百六十二年孟買ノ英領ニ歸セシ際ニ於テハ、其人口僅カニ一萬人ヲ超過セザリシモ、千七百十六年ニ於テハ一萬六千人ニ增加シ、其後千八百十六年ニ於ケル政府ノ統計ニ依レバ、

英國人（軍人以外ノ者）	一、八四〇
同（陸海軍人）	二、四六〇
耶蘇宗土人「ポルトガル」人、及米國人	一一、五〇〇
「ジユース」人	八〇〇
「マホメツト」人	二八、〇〇〇
「ヒンヅース」人	一〇三、八〇〇
「パーシー」人	一三、一五〇
合計	一六一、五五〇

右ニ示セルガ如ク十六萬千五百五十人ニ及ベリ。

世界各國何レノ開港場ニ至ルト雖ドモ孟買市ノ如ク種々國民ノ集合居住スル所ナシトス。

卽チ亞細亞人種中ノ各種ハ皆ナ「マホメツト」若クハ「ヒンズー」等各其崇拜スル所ノ宗教ニ依リテ團體ヲ組織シ、一種族ヲ形作スルモノヽ如シ。此ノ如クニシテ其宗教ヲ異ニスルトキハ互ニ氷炭相容レザルノ有樣ナリ。

千八百九十一年孟買市ニ於ケル人口ヲ男女ニ區別シ、宗派ノ區別ニ依リテ計算セバ左ノ如シ。

種別＼男女	男	女	合計
ヒンヅー	三四五、八一五	一九七、四六一	五四三、二七六
マツサルマン	九五、〇六五	六〇、一八二	一五五、二四七
ジエーンス	一九、三一七	五、九〇八	二五、二二五
耶蘇宗	三〇、四三七	一四、八七三	四五、三一〇
バーシース	二四、七〇五	二二、七五三	四七、四五八
ジユース	二、五九〇	二、四三一	五、〇二一
佛教	一三七	五三	一九〇
アセイスト	一一	五	一六
アグースティック	四	二	六
ブラモ	一二	三	一五
合計	五一八、〇九三	三〇三、六七一	八二一、七六四

孟買市一般ノ景況

孟買市ハ平坦ナル一市街ニシテ其西北ニ當リ「マラバーヒル」ト名クル一小丘アルノミ。市街ハ歐洲人居住地ト土人居住地トノ二ニ區別スルヲ得ベク、歐洲人ノ重モニ商業ヲ營ミ居ルハ市ノ南端海岸ニ接シタル位置ニシテ、會社、商店屋ヲ列ネ、而シテ其居住地ハ「マラバー」丘附近ナリトス。

土人居住地ハ道路狹隘人道車馬道ノ區別アルコトナシ。三階若クハ四五階ノ白堊軒ヲ列ネテ屏立シ、數十ノ家族一家屋内ニ棲息ス。土人居住ノ家屋ハ其構造大ナリト雖ドモ甚粗ニシテ屋内ヲ裝飾スル等ノコトナシ。

土人居住地ノ往來ハ屈曲甚シク街衢ニ順序ナシ。土地ニ慣レザルモノ其中央ニ至レバ必ズ方角ヲ失フ。

市内ヲ一覽スルニ往來者ノ服裝種々雜多ニシテ各其宗派ニ從ヒ服裝ヲ異ニス。「バーシー」人ハ男子ハ必ズ冠ノ如キ黑色ナル帽ヲ戴キ、外套ニ類スル上衣並ニ袴ヲ着用シ、靴ヲ穿チ、婦人ハ帽ヲ戴クコトナシト雖ドモ、腰部ヨリ胸部ヲ纏ヒタル上衣ノ上邊ヲ以テ頭部ヲ覆ヒ、必ズ靴ヲ穿チ、裸體ヲ露スコトナシ。亦右上衣ノ外ニ必ズ下衣ヲ着用セリ。

「マホメツト」宗「ヒンヅー」宗ノ如キ一般印度人ハ男女共ニ跣足ニシテ、婦人ノ如キハ簡單ナル一枚ノ布ヲ以テ腰部ヨリ體ノ上部ヲ覆ヒ、別ニ腰卷ノ如キモノヲ用ユ。而シテ往來ヲ歩行スルニ當リテハ必ズ之ヲ股腿ノ間ヨリ卷上グルヲ常トス。蓋シ歩行ニ便ナルガ故ナルベシ。

印度人ハ單ニ服裝上ヨリ論ズルトキハ「バーシー」人ニ劣ル數等ナリトス。然レドモ能ク事ニ耐ヘ其性質虛飾ヲ顧ミズ一意蓄財ニ餘念ナキモノヽ如シ。故ニ「バーシー」人ヨリハ却テ印度人ニ富豪家多シト云フ。

市中ニ鐵道馬車並ニ乘合馬車アリ。皆既定ノ場所ヲ往返ス。車ノ色ヲ異ニシ以テ往道區域ノ異ナルヲ示ス。賃錢「半アンナ」ヨリ「二アンナ」ナリ。馬車ハ波止場及ビ往來ノ各所四辻等ニ客待チヲ爲シ居ルコト我ガ人力車ニ異ナラズ。雇賃ハ普通ノモノニテ一日五留、半日三留、三十分間若クハ一時間程ノ距離ヲ雇ヒタルトキハ半留ヨリ一留ヲ通常ノ賃錢トス。

旅館ノ重ナルモノハ「ワツトソン、ホテル」「グレート、ウエスターン」「アデルフイト、ホテル」「ヴイクトリア、ホテル」「アポロ、ホテル」「セントラル、ホテル」等トス。其他小ナルモノ猶ホ十數軒アリ。宿泊料ハ食事付上等一日五、六留ヨリ七、八留迄ナリトス。

家賃ハ家ノ構造ニ依リ種々アリト雖ドモ歐洲其他ノ各港ニ比スレバ割合ニ廉ナリ。普通商人ノ店若クハ事務所ト爲シ得ベキモノニテ一ケ月五、六十留ナリ。繁華ナル場所ニテ少シク上等ナルモノ百五、六十留ヲ要スルモノアリト雖ドモ、亦場所ニ依リ二、三十留ナルモノアリ。

孟買市ニ英字新聞三種アリ「タイムス、オフ、インデイヤ」孟買「ガゼツト」「イングリシユ、メール」トス、其他二三ノ土語新聞アリ。用ユル所ノ文字ハ「サンスクリツト」ニテ容易ニ解スル能ハズ。

公園ノ大ナルモノヲ「ヴイクトリヤ」公園トス。海岸ヨリ大凡ソ二哩ノ位置ニアリ、閑靜ニシテ散歩運動ニ適シ園内ニ博物館アリテ衆庶ノ縱覽ニ供ス。

歐洲劇場二アリ、一ヲ「ノベルテー」ト曰ヒ、他ヲ「ゲーテー」ト云フ。入場料ハ一「ルーピー」以上四「ルーピー」迄ナリ。席ノ位置ニ依リ其價ヲ異ニス。

右ノ劇場ニ於テ時々土人ノ演劇ヲ催スルコトアリト云フ。然レドモ常ニ土人ノ演劇ハ「アルフレツト」劇場ニ於テ觀覽スルヲ得可シ。

孟買市ハ土人ノ風俗賤シク、生活ノ度低キニ似ズ、建築廣大華美ナル建造物ニ富メリ。卽チ「ヴイクトリヤ、ターミナス」停車場、町會所、中央郵便局、控訴院、「セーラース、ホーム」、大學校、高等中學校、高等女學校、醫學校、美術學校、其他各種ノ學校、病院等皆十萬「ルーピー」以上六、七十萬留ヲ費シタルモノニシテ、停車場ノ如キハ數百萬「ルーピー」ヲ費セリト云フ。

「マラバー」丘上ニ「タワー、オフ、サイレンス」ナルモノアリ、卽チ「パーシー」人ノ共同墓地ト謂フモ可ナラン。然レドモ埋葬スルニ非ズ、火葬スルニ非ズ、土壁ヲ以テ圍繞シタル塔アリテ、死者アルトキハ死體ヲ其中央ニ安置ス。然ルトキハ數分ヲ出デザルニ「ブオルチエアー」(Vul ture)ト呼ブ鷲ノ一種數十羽忽チ舞ヒ來リテ死體ヲ喰ヒ盡スナリ。

右ノ塔ハ丘上ニ五個アリテ其尤モ大ナルモノハ周圍二百七十六呎アリテ土壁ノ高サ二十五呎ナリ。地上ト平面ナル部分ニ一ノ入口アリテ、之ヨリ死體ヲ擔ヒ込ミテ後チ直ニ閉鎖ス。何人ト雖ドモ此塔内ヲ窺フヲ許サズ。

孟買市内ニハ自己ノ住居ナク、夜間ハ路傍ニ横臥シテ日月ヲ送ルノ徒多シ。日日ノ業務ナク往來

ニ彷徨スル者皆此類ナリ。

「アポロ」波止場或ハ其他ヨリ灣内碇泊ノ艦船ヘ往來スル滿船ノ賃銀ハ撓手五人ニテ片道六「アンナ」往道十「アンナ」、撓手二人ノ船ニテ片道四「アンナ」往返七「アンナ」ヲ通例トス。然レドモ不案内ト察スルトキハ通常以外ノ賃錢ヲ貪ラントスルモノ多シ。

前記報告中諸物價其他金額ハ皆印度貨ヲ以テ示セリ。故ニ之ヲ日本貨ト對照シ以テ參考ニ供セントス。

印度貨ノ制ハ、

三「ピー」ヲ以テ　一「パイ」ト爲シ

四「パイ」卽チ十二ピーヲ以テ　一「アンナ」ト爲シ

十六「アンナ」ヲ以テ　一「ルーピー」ト爲ス

英貨ト印度貨トノ交換相場ハ時々高低アリ、本艦碇泊ノ際ニ於テハ英貨一磅ノ相場十六「ルーピー」ナリ。

本艦ニ於テ乘員ニ交換スル英貨ハ一圓ニ付二志六片四分ノ三ノ割合ナリ。故ニ一磅ハ我七圓八十錢五厘ナリ。右ヲ以テ十六「ルーピー」ニ交換スルトキハ左ノ如シ。

印度貨	日本貨
一ルーピー	四十八錢七厘强
一アンナ	三錢强
一ピー	二厘五毛强

以上各項目ニ從ヒ記載スト雖ドモ、僅ニ一、二見聞セルモノヲ記セルニ過ギズシテ或ハ誤謬ナキヲ保シ難シ。猶ホ詳細ノ事實ニ至リテハ乞フ他日機會アルヲ待テ報告ヲ完フセン。

明治二十七年二月七日

海軍大主計　櫻井孝太郎

海軍大佐　河原要　一殿

印度ノ文明太古ニ著シキコトハ東西ノ學者共ニ許ス所ナリ。歐洲ニ於ケル商買ノ元祖ハ「ヒーニシア」ニシテ、東洋ノ元祖ハ焉ゾ其印度ナラザルヲ知ランヤ。古代及中世ニ於テシドン、タイアル、ウインス、ゼノア、ミラン、フロレンス、ノ諸市ガ貨財ヲ以テ歐洲諸國ヲ睥睨シタル所以ハ其位置ノ然ラシムルニ依リ、亞細亞ト歐羅巴トノ商業ヲ連絡セシムベキ中心ニ居リタレバナリ。今當時印度ノ依テ以テ舟楫ノ便ヲ以テ印度洋ヲ渡リ、ペルシヤ江ヲ越ヘテ「バスラ」ニ出デ、爰ヨリ二途ニ

分レ、一ハ「チグリス」河ヲ溯リテ「バクダット」ニ出デ、尙其江ヲ溯リ盡シテ陸路駱駝ニテ「アルメニア」ヲ渡リ、以テ黑海ノ東岸ナル「トレビゾンド」ニ出ヅルナリ。他ノ一ハ「バスラ」ヨリ「イウフレーツ」河ヲ溯リテ「バベロン」ニ出デ、陸路駱駝ニテ「タドモル」「ダマスカス」ヲ經テ「シドン」「タイアル」ノ諸市ニ出ズルナリ。又他ノ道ハ印度西海岸ヨリ海路直ニ亞丁ニ到リ、陸路駱駝ノ便ヲ以テ「チヤス」ニ出デ、「ナイル」江ヲ下リテ「カーロー」「アレキサンドリア」ニ出ヅルナリ。十五世紀ニ至リ土耳格勃興シ、黑海ト埃及トヲ扼シテ北道路ヲ塞ギ、喜望峯ヲ囘リテ商業ヲ營ムノ止ムヲ得ザルニ及ンデハ、商買ノ中心ハ既ニ他ニ移リ、一時繁榮ヲ極メタル諸市ガ俄カニ衰微ヲ致シタルヲ觀レバ、當時印度ノ貿易ハ頗ル歐洲ニ影響シタルヲ知ルニ足ルナリ。「ハンサ」ノ市街漸ク傾キ、「ポルチガル」「スペーン」ノ諸國漸ク興ルニ及ビ、「ポルチガル」政府ハ强大ナル海軍ヲ提テ印度ニ向ヒ、數度ノ戰爭ヲ經テ漸ク其勢ヲ張リ、「カリカット」「ゴア」ノ諸市ニ倉庫製造所ヲ設ケ、始テ歐洲ト印度トノ確實ナル商業ヲ營ムノ端緒ヲ開ケリ。千五百四十年ヨリ千六百年ニ至ル間ハ「ポルチガル」ノ名ハ獨リ印度ニ止ラズ、西ハ「ペルシヤ」ヨリ東ハ日本ニ至ル迄威名赫々タリキ。「ポルチガル」衰ヘ、「オランダ」榮ヘ、彼ノ有名ナル東印度會社ノ設立ト共ニ「フランス」英吉利ノ諸國モ亦窃ニ野心ヲ印度ニ挾ミ、屢々艦隊ヲ東方ニ派遣スルニ至レリ。「フランス」ハ千六百二十四年ニフランス東印度會社ヲ創立シ三十四年ニハ遂ニ「ポンヂヤーリー」ニ殖民ヲ組織スルノ幸運ヲ得タリ。英吉利モ亦英吉利印度會社ヲ興シ、千六百十二年「スウラツト」ニ製造所ヲ設ケテヨリ以來幾多ノ艱難ヲ嘗メ、緒業漸ク開クルニ至ルヤ、オランダ印度會社ノ嫉妬ヲ招キ、「アンボイチ」ノ市街ヲ擧ゲテ其屠戮スル所トナレリ。爾來英會社ハ屈セズ撓マズ益其規模ヲ擴メ、夫ノ有名ナル「チヤイルド」兄弟ハ不世出ノ才ヲ以テ東西相呼應シテ事ヲ處シ、日ナラズ「マドラス」「ベンガル」「ボンベー」ノ各所ニ紅旗ヲ輝カスヲ致セリ。此時ニ當リ印度ハ王室衰ヘ諸侯强ク、兄弟權ヲ爭ヒ、骨肉相軋ル、豺狼野ニ滿チ盜賊公行ス。佛領「ポンヂチヤーリー」ノ令ニ「デウプレー」ナル者アリ、謂ラク印度ノ民人大ナリト雖ドモ各宗教人種言語慣習ヲ異ニス、且ツ其權ヲ爭フ既ニ斯ノ如シ。若シ其一族ト相結托シ土兵ニ教フルニ西式ヲ以テセバ、以テ印度ヲ一統スルニ足ラント、爰ニ於テカ「チヤンダ、ザイブ」ナル者ト相結ビ、事成ルニ垂ントシ、遂ニ「クライヴ」氏ノ敗ル所トナリ、未ダ幾干ナラズシテ本國政府ノ召還ヲ受ケ、千古ノ名案ハ遂ニ空シクナリタリト雖モ、「クライヴ」「ヘスチング」以下英吉利ノ政治家ニ印度ヲ一統スルノ方策ヲ授ケタルハ實ニ「デウプレー」其人ナリト謂ハザルヲ得ズ。「クライヴ」氏ノ英邁フランス、オランダ、ポルトガルノ殖民ヲ印度ヨリ拂ヒ、始メテ英國ノ印度ニ於ケル殖民ノ基礎其確實ヲ致シタルハ實ニ千七百六十七年ナリ。爾來「ヘスチング」「コルンウオリス」「ウエルスレー」「バーロー」「メントウ」「アムハースト」「ベンチンク」「オークランド」「エレンバル」「ハルヂンス」「ダルハウシー」ノ諸政治家輩出

シ、千七百六十八年ヨリ千八百五十七年ニ至ル迄各其英才ヲ印度ノ國事ニ致セリ。然レドモ國家公共ノ事尙私立會社ノ手ニ存シ、百弊萠リニ興リ爭亂相踵キ復タ如何トモナスベカラザルノ伏ヲ呈セリ。夫レスペーイン、ポルトガル、オランダノ殖民ガ東西ニ沈淪シタルハ、各其專買ノ位置ニ伴フ百弊ノ致ス所ニ非ラズヤ。然ラバ則チ英吉利印度會社豈獨リ其運命ヲ異ニスルヲ得ンヤ。事情既ニ斯ノ如シ、且ツ英國ハ一タビ米國ノ殖民ヲ失フテヨリ漸ク專買ノ非ナルヲ悟リ、千八百四十一年ニ彼ノ有名ナル政治家「ロバートピール」氏內閣ニ入ルニ及ンデ「コブテン」「ブライト」ノ諸氏內外ヨリ併輔ケ、自由貿易ノ眞理ヲ唱ヘ、遂ニ航海條例防穀令ヲ廢止スルヲ得タリ。氣運ノ向フ所復如何トモ爲ス可カラズ、久シク東洋ノ貿易ヲ壟斷シタル印度會社モ今ヲ去ル三十六年ノ爭亂ト共ニ其終ヲ告ゲ、翌年十月一日ノ布告ニ依リ英國女皇陛下ハ印度二億五千萬ノ善男善女ニ君臨セラレ、山ニハ鐵道電信ヲ敷キ、河ニ水道堤防ヲ造リ、富源ハ日ニ月ニ新ナルノミナラズ、沿岸ノ港灣ヲ開放シ、世界各國ノ商人就テ以テ自由ニ貿易ヲ營ムヲ得、近クハ我日本帝國ノ新航路ヲ孟買ニ見ルノ隆盛ヲ致セル仔細ヲ探究スルトキハ誠ニ感激ニ堪ヘザルモノアルナリ。

印度ハ北ヒマラヤ山ニ界シ、南ハ印度洋ニ面シ、北緯八度乃至三十七度東經六十六度四十四分乃至九十九度三十分ニ跨リ全土ノ面積百五十萬平方哩アリ。

國ノ北方ニ當リ一帶ノ高丘アリ、海ヨリ海ニ終ル。此丘脈ハ灌漑ノ便ヲ全國ニ與フルノミナラズ、印度語人種トマラシ語人種トヲ區分スル線路タリ、此線路以南ヲ南印度ト稱シ其以北ヲ北印度ト呼ブ。

印度ノ人口ハ種々ノ國民ヨリ成立シ、印度人ト稱スレバ恰モ歐羅巴人ト言フ如シ。之ヲ大別スレバ曰クマホメット人種、アルヤン人種、ドラウイダ人種等ナリ。又其言語容貌ノ區別ヲ以テ之ヲ細別スレバ殆ント際限アルベカラズ。現ニ印度語ニ五十有餘ノ區別アリト云フ。

昔時會社ノ印度ヲ支配スル時ニ在リテハ知事長ハ無限ノ權力ヲ有シ、唯本國會社ニ對シテ其責ヲ有シ、會社ハ一方ニ於テ株主ニ對シ其責ニ任ジ、一方ニ於テハ君主及議院ニ對シテ其責ニ任ズルノ制ナリシガ、千八百五十八年ノ布告ヲ以テ知事長ト內閣トノ中間ニ介セル者ヲ廢セリ。

今ヤ印度總裁ハ內閣員ノ一人ニシテ、他ノ諸大臣ト共ニ內閣ニ出入シ、十五名ノ評議員ヲ有シ、其多數決ヲ以テ萬機ヲ處スルト雖モ、急據ナル場合或ハ秘密ニ屬スル事ニ至リテハ總裁自ラ之ヲ處ス。憲法ニ依レバ印度ハ政廳及州廳ノ聯合體ト謂フヲ得可シ。女皇陛下ヲ代表スル者ヲ副王又知事長ト稱シ中央集權ヲ掌ル。各廳ハ多少其令ヲ仰グ者ナリ。此政廳ハ全數九個ニシテ土地ノ面積九十四萬平方哩人口二億ヲ有ス。政廳ノ長ヲガワルナー、レフテナントガワルナー、チーフマンミッシヨナー或ハレシデント謂ヒ、各相同ジカラズ。是レ畢竟中央政廳ニ對スル獨立ノ多少ニ依リテ名稱

ヲ異ニスルト知ルベシ。試ニ之ヲ列擧スレバ左ノ如シ。

1 Leiut-Gorernorship of Bengal
2 〃 〃 〃 the north west Prauince
3 〃 〃 〃 〃 Panjab
4 Governorship of Bambay
5 The Chief commissionership or the certral Prauines
6 Barar
7 Gauernarship of madras
8 Chief Commissiaership of British Burma
9 〃 〃 〃 Mysare Coorg

此他ニ依然舊時ノ君主ヲ戴キ、兵役ニ服スルノ義務竝ニ租稅ヲ納ムル義務ヲ除クノ外ハ、總テ獨立ノ體面ヲ存シ、君臣ノ分尙封建ノ制ニ依ルノ國アリ。

印度ノ國民ハ既ニ記述セルガ如ク其種族頗ル多ク、隨テ天禀ノ氣質同ジカラズト雖モ、要スルニ皆迷頑固陋ニシテ、進取ノ氣慨ナク、自國人種間ニ在リテハ宗教言語ノ異ナルニ隨ツテ相反目シ、

動モスレバ輙チ爭鬪ヲ事トスト雖モ、西洋人ヲ目シテ生レナガラ智德共ニ己レノ上ニ在ル者ト做シ、喜ンデ其身ヲ驅馳ニ供スル者滔々天下皆是レナリ。因襲ノ久シキ漸ク俗ヲ成シ、百五十萬里ノ方土三億ノ人口靡然一陣ノ西風ニ偃シ、自ラ起ツ能ハザルヲ怪シマザルノミナラズ、却テ其使役ニ甘ンズルハ宗教ノ弊其骨ニ徹シ、復タ救フベカラザルニ至リタレバナリ。今ヤ英國ノ政治家ハ印度國內ニ於ケル各種ノ宗教ヲ政治ニ利用シ、之ヲ以テ國內各種ノ人心ヲ離間シ、之ヲ以テ互ニ相反目セシメ、之ヲ以テ互ニ相掣肘セシム。若シ印度人ヲ化シテ盡ク耶蘇教ト爲セバ、印度ノ危殆累卵啻ナラザルベシ。故ニ國內ニ於ケル各種ノ宗教ヲ併セ存スルノ方針ヲ執ルコト其跡實ニ掩フ能ハザルモノアリ。故ニ國內ニ宗教ノ爭鬪起ルコトアルモ、暫ク傍觀シテ直ニ之ヲ鎭撫スルヲ爲サズ、其害毒漸ク甚シク、各教者間ノ怨恨互ニ銘心スルニ至リテ僅ニ起テ之ヲ鎭定スルノ跡アリ。昨年八月當孟買市內ニ於ケルマツサルマン人トヒンダス人トノ爭鬪始末ハ實ニ好例ヲ示セル者ナリ。顧フニ僅々十萬內外ノ白兵ヲ以テ、能ク三億ノ民人ヲ統御スル豈其術ナクシテ可ナランヤ。

印度人ハ耕作ヲ以テ業トナシ、穀物ヲ以テ食物ニ充ツルコト他ノ東洋人ニ異ルコトナシ。尤モ九十一年ノ統計ニ依レバ此業ニ從事スル者人口ノ總數ニ對シ實ニ百分ノ六十二ニ當ル。故ニ政府ノ歲入ハ地租ヲ以テ第一トナセリ。產物ハ土地氣候ノ異ナルニ依リ各地同ジカラズ、隨テ各地其食物ヲ異ニスルアリ、米食麥食ノ者各四分ノ一、粟食ノ者四分ノ二ナリ。故ニ之ヲ概スレバ印度ノ食物ハ

米麥ニアラズシテ粟ニ在リト云フヲ得ベシ。其他油種、蔬菜、菓實、コ、ア、砂糖等ハ皆收納ノ額ニ於テ大ナル部分ヲ占メタリ。然リト雖モ、印度ノ農業中商業ニ關シテ最大ノ要地ヲ占ムルハ綿ニ若クモノナシ。綿業ハ起源甚ダ遠シト雖モ、昔時ニ在リテハ國內ノ需用ニ應ズルニ過ギズシテ、其外國ニ輸出スルガ如キハ其例至テ尠カリキ。現時ノ隆盛ヲ致セルノ起源ハ近ク米國戰爭ノ時ニ在リ。是ヨリ先キ英國ノ木綿製造地ナル「ラシカスシヤイアー」ニ於テ使用スル材料ハ之ヲ米國ニ仰ギタリシニ戰爭起ルヤ其供給忽チ斷絕セリ。是レ印度ニ此業ヲ興スノ機ヲ與ヘタル所以ナリ。爾來米國平和ニ歸シ當國ノ輸出著シク減ジタリト雖モ、地味ト氣候ト皆此道ニ適シ、再ビ隆盛ニ赴キ、九十一年ノ統計ニ依レバ孟買及「シンド」ヨリ輸出セル生綿ノ價格ハ無慮一億三千二百二十三萬三千六百八十「ルーピー」、綿糸六千百四十一萬三千九百三十「ルーピー」、成造品七百五萬八千六百八十「ルーピー」ノ額ニ達セリ。

次ニ記スベキハ麻ノ耕作ナリ。其進步發達ノ速カナル敢テ綿業ニ讓ラズ。統計ニ依レバ輸出ノ價格一億八十三萬九千七百二十「ルーピー」ナリ。藍業モ亦至大ナル耕作ナリ、此品タル輸出ヲ以テスレバ麻ノ下ニ在リト雖ドモ、其國內ニ於ケル需用ニ應ズルノ點ニ於テハ却テ之ニ勝ルアルベシ。

阿片ノ耕作ハ官業ニシテ、人民ノ妄リニ之ニ從事スルヲ許サズ。九十一年ニ孟買ヨリ輸出セル金額ハ一億「ルーピー」ニシテ、之ニ對スル政府ノ純益ハ實ニ六千萬「ルーピー」ナリキト云フ。其他茶、珈琲、煙草、生糸等皆要用ノ地位ヲ占ムルト雖モ、爰ニ之ヲ細記セズシテ別ニ商業ノ一班ヲ瞥見センニ、印度ノ商業ハ太古ヨリ既ニ著シク歐洲諸國ノ盛衰セル所以ハ皆其影響ヲ蒙リタルノ結果タルコトハ既ニ記述セルガ如シ。太古ノ事ハ暫ク措キ、中世以來其業務ハ次第ニ發達シ、近世米國戰爭「クリミヤ」戰爭「スウエス」運河ノ開通等ハ實ニ至大ノ關係ヲ有シ、海運ノ貿易ヲシテ今日ノ隆盛アラシムルヲ致セルモノナリ。印度ハ其地形ノ然ラシムルガ如ク、其貿易二途ニ岐ル。卽チ一ハ陸路ニ依リ一ハ海路ニ依ルモノ是ナリ。陸路ニ依ルモノハ其業確實ナルガ如シト雖モ、之ニ伴フテ進步發達モ亦甚ダ尠シ。之ニ反シテ海路ニ依ルモノハ其變化實ニ極リナシト雖モ、其進步發達ニ至リテハ實ニ測ル能ハザルモノアリ、今一、二ノ表ヲ以テ之ヲ證セン。

年次	輸入			輸出		
	木綿製造品	各種商品	金銀珠玉	生綿	各種商品	金銀珠玉
1840—44	319,000,000	769,000,000	276,000,000	234,000,000	1,379,000,000	46,000,000
1845—49	375,000,000	914,000,000	307,000,000	168,000,000	1,567,000,000	132,000,000
1850—54	515,000,000	1106,000,000	479,000,000	314,000,000	1,902,000,000	99,000,000
1855—59	694,000,000	1558,000,000	1,127,000,000	311,000,000	2,492,000,000	92,000,000
1860—64	1,092,000 000	2397,000,000	1,709,000,000	1,556,000,000	4,215,000,000	102,000,000
1865—69	1,574,000,000	3170,000,000	1,762,000,000	2,598,000,000	5,586,000,000	180,000,000
1870—74	1,756,000,000	3804,000,000	826,000,000	1,741,000,000	5,625,000,000	159,000,000

1875—79	1,929,000,000	3,836,000,000	985,000,000	1,152,000,000	6,032,000,000	281,000,000
1880—84	2,404,000,000	5,015,000,000	1,166,000,000	1,396,000,000	7,908,000,000	132,000,000
1885—89	2,741,000,000	6,152,000,000	1,362,000,000	1,340,000,000	8,864,000,000	164,000,000

前表ハ四ケ年毎ニ統計セル者ナリ。各區分ニ就キテ之ヲ調査スレバ多少消長アルヲ免レズト雖ドモ、其大體ヨリ之ヲ觀察スルトキハ其進歩殊ニ著シト謂フベシ。又千八百九十年ヨリ九十一年ニ跨ルノ一ケ年間ノ統計ヲ觀レバ實ニ驚クベキモノアリ。卽チ輸入ノ總價格ハ九億九百五十四萬三千八百六十「ルーピー」ニシテ、輸出ノ總價格ハ（政府ノ需用品ヲ除ク）實ニ十九億三千萬「ルーピー」ナリ。復タ盛ナリト謂ハザルヲ得ズ。以上輸入ノ價格ニ對スル百分ノ七十七半ハ「スエス」運河ヲ經ルモノニシテ、輸出ノ價格ニ對スル百分ノ五十八モ亦該運河ヲ經由セリ。又同年度間ニ印度ノ諸港ヲ出入セル船舶數ハ一萬千二十三艘ニシテ、其噸數七百六十八萬四千九百五十四噸ナリ。此總數ノ內百分ノ八十二半ハ英國ノ所有ニ係リ、百分ノ四ハ英領印度ノ所有ニ係リ、百分ノ十一半ハ外國ノ所有ニ係ルモノナリ。

又此輸出ハ如何ナル得意先ニ向ヘル乎ヲ調査セシニ、其百分ノ五十、二五ハ英國ニ向ヒ、一一、一五ハ支那ニ、四、八七ハ「マラツカ」殖民地ニ、四、六三ハ佛蘭西ニ、三、一五ハ日耳曼ニ、二、九一ハ白耳義ニ、二、八七ハ米國ニ、二、三六ハ「オーストリヤ」ニ、二、一九ハ伊太利ニ、二、一三ハ聖倫ニ、一、五九ハ濠洲ニ、一、五一ハ「モーリチアス」ニ、、九七ハ「アラビア」ニ、、八一ハ「ザンヂバー」及「モサンビック」ニ、、七一ハ日本ニ、、六三ハ土耳格ニ、、六二ハ亞丁ニ、六二ハ露西亞ニ向ヘルモノナリ。

輸入品ノ種類ヲ調査スルニ、第一ハ木綿ニシテ金、銀之ニ次グ、其他ハ著大ナルモノナシ。銅、鐵、政府兵營ノ需品、鐵道ノ材料、鹽、食料、器械、絹布ハ皆輸入品ノ一部ナリ。サレバ「マンゼスター」ヨリ出ス所ノ木綿ヲ除クノ外ハ、輸入品ハ各般ノ雜貨品ニシテ一ノ見ルベキモノナシ。輸出品ニ在リテハ生綿第一ノ地位ヲ占ムルコト農業ノ部ニ於テ既ニ之ヲ先言セリ。最近ノ統計ニ依レバ輸出ノ總價格二億六千三十萬八千七百六十「ルーピー」ナリ。之ニ次グモノハ麻業ナリ、此業ノ今日アルヲ致シタルハ恰モ米國戰爭ノ綿業ヲ幸シタルガ如ク、クレミヤ戰爭起ルヤ、從來露領ヨリ「フオアフアーシヤイアー」ニ供給セル材料ハ忽チ絕斷シタルニ依リ、印度ヨリ其供給ヲ仰グノ止ムヲ得ザルニ至リタルヲ以テ其濫觸トナシ、爾來年々其額ヲ增シ、遂ニ一億八十三萬九千七百二十「ルーピー」ノ巨額ヲ見ルニ至レリ。此他米、麥、茶、藍等尙重大ナル位地ヲ占ムルアリト雖ドモ、爰ニ之ヲ細記スルヲ爲サズ。

以上ハ海路ニ依レル商業ノ一班ナリ。而シテ之ヲ媒介スルハ「カルカツタ」「マトラス」孟買「ラングーン」ノ諸港ニシテ、皆日々盛大ヲ致ス。就中孟買ハ西岸ニ面シ最モ歐洲ニ近キノ故ヲ以テ、

其餘他ノ諸港ヲ凌ガントス。以下陸路ニ依レル商業ノ一班ヲ見ン。

陸路印度ニ輸入スルモノ

地名＼年度	1886—87	1887—88	1888—89	1889—90	1890—91
アフガニスタン	688,040	7,147,870	6,864,810	8,728,250	7,443,590
カスバル	5,386,570	6,931,740	8,123,440	6,640,880	5,593,590
ラダク	223,070	345,380	303,620	248,750	341,910
チベット	941,040	732,180	903,630	1,030,200	779,920
ネパル	18,367,340	18,482,290	15,281,340	1,550,451	1,841,145
シツキン及ボタン	179,210	36,530	376,790	349,540	359,520
ベルカール以北ノ諸國	552,980	434,680	434,290	486,170	616,500
シヤンカシネー諸國	4,785,840	6,321,580	8,988,630	361,267	5,399,670
サイアム	349,540	448,120	384,900	637,640	766,700
西支那	——	——	——	138,170	584,350
總計	37,665,630	41,709,140	41,661,530	37,376,780	40,303,150

陸路印度ヨリ輸出スルモノ

地名＼年度	1886—87	1887—88	1888—89	1889—90	1890—91
アフガニスタン諸州	39,630,090	28,784,800	26,638,150	28,234,520	22,203,850
カスバル	4,268,040	5,310,300	4,957,050	5,641,950	5,661,730
ラダク	224,750	317,120	299,300	226,680	285,210
チベット	543,810	515,120	474,840	435,050	410,250
ネパル	8,747,900	11,371,870	11,154,100	11,715,760	13,085,180
シツキン及ボタン	233,330	295,300	256,310	300,260	335,570
ベルガル及アツサム諸州	88,530	117,820	173,990	137,600	162,850
サイアム	893,840	912,060	1,082,030	1,001,960	604,660
西支那	——	——	——	526,290	1,087,490
サンカレーシネー諸州	1,818,260	2,585,020	1,931,150	2,917,420	2,747,980
總計	56,448,550	50,209,410	46,967,020	51,137,490	46,887,920

以上記述スルガ如ク、印度ノ商業ハ海路ニ依ルモノト陸路ニ依ルモノトノ二種アリテ、其性質モ亦各同ジカラズ。海路ニ依ル者ハ概ネ歐洲人就中英人ニシテ、陸路ニ依リ營業スル者ハ東洋人就中

印度人ナリ。且ツ夫レ印度ハ大陸ニシテ三億ノ人口ヲ有シ、恰モ大陸ニ各種ノ人種國ヲ列スルガ如シ。故ニ此間ニ行ハルヽ商業ハ殆ンド外國貿易ト見做スベキモノアリト雖モ、此種ノ商業ハ皆土人ノ手ニ在ルガ故ニ、統計ノ以テ徴スベキナシ。顧フニ此内地ニ於ケル商業ハ其全額或ハ外國貿易ヨリモ遙ニ巨額ヲ占ムルアラン。

印度ノ税法ヲ見ルニ鹽ノ如キ必要品ニ重税ヲ課スルハ甚ダ敬服シ難シ。又阿片鐵道道路橋梁堤防ノ諸事業ハ官業トシテ之ヲ政府ノ手ニ收ムルガ如キモ亦タ經濟ノ道ニ於テ缺クル所アルヲ信ズルナリ。試ミニ政府ノ歳出入ヲ擧グレバ左ノ如シ。

歳入（九十年ヨリ九十一年ニ至ル）	
地租	二四〇、四五二、〇九〇
阿片	七八、七九一、八二〇
鹽	八五、二三三、六八〇
印紙	四〇、六八九、六九〇
酒	四九、四七七、八〇〇
地方税	三四、九一二、四〇〇
關税	一七、四三二、一八〇
所得税	一六、一七三、九六〇
森林	一四、四八〇、〇二〇
登記	三、六五四、四九〇
封建政府ノ貢税	七、六〇四、二一〇
郵便	一四、〇二五、〇三〇
電信	七、八一〇、三四〇
造幣廠	三、五四一、五二〇
司法	六、三三九、一五〇
警察	三、六九三、八三〇
海軍	二、二五六、〇六〇
教育	二、〇三七、四五〇
醫務	一、〇一七、五一〇
鐵道	一七二、三五九、七八〇
灌漑工事	二一、七二五、七八〇

家屋及道路	六、四七二、八九〇
陸軍	七、八五六、三五〇
利子	九、三一〇、五〇〇
養老資金	三、五七五、五三〇
紙竝印刷	九二四、七二〇
交換差增	七八一、九八〇
Scientific and minor Departuent	七七六、六九〇
雜疑	三、九八九、〇四〇
總計	八五七、四一六、四九〇
歳出（同年度）	
地租	三六、七六五、九六〇
阿片	二一、八〇七、九七〇
鹽	四、二九〇、一三〇
印紙	一、三〇〇、一九〇
酒	一、七五〇、五三〇

地方税	五四〇、四〇〇
關税	一、三四六、五二〇
所得税	二九二、四六〇
森林	七、八四一、一三〇
登記	一、九六七、三一〇
郵便	一三、九六七、四四〇
電信	七、六三九、八〇〇
造幣廠	一、二一八、八八〇
行政	一七、四〇四、六五〇
司法	三六、二五八、九一〇
警察	三八、五九六、八三〇
海軍	五、五九二、五七〇
教育	一三、七一七、三五〇
宗教	一、六六〇、〇五〇
醫務	八、〇六九、三七〇

政治	七、七〇五、四一〇
Scientific and minos Department	四、八五七、四七〇
鐵道	一七九、二三二、六九〇
灌漑工事	二七、四二一、二八〇
家屋及道路	五七、三〇九、〇七〇
陸軍	二〇六、九〇〇、六八〇
特別國防事業	四、九一八、三七〇
國債利子	四一、九五三、〇四〇
備荒救濟及保險	六、〇〇〇、〇〇〇
紙及印刷	五、九二四、三六〇
Territorial and poritical	五、二七五、六九〇
Cioil Turlaugh and afsenter allowaness	二、三二七、四七〇
Superonmation allowaress and persions	三〇、五一五、四一〇
Refurd and Drambach	二、三五六、六三〇
Assighumments and Campensations	一五、一〇〇、九二〇

雜費	二、七四二、二三〇
總計	八二二、五六九、一七〇

以上ノ二表ハ以テ印度財政ノ一班ヲ窺フニ足ラン。數字ハ總テ「ルーピー」ヲ用ヒタリ。今假リニ一「ルーピー」ヲ五十錢トスレバ、歳入ノ總計ハ四億二千八百七十萬八千二百四十五圓ニシテ、歳出ノ總計ハ四億千百二十八萬四千五百八十五圓トナル。此金額ハ總對的ニ之ヲ言フトキハ甚ダ巨額トナスベシト雖モ、之ヲ百五十萬里ノ方土三億ノ人口ニ較スルトキハ決シテ多額ナリト云フベカラズ。顧フニ是レ印度ノ行政事務ハ未ダ完全ニ至ラズ、隨テ方土統一ノ業モ亦尚中道ニ在リテ全カラズ、收稅ノ事モ未ダ充分ニ其緒ニ就カザルノ致ス所ナラン乎。之ヲ要スルニ印度現今ノ景況ヲ以テスレバ、英國政府ノ印度ニ於ケル經營ハ恰モ私立ノ一大會社ガ幾多ノ資本ヲ印度ノ方土ニ投ジテ之ニ對スル利子ヲ得ルヲ以テ其目的トナスガ如キノ觀アリ。

以上ハ英國ガ印度ヲ略取セル蹤跡竝ニ印度今日ノ事物ヲ梗概セル大要ナリ。是ヨリ孟買ノ記事ニ移ルノ順序ナリト雖モ、元來本官ノ目的ハ商業一般ノ景況ヲ窺ハントスルニ在リ。而シテ商業ノ大要ヲ窺ハント欲セバ須ラク印度全體ノ景況ヲ知ラザルベカラズ。果シテ然ラバ孟買一港ノ記事ニ易フルニ印度一般ヲ以テセバ商業ノ大要ヲ窺フニ於テ反テ便利アリト謂フ可シ。是レ本官ノ此篇ヲ草

シテ以テ孟買ノ記事ヲ略スル所以ナリ。之ヲ要スルニ印度全體ノ商業ハ陸路ト海路トノ二路アリテ、而シテ海路ニ依ルモノハ「カルカツタ」孟買「マトラス」「ラングーン」ノ四港ナリ。然ルニ「カルカツタ」「マトラス」「ラングーン」ノ三港ハ皆印度ノ東ナル「ベンガル」海ニ面シ、惟リ孟買ノ一港ハ其西岸ニ在リテ「アラビア」海ニ面ス。抑モ印度ノ商品ハ輸出入共ニ「スエス」運河ヲ經由スルモノ其半ヲ過ギ、然シテ孟買ノ位置ハ最モ歐洲ニ近ク、航海亦最モ便利ナルガ故ニ、夙ニ商業ノ繁昌ヲ致シ、今日ニ在リテハ印度商業ノ中心ト稱スルモ敢テ不可ナカルベシ。本艦ノ孟買ニ入ルヤ、第一ニ本官ノ念頭ニ來ルモノハ、曰ク今回我日本郵船會社ノ航路ヲ此地ニ開クヤ、生綿ヲ日本ニ送ルヲ以テ其主眼トナスト雖モ、日本ヨリ此地ニ來航スル時ニ積載セル日本貨物ハ如何ナルモノヲ以テスルヤ、曰ク日本郵船會社ハ如何ナル信用ヲ以テ此新世界ニ立ツベキ乎ノ問題卽チ是ナリ。夫レ英吉利ノ印度ニ輸入スル物品ハ如何ナルモノナルカハ既ニ前ニ述ベタルガ如ク、生綿ヲ印度ニ仰ギテ之ヲ「ランカスター」ニ送リ、完全ナル機械宏大ナル資本ヲ以テ賃銀ノ高昂ナルニモ拘ラズ、低廉ナル織物ヲ製出シ、之ヲ印度ニ輸出スルナリ。抑モ印度ノ民タル、生活ノ度甚低ク、米粟ヲ食シ木綿ヲ衣裝飾品ヲ要スル甚ダ少シ。故ニ日本ノ美術品ヲ當地ニ致サントスルガ如キハ決シテ其功ナキヲ信ズルナリ。果シテ然ラバ石炭ヲ以テ優劣ヲ較スルコト誠ニ宜ニ適スルガ如シ。蓋シ印度ノ石炭ハ資質甚ダ惡シク、船舶紡績其他ノ工場ニ要スル需用ニ充ツル能ハズ。故ニ頻年之ヲ英國ニ仰グモノ其額實ニ巨大ナリトス。目下英炭ノ價格ハ十八乃至二十一留ニシテ、日本炭ハ十一ニ留ナリ。而シテ石炭ノ資質ヲ較スルトキハ、英炭ノ二十噸ハ日本炭二十八噸ニ當ルト云フ。卽チ資質ノ比較ハ五ト七トニシテ、價格ハ四ト七トナリ。然ラバ則チ我石炭ヲ當地ニ致スコト決シテ成算ナキニ非ザルヲ知ルニ足ラン。況ンヤ金、銀ノ相場ハ日ニ月ニ其懸隔ヲ致シ、我ヲ利スル甚ダ大ナルアルオヤ。又タ次ニ日本ノ最大ノ意ヲ注ギテ調査ヲ要スベキモノハ「ランカスター」ノ機業ナリ。現ニ印度ハ賃銀ノ廉ナルニ拘ラズ、遙ニ木綿ヲ英國ニ仰グ所以ハ何ゾヤ。機械ノ不完全ナルコト、之ヲ使用スルニ熟セザルコト、資本ノ大ナラザルコト等ハ其大ナル原因ナルベキヲ信ズ。苟モ日本ニシテ此之條件ヲ具備スルコトヲ得バ、「ランカスター」ノ機業ト輸贏ヲ印度ノ市場ニ爭ヒ、人民三億ノ得意ヲ英吉利ヨリ奪フコト敢テ難カラザルベシ。夫レ氣運ハ人事之ヲ支配スルト謂フモ豈天ニアラズヤ。美邦ノ爭擾「クレミヤ」ノ長圍、遙ニ印度ヲ幸シタルノ跡ヲ觀ルニ、皆天ニアラザルハナキ也。然ラバ則チ銀貨ノ下落ハ焉ゾ其我日本今日ヲ幸スルニ非ルヲ知ランヤ。

佛ニハ　エム、エム會社アリ、英ニハピアノウ會社アリテ、此二者ハ巨大ナル資本船舶ヲ以テ世界ヲ雄飛シ、其運送權ヲ爭フコト一日ニアラズ。互ニ切瑳琢磨シテ業務ノ進歩ヲ計リ、隙ノ乘ズベキヲ待ツコト今日ノ常態ナリ。此時ニ當リテ我日本ハ四五艘ノ少數ナル船舶ヲ以テ新ニ航路ヲピアノウ會社ノ根據ナル孟買ニ開キタルハ、素ヨリ諸會社トノ特約ニ依リタルモノニシテ、敢テ危險ヲ冒

シタルモ非ズト雖ドモ、本官ハ當時以爲ラク、郵船會社ハ日本諸會社トノ約束ニ依ルモノノ外ハ毫モ手ヲ内外ニ出ス能ハザルベシト、當地ニ來ルニ及ンデ始メテ其大ニ然ラザルモノアルヲ知レリ。是ヨリ先キ「ピアノウ」會社ハ一噸ニ付キ十四留ヲ以テ運賃ヲ規セリ。然ルニ郵船會社ノ航路ヲ此地ニ擴張スルノ擧アルヲ開クヤ、遽ニ之ヲ九留ニ下ゲ、未ダ幾何ナラズ之ヲ十一留ニ上ゲ、航路ノ實行ヲ見ルノ今日ニ及ンデハ再ビ之ヲ四五留ニ下ゲタリト云フ。嗚呼ピアノウ會社ノ郵船會社ヲ恐ル、何ゾ其ノ甚シキヤ。夫レ郵船會社ハ外國ノ航路ヲ試ムルコト今日ヲ以テ始トナスモノニシテ、其内外ニ信用ヲ得ルハ素ヨリ言ヲ要セザルナリ。此信用ナキ會社ガ三四艘ノ少數ナル船舶ヲ以テ三週間ニ一回ノ出發ヲ試ムル「ピアノウ」會社ニ於テ何カアラン。同社ノ爲メニ計ルニ宜シク知ラザル爲ネシテ郵船會社ノ爲ス所ニ任スベキノミ。然ルニ同社ノ計爰ニ出デズシテ屢運賃ヲ上下シ、遂ニ我郵船會社ヲシテ内外人ノ注目スル所ト爲サシメタルハ是レ自ラ不利ヲ招キタルモノナルコトハ勿論ナリト雖モ、爲メニ我郵船會社ノ信用ヲ内外ニ發揚シタルハ本官ノ固ク信ズル所ナリ。況ンヤ我軍艦吉野ハ港内諸軍艦ニ比シテ第一ノ勢力ヲ有シ、堂々タル國旗嚴肅ナル軍隊ヲ彼ニ示シ、彼ヲシテ敬畏ノ念ヲ起サシメタルノミナラズ、我商業ノ信用ヲ發揚スルノ道ニ於テ活潑ナル運動ヲナシ、恩威以テ彼ノ敬愛ヲ得タルニ於ケルオヤ。然リト雖モ事素ヨリ創業ニ屬シ、基礎未ダ確乎タル能ハズ。宜シク今ニ於テ内ニハ領事ヲ派遣シ、外ニハ斷ヘズ軍艦ヲ巡航セシメ、以テ内外ヨリ聲援ヲ張ルコト今日ノ最大要務ナラン乎。

右報告仕候也

明治二十七年二月七日

海軍大佐　河原要一

海軍大主計　片桐酉次郎

一殿

秘書類纂 兵政資料

人名索引

《イ》

伊藤雋吉 一八
井上毅 三二
イヤリング 六七
イルバート 七一
伊藤博文 一三六、三六一
伊地知弘一 一六〇、一七九、一八一、一八四、一八九、一九三
井出謙治 三七一、三八三

《ロ》

ロートン 七二
ロバートヒル 四五七

《ハ》

バレー 三〇六
ハンテル 三五九
ハーリー 三六三
バツヂエン 三六三
ハワード 四一三
バラーク 四三一
萩澤貫一 四三四
ハーロー 四五六
ハルヂンス 四五六

《ニ》

錦織譯官 三一
仁杉英 一五九
西紳六郎 三七二、三九八

《ホ》

ボンヂヤミン 四一三

《ヘ》

ベツプウオース 四〇二

ペタイト　四一
ペチト　四二九
ペシーフキプソン　四三三
ヘスチング　四五六
ベンチング　四五六

《ト》

トーマス・ルーソー　二三
ドートル・メール　二九七
ドコンスキー　三〇四
トウイツデル　三九九

《チ》

張之洞　三〇五
ヂエゼブホイ　四三〇
チャイルド　四五六
チヤンダザイブ　四五六
ヂウプレイ　四五六

《リ》

リヨンネ　二〇八
李鴻章　三〇五
リヒトホーヘン　三五六、三五八

《ヌ》

ヌバルパシヤ　三五六

《オ》

大山巖　一、二、二〇九、二四八、二五〇、二五一、二五三、二五四、二五五、二五九
大山綱介　三一七
オークランド　四五六

《ワ》

ワイズメン　四〇四

《カ》

カメケー　四〇
金子堅太郎　六七
カール　七八
風祭甚三郎　一五九
樺山資紀　一九三
桂太郎　二〇九、二四〇
川上操六　二〇九
川村純義　二四一、二四七
河原要一　三六二、三六五、三六七、三六八、三七七、三八三、三八九、四一八、四二四、四五四、四七六
梶川良吉　三七一、三八三
加藤友三郎　三七二、三九八
片桐酉次郎　三七三、四七六
カルセットデーカマ　四〇一、四三二

《タ》

田口卯吉　一五九
ターナー　三六四
高桑勇　三七一、三七七
田所廣海　三七二、三九八
タツポール　四三〇

《レ》

レセップ　三四〇

《ナ》

ナポレオン　七七
中川領事　三〇四、三〇九、三一〇
中島與曾八　三七二、四一八

《ラ》

ラウエルグロスハイム　四七
ラストムデー　四〇一

《ム》

ムスタフア　三五六
村上格一　三七一、三八三

《ウ》

ウイルヘルム　四〇、四一、四四、四六、四九、五〇、二三
ヴオーガツク　三〇三
ウエーバー　三〇五
ヴインケツト　三五一、三五二、三五四、三五五、三五六、三五七、三五九
ウラーク　四三三
ウエルスレー　四五六

《ノ》

ノール　三五一、三五七、三五九
《ク》
グロメル　三五一
グレー　四三一
クライブ　四五六
《ヤ》
山縣有朋　九九、一四二、一四六
《マ》
眞中直道　六五
松方正義　一六五
マクドナード　四三三
《ケ》
ケデーフ　三四二、三五七
《フ》
フリード　四五
福島安正　三〇一、三〇三、三〇九、三一四、三一七、三二四、三二七、三三〇、三四〇、三四八、三五四、三五七、三五九
藤田領事　三一七、三二一
深見鐘三郎　三七二、四一八
ブライト　四五七
《コ》
ゴルツ　二三九
小松宮彰仁親王　三〇二、三〇九、三一四、三一七、三二四、三三〇、三四〇、三四八、三五九
ゴルドン　三五二
コルンウオルス　四五六
コブデン　四五七
《エ》
榎本武揚　一八七
エルモラーエフ　二〇五
エルギン　三六三、三六四
エレンバル　四五六
《テ》
デバー　四一
《ア》
有栖川熾仁親王　一
淺尾長慶　一五九
有地品之丞　一九六
アラビバシヤ　三四三
アバニバシヤ　三五六
秋山眞之　三七一、三七七
アルユセウ　四〇二
アシダウン　四〇三
アルノツト　四二九
アムハースト　四五六
《サ》
西郷從道　二、一八、三六一、三六二、三六五、三六七
三條實美　二四一、二四七、二五六、二五七、二五八
サイドバシヤ　三三一、三四〇
サトウ　三五一
ザルスキー　三五二、三五六
櫻井孝太郎　三七三、四五四
《キ》
木村半兵衞　一五九
キチネル　三五一、三五六、三五七
木山信吉　三七一、三八二
《メ》
メツケル　七六、八四、八九、九四、九五、一〇一、一〇八
メネリツク　三三六
メントウ　四五六
《ミ》
三浦梧樓　三三五
三宅甲造　三七二、四一八
《シ》
シエレンドルフ　四二、四三、四四、四六、四八、四九、五〇、五一
ジヨン　七四
シーボルト　三〇二、三五二
シウトン　四一三
シヤガナダン　四三三

ヒトロヴオー　三〇四、三二三
ヒール　三六三、三六四

《モ》

モルトケ　二三九
本野一郎　三五一

《ス》

スタイン　六九、七一
杉田定一　二〇三
スタインメツツ　二三九
スラチン　三五五、三五六
鈴木富三　三七二、四一八
鈴木三郎　四一八
鈴木重治　四二四

長崎港清艦水兵喧鬪事件

祕書類纂

長崎港清艦水兵喧鬪事件

目次

山縣内相上申……一
清國水兵王發ノ口供……七
日下長官清領事蔡軒氏ト談話始末ノ要領……一三
長崎事件第三報……一六
證人黑田雪章訊問調書……二四
證人高橋助次郎訊問調書……四一
證人宮川愛次郎訊問調書……四六
林長崎控訴院檢事長ヨリ司法大臣ヘ報告……五〇
同事件雜信……五七
上申書……七四

第二回上申書……七九
清國水兵暴行ノ顚末再應上申……八五
日　誌……八九
林檢事長蔡領事書簡……一〇〇
證人阪本半四郎、河村健太郎調書……一〇三
證人吉田鶴松、宮永嘉久彌、河村勝平、渡邊猛溫調書……一一五
日下知事羽野檢事書簡……一一三
清國水兵暴動顚末書……一一三七
意見報告書……一四三
波多野領事電信及回答……一五二
外務大臣書簡……一五四
徐承祖書簡……一五六
林檢事長蔡領事書簡……一五八
清國派遣者報告拔萃……一六一
青木外務次官書簡……一六四

山田司法大臣書簡……一六六
林檢事長書簡……一六七
鳩山取調局長報告書摘要……一七三
水兵暴行事件ニ付上申……一七八
徐承祖ノ具申……一八〇
了結崎案約章……一八一
長崎事件支那側電信……一八三
約章譯文……一八六
日下知事來簡……一九〇

目次了

山縣内相上申

附長崎縣知事電報

清國水師提督丁汝昌軍艦四艘ヲ師ヒ長崎港ヘ來着致候處、同港碇泊中右軍艦ノ水兵上陸暴行ノ末、遂ニ同縣巡査ト鬪爭ヲ生ジ、雙方數名ノ死傷有之候趣同縣知事日下義雄ヨリ具申致候ニ付、直ニ右暴行ノ原因及暴行後ノ事情ヲ取調べ、且證據物件蒐集方深ク注意可致旨相示シ置、更ニ別紙寫ノ通訓令ニ及ビ且實況取調等ノ爲メ當時兵庫縣下滯留ノ警保局長清浦奎吾ニ直ニ同地ヘ出張スベキ旨ヲ命ジ候條、此旨及御報告候也。

明治十九年八月十六日

内務大臣伯爵　山縣有朋

内閣總理大臣伯爵　伊藤博文殿

追テ長崎縣知事ヨリノ報告九通相添候也

内務大臣　　長崎縣知事

十九年八月十四日午後十二時十分發

昨夜支那水兵人氏ニ對シ暴行ヲ加ヘタルヲ以テ、取鎮メノ爲メ巡査出張セシ所、右巡査ニ刀ヲ以テ傷ヲ負ハセタリ水兵ニモ微傷アリ、委細ハ追テ上申ス。

内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十五日午後十二時四十分發

本日支那水兵多數上陸、今夜九時過我巡査ニ暴行ス、巡査負傷者ノ數ハ判然セザレドモ五名ヲ下ラザルベシ。支那水兵ハ利器ヲ携ヘタル趣キ、支那人ニモ負傷者アルヨシ。右不取敢申報ス。

内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十六日午前一時五十五分發

支那人ニハ死亡四人重傷六人輕傷九人、我ガ巡査ニハ死亡一人重傷一人輕傷十八人アリタリ。

内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十六日午前二時五十分發

暴行ハ梅ケ崎警察署内廣馬場梅ケ崎町及ビ長崎警察署内元籠町船大工町シツクイ町ニ起リ、梅ケ崎ノ方ハ午後八時過ニ起リ、十時過ニ鎮定、長崎ノ方ハ八時半頃ニ起リ十一時頃ニ鎮定セリ。

内務次官　　長崎縣知事

八月十六日午前十時十五分發

昨日支那水兵多數上陸シ、午後ニ到リ處々支那人ノ家ニ隱レ居リ、午後八時ニ至リ突然一人ノ支那水兵廣馬場ヲ巡行スル巡査ノ後ヨリ帽ヲ取ラントスルヤ、忽チ百餘名ノ水兵處々ヨリ突出シ、遂ニ其巡査ヲ殺シタリ。此報ヲ聞キ梅ケ崎警察署ヨリ巡査ヲ繰出シ互ニ負傷アリタリ。長崎警察署ニテハ此報ヲ聞キ詰合巡査梅ケ崎ヘ駈付ケントスル途中、船大工町ニ於テ多數ノ支那水兵ニ支ヘラレ悉ク刄傷ヲ受ケ遂ニ達スルコトヲ得ズ。折柄近傍人民得モノヲ携ヘ其水兵ニ打掛リ多數ノ水兵ヲ殺傷シタリ。水兵ノ内ニハ士官ラシキモノモ加ハリ指揮シタル由、現ニ士官一人即死シタリ。又昨夜報ジタル外ニ支那水兵十五六名ノ負傷者領事館ニ居ル趣キナリ。我人民ニモ負傷者アルヨシ、今調ベ中。

山縣内相上申

芳川内務次官　　長崎縣知事

八月十六日午前十一時二十五分發

支那兵ノ暴行ハ再昨十三日ノ事ニ原因スト思ハル、證據物ハ多少蒐集シアレドモ尙取調中ナリ。

芳川内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十六日午十二時二十五分發

支那ノ水兵重傷者中一人只今病院ニテ死去セリ。

内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十六日午後五時二十五分發

突然巡査ノ帽ヲ後ロヨリ奪ハントス、巡査之ヲ防グ際忽チ百餘名ノ支那水兵諸處ヨリ突出シ、三名ノ巡査ヲ取圍ミ終ニ打伏セ、内一名ノ巡査ハ速坐ニ殁ス。昨夜事件ノ起リハ午後八時頃、梅ケ崎警察署巡査三名支那人ノ擧動ヲ視察スル爲メ廣馬場交番所ヲ巡邏中。居留支那人五六名死セリ、其他ハ第四次開進ノ通リ。

訓令書寫

暴動ノ始末詳細速ニ報告ヲ待ツ、察スルニ上官ノ意思ヨリ出タルコトヽハ思ハレズ、艦隊ノ將官ト親シク談判ヲ遂ゲ、互ニ後來ヲ戒シムルノ手段ヲ施シ、務メテ大事ニ到ラヌ樣注意ヲ加ヘ尙ホ結果ヲ報スベシ。

明治十九年八月十六日

内務大臣伯爵　山縣有朋

長崎縣知事　日下義雄　殿

内務次官　　長崎縣知事

十九年八月十六日午後二時四十五分發

昨夜重傷ヲ負ヒタル巡査一人唯今死去セリ。

本日支那水兵多數上陸、今夜九時過我ガ巡査ニ暴行ス、巡査負傷者ノ數ハ未ダ判然セザレドモ、

山縣内相上申

五名ヲ下ラザルベシ。支那水兵ハ利器ヲ携ヘタル趣、支那人ニモ負傷者アル由、右不取敢申報ス。

明治十九年八月十六日午前十二時四十分

青木外務次官　　日下長崎縣知事

昨夜支那水兵人民ニ對シ暴行ヲ加ヘタルヲ以テ取鎮メノ爲メ巡査出張セシ處右巡査ニ刀ヲ以テ傷ヲ負ハセタリ、水兵ニモ微傷アリ、委細ハ追テ上申ス。

明治十九年八月十四日午後十二時十分

外務次官　青木周藏殿　　長崎縣知事　日下義雄

清國水兵王發ノ口供

十九年八月十三日午後十一時五分ニ於テ、譯官雇鉅鹿赫太郎警部田川基明ト暴行ニヨリ負傷シタル清國定遠艦ノ水手王發ヲ清國領事館ヘ引渡シタル際、領事ノ代理トシテ譯官劉慶汾及ビ樊淙ノ兩氏立會ノ上劉民ハ左ノ如キ手續ヲ以テ王發ノ口供ヲ取レリ。

劉　汝ノ國籍氏名年齡ハ如何。

王　清國直隸省天津人ナリ年若干。

劉　汝ハ何艦ノ乘組ニシテ何ノ職ヲ掌ルヤ。

王　定遠艦ノ上等水手ナリ。

劉　汝ハ本夜何人ト何處ヲ遊步シ居タルヤ。

王　馮二副（馮ハ姓、二副ハ水師ノ官名ナリ）ト那邊ニ遊步シ居タリ（室內ヨリ丸山ノ方ヲ指示セリ）

劉　遊廓アル所ナリシヤ。

王　然リ。

劉　然ラバ汝ハ丸山ノ遊廓邊ヲ遊步シ居タルヤ。

王　然リ。

劉　汝ノ負傷ハ何人ガ傷ケシヤ。

王　大勢混雜ノ半バナレバ何人ナリシヤ判別スルニ遑アラザリシ。

劉　日本人官吏ハ大概洋服ヲ着シ、平民ハ寬袖角帶ナリ、又巡査ハ皆白地ノ洋服ヲ着シ洋劔ヲ佩ベリ。汝ヲ傷ケタル者ハ卽チ此ノ白洋服ヲ着シタル人ニハ非ラザリシヤ。

王　然リ、今思ヒシハ白洋服ヲ着シタル人ナリ。

劉　白洋服ヲ着シタル巡査ハ腰ニ洋劔ヲ帶ビ居リシヤ、又汝ヲ傷ツケタルハ何ヲ以テシタルヤ。

王　其ノ佩ビタル所ノ刀ヲ引拔キ切付ケタリ。

劉　傷ノ深淺寬狹ハ如何。

王　深サ此ノ位ナリ。幅此位ナリト。手ヲ以テ摸擬セリ

劉　傷ハ手頭ノ一個所ニ止マルカ。

王　然リ。

劉　何レノ負傷ガ先キナリシヤ。

王　大亂雜中受ケタル傷ナレバ確ト覺ヘズ、只今大ヒニ身體勞疲シ居レバ眠ニ就カシメラレタシ。

劉　訊問ヲ畢リ安眠セシムベシ、先ヅ何事ニモ拙者ガ問ニ答フベシ。汝ハソレホドノ深手ヲ負ヒ

ナガラ如何程亂雜中ト雖モ記憶セザルノ理ナカルベシ。包マズ記憶ノ儘ヲ申立ツ可シ。

王　手ノ傷ガ先ナリシト覺ユ。

劉　手ノ傷ハ如何ナル場合ニ於テ受ケシヤ。

王　巡査ガ腰刀ヲ拔キ切付ケタルトキ手ヲ以テ支ヘタル砌受ケタル傷ナリ。

劉　頭部ノ傷ハ如何。

王　手ヲ以テ支ヘタルトキ反ス刀ニテ直ニ頭部ニ切付ケラレタリ。

劉　夫レヨリ警察署ヘ拘引セシヤ。

王　警察署トハ何處ナルヤ。

劉　警察署トハ卽チ白洋服ヲ着シタル大勢ノ巡査ガ屯集シ居ル所ナリ。

王　然リ、其所ニ連レ行キタリ。

劉　汝ヲ縛シテ連レ行キタリト聞ク、果シテ然ルヤ。

王　然リ、繩ニテ縛シ連レ行キタリ。

劉　何ヲ以テ綯フタル繩ナリシヤ。

王　麻繩ナリ。

劉　夫レヨリ如何。

王　夫レヨリ警察署ニテ黑ノ洋服ヲ着タル人ガ西洋ノ藥水ヲ以テ傷ヲ洗ヒ、白布ニテ包ミ呉レタリ。此時大ニ傷ノ痛ミヲ覺ヘ、且ツ疲勞ニ堪ヘザルヲ以テ打臥シ居タル處、間モナク我國ノ語ヲ能クスル人ガ來テ、今一人劔ヲ帶ビ黑ノ洋服ヲ着タル人ト私ヲ車ニ載セ共ニ此處ニ連レ來レリ。

劉　汝ノ帽子ハ如何セシヤ。

王　騷動ノ際遺失セリ。

劉　汝頭手各一ケ所ヲ除クノ外ハ傷ナキヤ。

王　無シ。

劉　氣分ノ惡シキコトナキヤ。

王　頭暈目眩云フニ堪ヘズ、且ツ總身ノ痛ミヲ覺フ。

劉　總身ノ痛ミハ毆打傷ニハ非ラザルカ。

王　棒ニテ毆打セラレタレドモ未ダ負傷ニ至ラズ。

劉　外ニ陳述スルコトナキク。

王　早ク眠ニ就カシメラレタシ。

右ノ如ク問答スル際、劉氏ハ單ニ王發ノ答ヘノミヲ書キ拔キ、更ラニ之レヲ修飾シ、王發ノ口供トナシ拇印セシム。

鉅鹿赫太郎　具申

日下長官清領事蔡軒氏ト談話始末ノ要領

領事　昨夜ハ我水兵ト貴國巡査トノ間ニ一ノ葛藤ヲ生ジタリ。然レドモ幸ニ大事ニ至ラズ鎮撫致セリ。然ルニ其際負傷シタル我水兵一名ヲ同夜十一時貴國警察部田川氏譯官鉅鹿氏ノ二名ガ我領事廳ヘ引渡サレタルニヨリ、田川氏ノ從ヘタル貴國巡査一名ト我巡捕一名トヲシテ同水兵ヲ病院ニ送リ治療ヲ請ハシメタル所、同病院ニ於テハ拙者ガ保證狀ヲ與ヘザレバ治療ヲ施スコト能ハズト云ヒ、只今ニ至ルモ治療ヲ施サヾル由。昨夜拙者ガ同負傷者ヲ檢視セシメタル所頗ル重傷ノ體ナル趣、然ルヲ只今迄モ療養ヲ與ヘズ、一タビ重キヲ加ヘバ事益々面倒ニ涉ルベシ。目下ノ訴ニテハ治療ノコト最緊要ナルニ付、同病院ニ於テ速ニ治療ヲ施ス樣御取計有之度。

長官　治療緊要ナルコト尤モ然リ。且ツ貴下ノ談話ニ據レバ該負傷者ハ重傷ナル趣ナルニ、昨夜ヨリ今朝迄モ治療ノ手段ナキハ拙者殊ニ不審ニ堪ヘザルナリ。請フ速ニ保證狀ヲ附セラルベシ。拙者ハ即時ニ治療ヲ命ズベシ。

領事　拙者ハ此ノ保證狀ヲ出スヲ欲セズ。如何トナレバ該水兵ハ原ヨリ拙者ガ權內ニ於テ處置スベキ者ニ非ラズ。且ツ貴警察ヨリ引渡サレタルトキニ檢傷證ヲ附セラレザルヲ以テ、拙者引取ル譯ニ至ラズ。依テ拙者ガ意ハ兩國ノ巡査各一名ヲシテ該負傷者ヲ病院ニ送リ治療セシメ、傷痕癒ルヲ待テ軍艦ニ送還セバ異議ナカルベシト。然ルニ該病院ニテハ治療ヲ肯ゼザルノミナラズ、拙者ガ派遣シタル巡捕マデモ今ニ引留メ居ルコト豈不都合ノ次第ニ無之哉。

長官　病院ハ自ラ病院ノ規則アリ、此ノ規則ヲ踏マザル者ハ入院ヲ謝絕スベシ。拙者ト雖モ此ノ規則ニ牴觸スル命令ヲナス能ハズ。故ニ貴下ノ保證狀一通ヲ渡サルヽニ於テハ、立トコロニ辨ズベシ。抑モ貴下ハ余ニ病院ニ於テ治療ヲ依賴セラルヽタメノ來訪ナルヤ否ヤ。

領事　拙者ハ偏ニ貴下ニ依賴スルニアラズ。如何トナレバ該水兵ハ貴國巡査ヨリ負傷セラレタルモノナレバ、獨リ拙者ヨリ依賴スルノ謂レナケレバ、宜シク貴下ト拙者トノ兩名ヨリ病院ニ托シテ可ナラン。

長官　貴下ハ我巡査ガ貴國水兵ニ負傷セシメタリト云ハルレドモ、我巡査其他人民中ニモ負傷者有之趣ノ報告ニ接セリ。然ルトキハ何レヨリ先ンゼシヤ、將タ何レガ發事者ニシテ何レガ防禦者タル、未ダ豫言シ得ベカラザルナリ。

領事　只今貴下ノ言ヲ聞キ始メテ貴國人ニ負傷者アルヲ知レリ、兎ニ角目下ノ急務ハ負傷者ノ治療一點ニアレバ、宜シク速ニ便宜ノ取計アラレンコトヲ希望ス。

長官　拙者ハ決シテ先キニ貴下ノ保證狀ヲ執ルニ非ラザレバ治療ヲナサシメズト云フ如キ小點ノ爭ヲナスニ非ラズ。保證狀ハ後ニテ出サル、モ妨ゲナシ、若又貴下ニ於テ保證狀ヲ出スニ差支ヘアリトセラル、ニ於テハ、是亦强ヒテ請求セズ。惟簡短ニ目下貴下ガ拙者ニ談話アリタルコトヲ書キ送ラル、マデニシテ足レリ。（此時病院長召喚セシメラル）

領事　貴下懇篤ノ言深ク感佩セリ。書信ノコトハ後ニテ如何トモ御相談相成ル儀ナレバ、速ニ治療ノ義ヲ御取計ヒ有之度。

長官　承知セリ、只今病院長ヲ召喚シタレバ其儀申付ベシ。抑今回事件ノ如キハ各國共ニ比比有之未ダ奇觀トナサズ。將來我軍艦ノ貴國ニ至リ又此ノ如キコトアルモ計ラレズ。然レドモ如此小事ヲ以テ兩國ノ交誼ニ痛痒ノ感ヲ及ボスコトアルベカラズ。往年我東京ニ於テモ時々我ガ兵卒ト巡査トノ間ニ葛藤ヲ生ズルコトアリシ。巡査ハ毎時多數ノ兵卒ニ掩襲毆打セラレ、常ニ巡査ノ失敗トナレリ。依テ先年陸軍ニ於テ憲兵等ノ設ケアリショリ、今日ニ至テ掃然舊弊ヲ除ケリ。兎角何國ノ兵卒タリトモ兵卒ノ性質ハ猛烈ナレバ、宜シク監督ヲ忽セニスベカラザルナリ。

領事　尤モ然リ、貴說ノ如ク少數者ハ常ニ多數者ノ爲メニ苦シメラル、モノナレバ、今回ノ事モ少數者ノ貴國巡査ヨリ始メザルコトハ拙者モ承知致居レリ。且ツ監督ノコトニ付テハ既ニ丁提督ト商議シ、水兵等多數ノ上陸ヲ禁ジ、若シ上陸セシムル際ハ成ルベク少數ヲ要シ、且ツ之レニ監督士官ヲ附スルコトニ決シタリ。今回ノ事ハ萬事貴下ト商議シ、飽マデ平和ノ結果ヲ見ンコトヲ希望スルナリ。

長官　至極同感ナリ。

領事　本件ニ付テハ丁提督拙者ニ向テ云ヘルコトアリ。曰ク負傷ノ水兵死ニ至ラザル限リハ君ニ委任スルニ付、宜シク縣知事ト商量辯理スベシト。拙者察スル所、目下水兵ハ負傷ニ止リ、死ニ至ラザルベシ。本件ハ飽マデ貴下ト面議シ、平和ニ局ヲ結バンコトヲ希望ス。

長官　諾。

右ノ談話ハ明治十九年八月十四日午前九時知事ノ官宅ニ於テス。

雇　鉅鹿赫太郎　筆記

長崎事件第三報

昨十四日電報ヲ以テ不取敢上申及候清國軍艦水兵暴行之顚末ニ付、長崎始審裁判所檢事羽野知顯ヨリ別紙具狀書差出候ニ付卽チ送達及候。尙ホ處分上ニ關シ清國理事署員立會負傷者ヲ檢視センコト理事ヨリ當長崎縣知事ニ照會ノ模樣、及理事ニ對シ本件求刑スベキ見込等ノ事項ハ羽野檢事ニ於テ目下調草中ニ付、引續報告可及候此段上申候也。

明治十九年八月十五日

長崎控訴院檢事長　林　誠一

司法大臣伯爵　山田顯義殿

明治十九年八月十三日午後六時頃清國軍艦水兵五名、當長崎區丸山寄合町貸座敷營業中村新三郎方ヘ來リ、各娼妓ヲ見テ指名シ、後刻來ルベキ旨ヲ約束シ、一時食事ノ爲メ立去リタル後、又他ノ清國水兵五人同人方ヘ來リ、娼妓ヲ出セトノ求メアリタレドモ、樓主新三郎ハ娼婦ノ應ズベキ者ナ

キヲ以テ其旨斷リ及プモ聞入レズ。樓主ニ於テ其談話中（卽チ午後第八時頃）先ニ約束セシ水兵樓ニ上リ來リ、各娼妓ヲ延テ室ニ入リシ處、他ノ水兵等之ヲ見テ大ニ怒ヲ發シ、後客ノ求メヲ容レテ先客ヲ擯斥スゲハ不當ナリト云ヒ、携フ所ノ日本刀（此刀ハ古道具屋ヨリ買求メ所持シ居リタルモノナラン）鞘ノ儘ニテ襖ヲ破リ、又煙草盆ヲ投ル出シ、竹床ヲ破毀シ、暴行ヲ極ムルヲ以テ、樓主ハ警察官ノ保護ヲ請ハント欲シ、階子ヲ下ラントスルニ、一名ノ清國人日本刀ヲ携ヘ其下リ口ニ立塞ガリ通行セシメザルヲ以テ、樓主ハ不得止樓上西窓ヨリ屋根傳ヘニ裏口ニ下リ、之ヲ長崎警察署丸山派出所ニ訴出タルヲ以テ、詰合巡査黑川某（派出所ニハ常ニ一人休憩シ一人張番ヲ爲ス當時一人遣警罪犯ヲ長崎警察署ヘ護送不在ナリシ）直ニ其貸座敷ニ至リ、說諭シテ取鎭メントスルモ言語通ゼズ。暴行止マザルヲ以テ、其內重立テ暴行ヲ爲ス二名ノ清國人ヲ留メ、他ノ清國人ヲ戶外ヘ立去ラシメタルニ、留メタル二名ノ清國人モ其家ヲ脫シテ逃走セリ。故ニ巡査ハ派出所ニ歸リ張番シナガラ注意シ居リタルニ、間モナク拾數名（十五人許）ノ清國人派出所ノ前ニ來リ、士官體ノ者ハ指揮シテ爲ス所アルガ如キ模樣アリ。巡査ハ派出所前ニ立出見ルニ、先ニ重立テ暴行セシ者アルヲ以テ、之レヲ引カントセシ處、彼レハ引カレジト拒ミ、無數ノ清國人ハ其抗拒ヲ助ケ、行々數十步ヲ去リ理髮店ノ前ニ至リシ處、彼ノ清國人ハ日本刀（脇差一尺四五寸許）ヲ拔キ閃メカシタルニ依リ、巡査ハ左手ニテ之ヲ取押ヘントシ、及ニ觸レ拇指ノ際ヲ傷ケタリ。此時彼ノ清國人ハ其刀ヲ引キ直ニ一刀ヲ巡査ノ額部ニ斬付ケ又一刀ヲ頭部ニ加ヘタリ。巡査ハ重傷ヲ負ヒナガラ組付其刀ヲ取揚ゲタレドモ血液眼中ニ入リ少

シクヒルミタルヲ以テ。兇行者ハ二十間許逃去リタルヲ尚追跡シ、船大工町藥種屋ノ前ニ於テ之ヲ押、ヘ双方地上ニ倒レ居ル處ヘ長崎警察署巡査二名應援ニ來リ（人民ノ報告ニヨリ駈付ケ來リシモノ）遂ニ其兇行者ヲ差押ヘ、長崎警察署ヘ引渡シ、其夜直ニ清國理事ヘ交付セリ。右爭鬪中無數ノ清國人ハ群集シテ之ヲ取圍ミ、其兇行者ヲ逃レシメントシ、又引渡セラルヽニ當リテハ之ヲ却奪セントシ、其内頭立チシ者指揮シテ暴行ヲ逞フスルヲ以テ、又其一人ヲ巡査ニ於テ長崎警察署迄同行シ直ニ退署セシメタリ。

又其雜置喧鬧中何人ノ所爲ニ係ルヤ、長崎區市民ノ内二名毆打ヲ受ケ、傷ヲ爲サヾルモ痛苦セシメラレタルモノアリ。

右兇行者タル清國人モ頭部ニ打撲傷一ケ所、右手ノ拇指際ニ一ケ所ノ負傷アリ。輕傷ノ模樣ナリ。其負傷ハ自傷カ他傷カ又何人ノ所爲ナルヤ未ダ詳ナラズ。

巡査黑川某ノ負傷ハ重傷ナリト雖モ生命ニ關スルコトナカルベキ模樣ナリ。

右犯罪ノ模樣ヲ認知シ、直ニ長崎警察署ニ至リ取調タル概略ニ有之候。證人參考人等ノ訊問充分ナラザルヲ以テ事實小異ナキヲ保シ難ク候得共不取敢具狀候也。

明治十九年八月十四日

長崎始審裁判所

檢事　羽野知顯

司法大臣伯爵　山田顯義殿

清國水兵暴行ニ關スル一件ニ付過刻上申及置候通リ處分着手之狀況等長崎始審裁判所檢事羽野知顯ヨリ別紙具狀書差出候ニ付卽チ送達候也。

明治十九年八月十五日

長崎控訴院檢事長　林　誠一

司法大臣伯爵　山田顯義殿

清國水兵暴行ニ關スル一案ノ概略ハ已ニ具狀セシ通リニ有之、其際負傷セシ巡査黑川ハ當時直ニ長崎病院ニ入院セシメ有之、又清國水兵ノ負傷セシ者ハ清國理事ニ交付セシ後、同理事府ノ求メニヨリ、是亦長崎病院ニ入院セシメタリ。依テ彼我ノ負傷者ヲ清國理事ノ立會ヲ以テ檢視スルハ後證ノ爲メ必要ノ事ナリト檢事長ニ於テ注意アリ、之ヲ縣知事ニ協議ノ末、本日警部長野間口兼一ハ譯官ヲ携ヘ清國理事府ニ至リ、立會檢視ヲ求メタルニ、理事ハ清國水師提督ニ時刻ヲ約シ置キタル急要ノ事件アルヲ以テ、屬官梁、譯官劉ノ兩人ヲ代理トシテ立會ハシムルコトニ談整ヒ、卽時野間口

警部長ハ譯官及右二名ト共ニ長崎病院ニ至リ、醫師立會ヒ先ヅ巡査ノ負傷ヲ檢シ、次ニ清國水兵ノ負傷ヲ檢セリ。水兵頭部ノ傷ハ鋭利ノ物體ニ觸レタルモノ、右手ノ傷ハ鋭利物ニ因ル切傷ナルベク、巡査ノ負傷ハ總テ鋭利ナルモノ、切傷ナルベシト醫師ノ鑑定ヲ聞キ異議ナク之ヲ終ヘタリ。

一、本暴清國水兵ガ我人民宅内ニ於テ器物ヲ毀棄シ暴行ヲナシ、我ガ巡査ニ負傷セシメタル犯罪ハ明瞭ナルヲ以テ、其處分ヲ理事ニ請求スルコトハ最モ神速ヲ要スル事ト思料シ、警察官ニ對シ速ニ引渡スベキヲ促シ、明十五日一切文書ノ交付ヲ受ケ、直ニ取調ノ末同日中理事ニ對シ其處分ヲ求ムル手筈ニ有之候。最モ事實ノ證明ニ關スル條件ハ隨テ得レバ隨テ送付スル旨ヲ豫メ照會スルノ心得ニ有之候。

一、本日午後夕刻ニ至リ清國理事ヨリ長崎縣知事ニ對シ別紙譯文ノ如キ照會書到來セリ。

右外國關係ノ事件ニ付不取敢具狀仕候也。

明治十九年八月十四日　長崎始審裁判所　檢事　羽野知顯

司法大臣伯爵　山田顯義殿

譯和文

拜啓、昨夜九時過ギ我國水手王發ナル者、貴國巡査多名ニ砍傷セラレ、既ニ貴巡査田川基明竝譯官鉅鹿赫泰ガ十一時半ニ於テ始メテ敝署ニ送到アリタリ。拙者王發ヲ訊問致シタル處、其口供ニ據ルニ、傷ヲ被リタル後麻繩ヲ以テ捆縛シ、警察署ニ拘留シ、擅ニ凌辱ヲ加ヘラレタリ云々。此レニ據リ拙者査スルニ、水手巡査ハ愚昧無知ニシテ、喧嘩毆傷ハ原ヨリ意中ニアリ、初メ繩縛拘留此ノ如ク凌辱シ、擅ニ我兵船ノ水手ヲ警察署ニ押留スルコト二時間ノ久シキアルコトヲ料ラザリシ、此等違章無禮ノ事ハ意ニ置テ論ゼザル能ハズ。此段及照會候條、貴縣知事ニ於テハ必ズ嚴重懲辨有之度希望候。敬具

光緒十二年七月十五日　清國領事　蔡軒

長崎縣知事　日下　貴下

長崎縣廳內

清浦警保局長ヨリ芳川內務次官宛來電

十九年八月二十日午後十一時十分發

水兵暴行一件ノ顚末ハ知事ヨリ總理大臣ニ詳細具申セルニ、付別ニ申報セズ。曲彼レニアルノ證ハ暴行ハ酩酊ニ原因スルニ非ザルコト、暴行ノ際兼テ買求メ置キタル日本刀ヲ取持シタル事、十三日暴行シタル水兵ノ乘込タル定遠號ノ水兵、十六日ノ暴行者中其多キニ居ルコト、警察署ヲ侵シタルコト等ナリ。事實上ヨリ推セバ故意ニ出タルノ痕跡ヲ免カレズ。尤モ其後提督ヨリ嚴ニ水兵ノ上陸ヲ止タリ。昨日談判ノ緒ヲ開キ、明二十一日第二回ノ談判ヲ開ク、提督竝ニ領事ハ偶然ナル一時ノ出來事ナルヲ以テ、國ト國トノ關係ニ及ボサズ、地方官限リ平和ニ結了センコトヲ希望ス。支那國軍艦提督ニ英人ラングナル者アリ、是レガ爲メ談判上都合ヲ得ルコト少尠、廳中特ニ別局ヲ設ケ控訴院長檢事長知事出張官等會同ノ談判ノ掛引上缺漏ナキ樣充分議ヲ盡ス。申報區々ニ涉テハ複雜ヲ免カレズ、依而今後ハ知事具申ニ讓ル。

巡査喜多村香等訊問調書

本月十五日夜、清國水兵暴擧一件ニ付テハ其狀況報告書ヲ以テ上申可仕候得共、該事件ノ發端ヲ雲覽ニ供スル爲メ、事實ヲ知ルニ足ルベシト考量スル證人中、巡査喜多村香外三名ノ訊問調書送呈仕候。尤モ其他人民中ニ於テ尙ホ狀況ヲ知ルニ確實ナルモノモ有之候得共、調書不整ニ付追テ送呈可仕候。卽今モ當院及始審廳檢事總員ヲ諸所ニ派出シ證據聚集中ニ有之候、右ハ便船出帆ノ期ニ際スルヲ以テ不取敢報告仕候也。

明治十九年八月十八日

長崎控訴院檢事長　林　誠一

司法大臣伯爵　山田顯義殿

明治十九年八月十七日長崎控訴院檢事池上三郎ハ長崎病院ニ至リ證人ノ病室ニ就キ裁判所書記青木繁實立會ノ上訊問ヲ爲ス、左ノ如シ。

巡査喜多村香等訊問調書

問　氏名ハ如何。
答　喜多村香ナリ。
問　年齡ハ如何。
答　三十二歲四月生。
問　身分ハ如何。
答　士族ナリ。
問　職業ハ如何。
答　長崎縣巡査ナリ。
問　住所ハ如何。
答　長崎區東中町三十二戶地二號。
問　出生地ハ如何。
答　大分縣豐後國直入郡竹田村五百十一番地ナリ。
問　一昨十五日ハ何時ヨリ當直セシヤ。
答　午後八時ヨリナリ。
問　通常ノ當直ナリヤ。

答　自分ハ通常ノ當直ニテ他二名ノ巡査ハ雜沓取締ノ爲メ臨時出張セリ。
問　立番ノ場所ハ何レナリヤ。
答　廣馬場四ツ角百步內外ノ場所ナリ。
問　外二名臨時出張ノ巡査ノ姓名ハ何ト申スヤ。
答　福本富三郎、黑田雪章ナリ。
問　當日雜沓セシヤ。
答　當日ハ雜沓一方ナラズ。
問　其雜沓ノ模樣ハ如何。
答　支那人終日多人數廣馬場區ヲ徘徊シ、爲メニ雜沓セシ譯ナリ。尤モ他二名ノ巡査ガ出張セシハ支那人取締ノ爲メニハ無之、日本人ノ雜沓ヲ取締ル爲メナラント存候。
問　日本人モ大分其區ヲ徘徊セシヤ。
答　日本人別ニ雜沓セシト云フ程ニハ無之候得共、廣馬場四ツ角ハ往來最モ繁クシテ、車夫ノ立場モ有之、殊ニ野菜場ニシテ平素最モ雜沓スル場所ナリ。
問　其日卽チ八月十五日ハ別ニ支那人ノ盆祭又ハ日本人ノ盆祭ノ如キモノ共ハナカリシヤ。
答　當日ハ支那寺樣ノモノニテ祭リ有之、支那人又ハ日本人ノ老人小兒輩抔參詣シ居ル模樣ナリ。

問　右支那寺樣ノ雜沓ハ左迄無之ヤ。

答　無之ナリ。

問　其日ハ午後八時ヨリノミノ當直ナリシヤ。

答　當日ハ午前ヨリ二時間交代ニテ當直シ來リ候。

問　午後八時ヨリ雜沓スルト云フ譯ニアラズ、前顯陳述ノ如キ其日朝ヨリ雜沓シ居タル譯ナリヤ。

答　終日雜沓シ居リ、支那人ニ於テ所々ニテ飲酒等致シ居タル儀ナリ。

問　雜沓取締ノ爲メ出張セシ巡査ハ何時ヨリ出張セシヤ。

答　確トハ不分モ凡ソ午後七時半頃ヨリト相考ヘリ。

問　其方ガ八時ニ交代シテ廣馬場四ツ角ヘ立番ニ出ラレタル後何カ騷ガシキコトアリシヤ。

答　騷ギノアリシ模樣ハ中々難盡程ニ有之。

問　八時ニ交代セシ時ハ何事カ騷ギアリシヤ。

答　八時三十分頃迄ハ何事ノ騷ギモ無之ナリ。

問　其前ニ立番ノ巡査ニ對シ支那人ヨリ何カ仕向ケシコトヲ聞及ビシコトナキヤ。

答　立番ノ巡査ヨリハ別ニ聞キタルコト無之モ、警察署ノ休憩所ニ於テ監督巡囘ノ巡査ニ、支那人ガ突當リシ等ノコト有之候旨ハ承リ居リ候。

問　八時三十分頃ノ騷ギハ如何ノ事ナリヤ。

答　自分ハ交番所近傍ヲ巡邏シ居タル處、新地居住ノ者ト思考スル支那人、酩酊ノ模樣ニテ言語ハ通ゼザルモ棒ヲ貸セト云フガ如キ體ニテ、福本富三郎ノ携帶セル棒ニ手ヲ掛クルヲ目擊セリ。其後福本富三郎ニ於テ日本人ノ腹部ヲ顯ハシ居リタルヲ制止シ居ル際、支那人ニ於テ頻リニ福本富三郎ニ指サシ、尙棒ヲ手ニ掛ケ或ハ手ニテ面部ヲ毆打スルヲ目擊セリ。

問　其後ハ如何。

答　福本富三郎ニ對シ前陳ノ如ク支那人ガ棒ヲ取ラント爲シ、或ハ面部ヲ毆打スル故、自分ハ言語ハ通ゼザレドモ口述ヲ以テ、右樣ノ事ハ爲サヾル樣制止シタル處、支那人ニ於テ自分ノ面部ヲ多度毆打セリ。

問　其後ハ如何。

答　一旦支那人ハ福本富三郎ノ棒ニ手ヲ掛ケ居リシ其手ヲ放シタリ。而テ福本ニ掛リシ支那人一名ハ南側饂飩屋ニ立入タリ。

問　其揉合ヒ居リシ時間ハ如何。

答　凡ソ十分時程ノ間ナリ。

問　夫ヨリ如何。

答　自分ハ三名卽チ福本富三郎、黑田雪章及ビ自分ハ、暴行者ハ酩酊シ居ルニ付、是等ノ者ニ構ハズ避クル方却テ可能ト協議セリ。

問　其後ハ如何。

答　前述ノ通リ協議整ヒタルヲ以テ、一同交番所ノ方ヘ引上グルコトニ相成リ、一番先キニ黑田雪章交番所ノ方ヘ足ヲ進メ、次ニ福本富三郎、次ニ自分ト行々、黑田ハ四五間福本自分ハ二間程足ヲ進メタル處、又々以前饂飩屋ニ立入リシ支那人一名出テ來リテ福本ノ前ニ塞ガリ、道ヲ遮ギリタリ、此時饂飩屋ニ居ル處ノ支那水兵二十名程續々出テ來リ候。

問　夫レヨリ如何。

答　前項ノ支那人又々福本ノ棒ヲ取ラントスル故、自分ハ尙又之ヲ制シ居タル處、福本ニ掛リシ水兵ニ非ザル他ノ支那人ガ福本ノ後ロニアリテ、同ジク福本ノ棒ニ手ヲ掛ケモギ取ラントセシヲ以テ、福本ハ棒ハ放ツコト不出來ト言放チ、棒ヲ握リタル處、前後左右ニ居ル處ノ水兵數十名福本竝ニ自分ニ打掛リタリ。尤モ福本ハ手足ヲ打タレタル樣ニ見受ケタレドモ、自分モ危急ノ場合故確トハ見覺ヘ不申候。

問　夫ヨリ如何。

答　自分ハ面部ヲ毆打セラレ負傷シナガラモ、福本ヘ應援スル積リニテ大勢ノ暴徒ノ中ヲ押分ケ福本ノ方ニ行キ掛ケタル處、福本ニ於テ妙ナ聲ヲ一聲發セシ故、自分モ其時福本ハ暴徒ノ爲メニ殺害セラレタルモノト思考シ、應援ニ行クノ念ヲ絕チ止マリタル處、暴徒等ヨリ前後左右ヨリ取圍マレ、大小ノ棒ニテ毆打セラルヽヲ一時ハ防ギ居タレドモ、其內暴徒ノ中ニテ竹ニテ作リタル腰掛ケ臺ヲ以テ打チ掛ケラレ、夫レガ爲メ倒レタル處、一時ニ暴徒ヨリ亂毆セラレ、最早起上ルコトヲ得ズ、亂毆セラルヽ儘ニテ居リシ處、精神喪失前後覺ヘザル事ニ至リ候。

問　夫ヨリ如何。

答　自分ガ亂毆セラレ倒レタル場所ハ北側ニ有之、其北側ノアル家ノ軒下ニ倒レ居タル處、時間等ハ更ニ不存候得共、何者共不存、自分ヲ援ケ其家ノ庭ヘ手ヲ押ヘ引入レ呉レ候者有之ニテ、初メテ精神ニ立戻リ候譯ナリ。

問　黑田ガ四五間先キニ交番所ノ方ヘ行キシ以來ノコトハ承知スルヤ。

答　其後黑田ノコトハ更ニ存ジ不申候。

問　支那人ガ毆打ノ用ニ供セシ器具ハ如何ノモノナリシヤ。

答　支那人ガ同日日中ニ持チ居リシ樫ノ一間程アル棒ナルベシト思考候得共、夜中ノ事故確ト相分リ兼候。

問　兇器ノ如キモノヲ所持セシコトナキヤ。

答　相分リ兼候。

問　他ノ者ノ噂ニテハ支那人ガ當日棒ノ先キニ刄物ヲ付ケタルヲ所持シ居リ、右ヲ暴行ノ用ニ供シタルヤノ趣ナルガ如何。

答　承知不致候。

問　事ノ起ラントスル際、人民ヨリ支那人不穩ノ模樣アル由報知セシ趣ナルガ其人名ハ承知ナリヤ。

答　事ノ起ルノ期ニ迫リ居リシ故、中々其姓名等ヲ尋ヌル暇ハ無之候。

問　福本竝其方ノ倒レシ場所ハ交番所ヨリ何程隔タリ居リシヤ。

答　饂飩屋ヨリ再ビ出テ來リシ支那人ガ、福本ノ棒ヲ取ラントシ、或ハ道ヲ遮ラントセシ場所ハ、饂飩屋ヨリ交番所ノ方ヘ寄リ筋向フニ當リ、交番所ヨリ二十間程ノ距離ニ有之候。而テ其暴行ノ爲メ福本ガ倒レシ場所ハ交番所ヨリ十間程有之、自分ノ倒レシ場所ト十三四間ト存ジ候。

問　支那人ガ棒ヲ取ラントナシ、或ハ道ヲ遮ギリシ場所ト、福本竝其方ノ倒レシ場所ト距離ノ差アルハ如何。

答　互ニ揉合ヒ爭鬪スル際、自然ト交番所ノ方ヘ近寄リタル義ニ候。

問　巡査福本、黑田其方ハ棒ノ外ニ携帶セシモノナキヤ。

答　棒ノ外携帶物ナシ。

問　他ノ證人ノ證言ニテハ饂飩屋、宿屋（支那人）十二番館等ノ多クノ水兵其節居リシ由申立ルガ如何。

答　其通リニ候得共、其他ニモ澤山居ル樣見受ケ申候。

問　他ノ證人ノ證言ニテハ支那人ニ於テ茶碗又ハ甕等ニテ巡査ヲ毆打シタル如ク申立ルガ如何。

答　茶碗等ヲ買受ケ所持シ居リタルコトハ見受ケ居リタルモ、自分等ガ毆打セラレタルハ極最初ノ事ニテ、夫レ等ノモノニテ打タレタル覺ハ無之候。

問　別ニ著シク陳述シ置キタキコトナキヤ。

答　別ニ無之候。

問　倒サレタル後、庭ノ内ヘ援ケ入レ呉レタル家ハ、支那人住居カ日本人住居カ。

答　其邊ノ事ハ相分リ不申候。狼狽ノ際故不存義ニ候。

問　前ニ立戻リ尙相尋ネ度キコトアリ、是レ卽チ當直ニテ八時ニ出デラレタル時、福本巡査ト其他ノ巡査トハ如何シ居リシヤ。

答　福本、黒田兩巡査竝ニ自分ノ前當直巡査モ交番所ニ罷在候。

問　夫レヨリ誰ガ先ヅ廣馬場橋ノ方ヲ巡邏セシヤ。

答　自分先ヅ巡邏セリ。

問　一旦歸リシヤ。

答　然リ。

問　次ニ巡邏セシハ誰ナリヤ。

答　福本巡査ガ巡邏セリ。

問　福本ガ巡邏ヨリ戻リシハ何時ナリシヤ。

答　遂ニ立戻ラズ、前述ノ如キ事ニ立至リ候。

問　其方ハ福本ト支那人トノ騒ギヲ見テ巡邏ニ出デ行キシヤ。

答　巡邏ハ適宜度々スル義故何氣ナク廣馬場橋ノ方ヘ巡邏セシ義ナリ。福本ト支那人トノ騒ギヲ知リタル故ニアラズ。

問　百歩外ニ出ヅルコトハ臨時ノ時ニアラザレバ出來ザル譯ニアラズヤ。

答　自分ノ巡邏セシハ百歩以外ニ有之候。

證人ヨリ左之通申立ツ。

前陳支那人暴行ノ際、帽子ハ最初ノ内ニ支那人ヨリ奪ヒ取ラレ、棒ハ倒レシ後支那人ヨリ奪ヒ取ラレシヤ又ハ失ヒシモノカ今日ハ所持致シ居ラズ候。

右問答ヲ錄取シ讀聞ケタル處相違ナキ旨ヲ述プルニ付署名拇印セシム。

明治十九年八月十七日

喜多村香

因テ本官等左ニ署名捺印スルモノ也。

於長崎病院

檢事　池上三郎

裁判所書記　青木繁實

此調書ハ出張先キニ係ルヲ以テ官署ノ印ヲ用ユル能ハズ、且ツ此訊問ハ午前十時三十分ニ始メ午後一時二十分ニ終ル。

證人黑田雪章訊問調書

明治十九年八月十六日檢事池上三郎ハ梅ケ崎警察署法廷ニ於テ裁判所書記靑木繁實立會ニテ訊問スル左ノ如シ。

問　其方ノ氏名ハ如何。
答　黑田雪章ナリ。
問　年齡ハ如何。
答　滿三十年。
問　職業ハ如何。
答　巡査。
問　住居ハ如何。
答　十善寺鄕三番戶中村巡査合宿所ナリ。
問　出生ノ地ハ如何。
答　鹿兒島縣大隅國恰良郡平松村四十三番戶ナリ。

檢事曰　昨夜當直ニテ廣馬場ヨリ巡邏ニ出デタルハ何時ヨリ何時迄カ。
答　自分ハ非番ナリシガ、廣馬場雜沓ニ付出掛ケタリ。但七時三十分頃ナリ。其時迄河村巡査出ラレ、八時ニ喜多村巡査ハ河村巡査交代トシテ來レリ。
問　七時三十分ヨリシテ加勢ニ出デタル執務時間ハ何時間トカ限リアルヤ。
答　常ニ時間ノ限リハ無之候。
問　巡邏セラレタル場所ハ何々町カ、廣馬場丈ヘ雜沓ノ爲メ出ラレヤ。
答　然リ。
問　廣馬場ノ雜沓ノ箇所ハ此圖ニアル何レナルヤ。（此時長崎港內ノ圖面ヲ示ス。）
答　雜沓取締ノ箇所ハ廣馬場一面ナリ。
問　交番所ハ何レニアリヤ。
答　廣馬場四ツ角ナリ。
問　最初取締ニ七時三十分頃出ラレシトキハ交番所近傍而已ナリヤ。
答　近傍ノミナリ。
問　雜沓ノ報知ヲ得ラレシハ如何ノ模樣ニ聞込ミシヤ。
答　合宿所ニ於テ淸國人日本人雜沓スルニ付、其取締ヲ命ゼラレシニ付、自分考フルニハ、或ハ

清國人ノ家屋内ニ於テ何カ祭禮ノ爲メ飾リ付アルヲ、日本人ガ來觀スルニ付雜沓スルモノナラント思考シ、一應當梅ケ崎警察署ヘ出頭ノ上直ニ現場ニ出張シ他ニ原因アルヲ聞カズ。

問　右出張セラレシハ其方一人ナリヤ、又他ニ臨時出張ヲ命ゼラレシモノアリヤ。

答　他ニ福本巡査命ゼラレ申候。

問　福本巡査ハ雜沓取締ヲ命ゼラレシ時、他ニ雜沓ノ外原因アルコトヲ氣付キ居ラレシヤ。

答　原因アルコトハ不知モノト思フ。

問　兩名ニテ取締ニ出張シ而モ巡邏セシモ二名ナリシヤ。

答　自分福本立番ノ喜多村巡査ト三名ニテ巡邏セリ。尤モ喜多村ハ午後八時ヨリ十時迄ノ立番ナリ。

問　巡邏ハ重モニ交番所近傍ナリトノコトナルガ、廣馬場橋際迄巡邏セラルヽコトアリヤ。

答　百歩以外ニ渉ルニ付右橋迄行クコトナシ。尤モ雜沓ノ時ハ或ハ百歩外ニ出ルコトモ有之ナリ。

問　昨夜ノ廣馬場橋迄鎭撫ノ爲メ行カレタルコトアルヤ。

答　廣馬場交番所ノ所ニ初メ三名居リ、而テ福本、喜多村ガ廣馬場橋ノ手前迄行キタリト思考ス。

問　右二人ガ百歩外ニ出タルハ何ノ爲メ行カレシヤ。

答　其原因ハ不知候。

問　福本、喜多村ト遠ク離レラレタル距離ハ如何。

答　確ト分カラザリシモ概ネ橋迄六十間ナレバ其中央三十間位迄行カレ申候。

問　福本ト喜多村ト何カ騷ギヲ起シタル如ク聞ユルガ其模樣ヲ聞キシヤ。

答　別ニ聞カザルモ右巡邏ノ末五分許リモ歸リ來ラザル故、自分行キ見タル處喜多村ノ申スニ棒ヲ支那人ガ取ラントスルハ失敬ナル旨申シ聞ケ居ル處、尙自分ガ持チ居ル棒ヲモ支那人ガ取リ打タントスル形容ニ有之モ、自分ガ喜多村ニ申スニハ、支那人ハ飲酒シ居ル模樣ニ付、不問ニ置ク方可然旨申シ自分ハ交番所ヘ立歸ル途中、福本、喜多村、三尺ヅツ許リヲ隔テ立歸リ申候。

問　其方ノ棒ハ支那人ヨリ取ラレタルヤ。

答　棒ハ取ラレズ、自分ノ棒ヲ握リ打タントスル模樣ニ有之候。

問　三尺ヅツ位離レ交番所ヘ引揚ゲントスル其間ニ如何ノコト起リシヤ。

答　一間計リアトヘ足ヲ向ケタル時、他ノ支那人ノ宅ヨリ水兵ガ多人數出デ來リ、福本ニ立掛リ自分ヘモ立掛リ來リ、尙ホ北村ヘモ立掛リ申候。

問　何ニテ打チタルヤ。

答　手ヲ以テ打チタリ。

問　夫ヨリ其方ハ如何。

答　自分ハ遂ニ棒ヲ取ラレ、所ヲ不分ニ付、支那人ノ帽ヲ取リ證據ノ爲當警察署ヘ持參シ來レリ。

問　交番所ヨリ其方ガ出行キタル時ハ支那人ガ雜沓シ居リタルコト有リシヤ。

答　無之候、尤モ二十名計リノ支那人ハ居リタリ。

問　喜多村ハ如何セシヤ。

答　同人ハ打タレ候ニ付、日本人民ヨリ援ケラレ、長崎警察署ヘ連行カレタリト自分當署ヘ歸リタル上聞及ビタリ。

問　喜多村ト福本ハ何レガ先ニ打掛ラレタリヤ。

答　福本ガ先ニ打タレタリ。

問　喜多村ガ跡ニナリ居レバ同人ガ先キニ打タル、筈ナルニ、如何シテ福本ガ先キニ打タレシヤ。

答　其中央ニ在リシ福本ノ側面ノ宿屋ヨリ支那人多數出來リ打タルヲ以テナリ。

問　（騷擾ノ際拾ヒ取リシ數多ノ支那軍艦ノ徽號アル帽子ヲ示シ）何レヲ其方ガ取リシヤ。

答　多數有之候ニ付何レトモ判別難致候。

問　支那人ノ出デ來リ福本ヲ襲ヒタルハ何レノ方ヨリ出シモノナルヤ。

答　南側ノ中央ヨリ出シモノナリ。

問　其數ハ何名ナリシヤ。

答　出デタル數ハ水兵ニアラザル支那人群集シ居リタル故、其水兵ノ人員確ト不相分候。

問　北ノ側ヨリハ水兵出デザリシヤ。

答　福本巡査ト同時ニ自分モ南側ノ方ヘ襲ハレ、北側ヲ見ルニ遑アラズ仍テ承知セズ。

問　其方ノ見ラレタルハ手ニテ打チタル丈ケニテ其他ノモノニテ打チタルヲ見ザリシヤ。

答　其後當署ヘ歸リタル故見ザルナリ。

問　南側ヨリ出デ其方ヘ暴行セシハ幾名カ。

答　六七名計リト思フ。

問　福本ヘ立掛リシハ幾名ト思フカ。

答　福本ヘ當リ同人ヲ打ツヤ否ヤ、自分ヘ立掛リシニ付、同人ヘ掛リシ人員ハ不相分候。

問　交番所ヘ七時三十分ニ出デ、福本ノ方ヘ一所ニナラントセシ時ハ何時程立チシ後ナリシヤ。

答　八時ノ交代ヲ喜多村ガ爲シタル後間モナキコトナレバ、凡ソ八時十五分位ナリ。

問　福本竝ニ其方ト支那人ト揉合ヒ居タル時間ハ僅カナリシヤ。

答　然リ、眞ノ僅カノ時間ナリ。

問　其時分ニハ福本、喜多村ハ如何ノモノヲ所持シ居リタルヤ。

答　初メ福本、喜多村ハ棒ヲ持チ居リタルヲ見タルノミニテ、別ニ劔等ヲ持チ居リタルヲ見ズ、又同人等ニ於テハ聊カ防禦スル間ナク直ニ支那人ヨリ打倒サレタリ。

問　然ラバ其方ニ於テ喜多村巡査ノ事ハ何モ承知セザルヤ。

答　承知セズ。

問　別ニ昨夜ノ事件ニ付著シキ事申立ベキ事ハナキヤ。

答　別ニ無之候。

問　證人ノ申立ニ據レバ茶碗、或ハ甕ノ如キ物ヲ以テ福本ヲ頻リニ打チタリト申スガ如何。

答　夫レハ自分歸署ノ上ノコトナレバ存ジ不申候。

右讀問シタル處相違ナキ旨ヲ述ルニ付、本官等ト共ニ左ニ署名捺印スルモノナリ。

明治十九年八月十六日

長崎控訴院　黑田雪章（昨夜實印遺失セシニ付拇印ス）

檢事　池上三郎

裁判所書記　青木繁實

證人高橋助次郎訊問調書

明治十九年八月十六日檢事池上三郎ハ梅ヶ崎警察署訟庭ニ於テ裁判所書記黑田利志立會ニテ訊問スル左ノ如シ。

問　其方ノ氏名ハ如何。

答　高橋助次郎ナリ。

問　身分ハ如何。

答　平民ナリ。

問　職業ハ如何。

答　車夫。

問　出生ノ地ハ如何。

答　廣島縣三好郡三好町番地不詳。

問　住所ハ如何

答　十善寺鄉番戸不詳。

問　年齢ハ如何。

答　二十三年生月不許。

問　支那人ト日本人ノ闘爭ソコトヲ訊問スルニ付委細申立テヨ。

答　畏候。

問　廣馬場ニ出居リシハ何時ナリシヤ。

答　午前十一時ヨリ午後十時迄居リシ。

問　車ハ何處ニ置クヤ

答　四ツ角ナリ。

問　初ノ起リ如何。

答　初メ廣馬場十二番戸ノ前ニテ福本ト云フ巡査ガ他ノ巡査ト三名來ラレタリ。福本ハ新地ニ行キ橋ノ際十二三間手前迄行カレ、又十二番戸ノ前ニ歸ラレタリ。此ノコトハ小店ノ嫁ガ能ク存ジ居ナリ。其時巡査ハ或ル日本人ガ肌ヲ拔ギアリシヲ制止セラレタル處、支那水兵等ガ右巡査ヲ打テト云ヒ福本ヲ足ニテ蹴リタリ。

問　其蹴リタル水兵ハ其前何處ニ居リシヤ。

答　馬場ニブラブラシテ居リシ。

問　初メ福本ヲ蹴リタル者モ馬場ヲ歩行シ居リシヤ、其水兵人數ハ如何。

答　能ク存ゼザリシモ十七八名ナリシ。廣馬場ウドン屋ニ數十名、又支那宿屋ニ大分居リシ。其時馬場ヲ歩行シ居リシ者、其ウドン屋ト宿屋ニ居リシ者共ヲ呼出シタルニ依リ駈出シタリ。巡査一人ハ直ニ警察署ニ行カレタリ。

問　蹴リタル後水兵ヲ呼出シタルニ依リ直ニ皆駈出セシヤ。

答　皆出デタリ。福本ハ打タレタルニ付動キ得ザル如クアリシ。脊ノヒクキ巡査ガ後ヨリ行キタリ巡査ハ凡一歩二歩位後レテ行カレシ水兵等ハバラバラ出デ、福本ト外一人、時ヲ揚ゲ打チ掛レリ。

問　打チカヽリシハ何ヲ持チ居リシヤ。

答　茶碗或ハ瓶等ヲ持チ打チタリ。茶碗等ハ今以テ割レテ廣馬場ニ散シアリ。兩名ノ巡査ヲ打チ据ヘタル末、間モナク先キニ駈行ク巡査ヲモ打チタリ。

問　支那人ハ總テ茶碗等ヲ持チ居リシヤ。

答　宿屋ヨリ出デタルモノ等ハ何ニモ持タズ拳ヲ以テ打チタリ。宿屋ハ四ツ角ヨリ二軒目ナリ。駈行ク所ノ巡査ヲ宿屋ヨリ出タル者ガ打チシ。

問　然ラバ駈行タル巡査ハ當署ヘ歸リ福本外一名ハ如何セシヤ。

答　自分ハ當署ヘ駈込三人ノ巡査云々ノコト訴ヘタリ。福本外一名ハ其後見ザリシニヨリ存ゼズ。

問　其模様ヲ其方ガ報告セシト云フヤ。

答　然リ。

問　其他ノ事ハ不知ヤ。

答　午後五時頃坂本巡査ガ四ツ角ニ立居ル時、支那人ガハーカヲ拔キ、此樣ノモノヲ持チ居ルヤト見セタリト云フコトヲ後ニテ承リタリ。後チ巡査モ三名增員トナリシ。

問　其燒物茶碗、瓶等ヲ遊ビシ車夫ハ誰シタルヤ。

答　相分ラズ候。茶碗、瓶等ハ支那人ガ各持チ居リシナリ。

問　右ハ十二番戸ノ前ナリシヤ。

答　十一番戸モ其隣リニテ同番號ナリ。

問　十二番戸ニハ支那人ガ入リ居リシキ。

答　十二番戸ニハ不居、十一番戸モ同小店ナル故居ラザリシ、宿屋トウドン屋ト二軒ニ多人數居リシ、右二軒ノ人數ヲ合セ凡二三十名ナリ同所内皆支那人ノ店ナリ。

問　其方ノ如ク能ク目擊セシモノハ誰カ居ラザルヤ。

答　其時ハ車夫三人居リシ、未ダ姓名ハ存ゼズ候。

問　支那人ノ方ニ雇レ居ル女ヨリ其方ガ聞シ噺シアリト愛次郎ナル者ガ申立タリ如何。

答　右女ガ昨夜ハ居リシヤト問シニ付、居リシト答ヘ、オマイハ見シヤト云ヒシニ、二階ヨリ見居リシト云タル。又右ノ女ガ自分ヘ申聞ケタルハ他ノ女ノ申セシハ軍サニテ死スルモ此所ニテ死スルモ同事ナリト云ヒ、支那人一同仕掛ケタリト云フコトナリシ、外ニ承リ不申候。

右讀聞ケタル處相違ナキ旨申立タリ然ルニ自署スルコト能ハザルニ付書記代書ヲ爲シ拇印セシム。

明治十九年八月十六日

高橋助次郎

因テ本官等左ニ署名捺印スルモノ也

於梅ケ崎警察署

長崎控訴院檢事　池上三郎

書記　黑田利志

證人宮川愛次郎訊問調書

明治十九年八月十六日檢事池上三郎ハ梅ヶ崎警察署訟庭ニ於テ裁判所書記青木繁實立會ニテ訊問スル左ノ如シ。

問　其方ノ氏名ハ如何。

答　宮川愛次郎。

問　身分ハ如何。

答　平民ナリ。

問　職業ハ如何。

答　長崎縣巡査ニシテ探偵掛奉職中ナリ。

問　住所ハ如何。

答　長崎縣長崎區梅ヶ崎町二十四番戸ニ有之ナリ。

檢事曰　本日ハ昨夜支那水兵ト日本巡査トノ葛藤事件ニ付證人トシテ取調ヲ爲スニ付其見聞シタル模樣ヲ詳細陳述アルベシ。

答　畏リ候。

問　騷動ノ場所ハ如何。

答　廣馬場町ニ有之候。

問　最初巡査巡行ノ際支那人大勢押寄セ來リシトノコトナルガ其模樣ハ如何。

答　昨十五日午後五時頃梅ヶ崎警察署詰坂本巡査廣馬場町ヲ巡行ノ際支那水兵來リ巡査ノ肩ヘ突掛リタリ。

問　支那人何名ナリシヤ。

答　十名計リナリ。而シテ廣馬場町ヘ交番ノ巡査姓名不知一名罷在ル處ヘ支那人三十餘名押掛ケ來リタリ。

問　巡査立番ノ場所ハ何レナルヤ。

答　廣馬場町四ツ角ニ有之候。然ルニ右支那水兵ノ内最モ丈ケ高キ者言語ハ通ゼザレドモ西洋ハーカ（小刀）ヲ出シ、巡査ニ對シ日本人ハ如斯者ヲ所持シ居ルヤノ旨ヲ示シ居リタルヲ、新地カ廣馬場居住カノ支那人ガ駈ケ來リ、右水兵ヲ差留居リタルヲ目擊シタリ。而シテ追々水兵ハ本籠町竝ニ新地ノ方ニ散亂シタリ。其時巡査二名駈付、而テ一名ハ本籠町ノ方ヘ巡行シ、一名ハ新地ノ方ヘ巡行シ、一名ハ依然立番ヲナシ居リタリ。然ルニ廣馬場町十一番館カ又ハ

十二番館カノ支那人方ヘ支那水兵若干各陶器類ヲ買入レ集會シ居リタル際、日本人ガ短カキ襦袢ヲ着シ居リタルヲ巡査ガ咎メタルヲ、右水兵共ガ聞付ケ、而テ水兵ハ巡査ニ對シ陶器ヲ投ゲ付又十一番館ノ向ヒナル蕎麥屋ニモ五六名ノ水兵飲酒シ居リタリ。

問　陶器ヲ買入レ集合シ居タル館ニハ支那水兵幾名許リアリシヤ。

答　未ダ取調ベザル故人員ハ確知セズ。尤モ右陶器ヲ投ゲ付ケタルガ本件ノ原因ニ有之候。然ルニ其際猶蕎麥屋並陶器ヲ以テ集マリ居リシ水兵多數出デ來リ、割木ヲ以テ巡査ヲ亂毆シタリ。依テ曩ニ本籠町ヘ巡廻セシ巡査ハ此ノ事ヲ聞付ケ直チニ鎮撫ノ爲メ十一番館ノ方ヘ立戻リ申候。

問　其時割木ニテ毆ラレタル巡査ハ一人ナリシヤ。

答　二人ニ有之候。

問　然ラバ巡査ハ一所ニ居リシヤ。

答　初メ一所ニ居リ後チ引分カレタリ。

問　之レ等ノ事ハ實際目擊シタル譯ナルヤ。

答　ハーカヲ示シタル迄ハ目擊シタルモ其後ノ模樣ハ支那人方ヘ雇ハレ居リタル下婢ヨリ車夫助太郎ガ聞取タルヲ傳聞シタリ。

問　其下婢ノ氏名ハ如何。

答　承知セズ。

問　其他ノ者ヨリハ聞カズヤ。

答　其他ノ者ヨリハ聞及不申候。

右讀聞タル處相違ナキ旨ヲ述ブ依テ左ニ署名拇印セシム。

明治十九年八月十六日

宮川愛次郎

於梅ヶ崎警察署

檢事池上三郎

書記　青木繁實

因テ本官等左ニ署名捺印スルモノ也

此調書ハ出張先ニ便ルヲ以テ官署ノ印ヲ用ユル能ハズ。

林長崎控訴院檢事長ヨリ司法大臣ヘ報告

當長崎區廣馬場町船大工町等ニ於テ清國軍艦水兵暴動ノ狀況ハ左ノ如シ。

明治十九年八月十五日午後一時頃ヨリ、清艦ノ水兵追々上陸シ、其數凡ソ三百名、內士官體ノモノハ多ク帶劍シ、水夫中ニハ棍棒ヲ携ヘシモノモ間々之レアリ。然シテ四五名乃至八九名宛群ヲ成シ、市街濱ノ町丸山町邊ヲ徘徊シ、或ハ酒店ニ入ルモノアリ、或ハ商店ニ物品ヲ求ムル者アリ、中ニハ刀劍ヲ求ムル者モ亦尠カラズ。夜ニ入リテ尙歸艦セズ、清國人居留地廣馬場ノ如キハ每戶ニ若干ノ水兵集合シ、其狀況暴擧ヲ圖ルモノヽ如ク（此日晝間水兵中立番ノ巡査ニ對シ「ナイフ」ヲ以テ切リ又ハ突ク眞似ヲ爲ス等種々凌辱セシモ巡査ハ之ヲ意トセザリシ其事實ハ別紙坂本半四郎、川村健太郎等ノ調書ニ詳カナリ）甚ダ穩ナラズ。且ツ時ニ恰モ居留地廣東會所ニ於テ干蘭盆會アリシヲ以テ。往來ノ人モ亦多ク頗ル雜沓ナルガ故ニ、梅ケ崎警察署ニ於テハ取締リノ爲メ廣東會所角、卽チ四ツ角ノ巡査交番所平日一人ノ巡査ナルヲ更ニ二人ヲ增シ、三人ノ巡査ヲシテ巡邏視察セシムル中、午後八時過ニ至リ右立番所住地ヨリ新地ノ方ヘ凡ソ二十間ヲ距ル所ノ或ル清國人居宅ヨリ居留清國人ト覺シキ者一人突出シ、無法ニモ巡査ノ警棒ヲ奪ハントス。巡査ハ之ヲ醉狂ノ所爲ト見做シ、敢テ意トセズ、三人共ニ立番所ノ方ヘ去ラントスル際、俄然右清國人居宅ヨリ二十名バカリノ清國水兵駈出テ、矢庭ニ巡査ニ迫リ、擧ヲ以テ擊掛ケタリ。巡査之ヲ防グモ水兵ノ亂擊甚ダ急ナルガ故ニ、遂ニ力盡キ二人ハ其場ニ倒レ復タ起ツ能ハズ。一人ハ辛フジテ遁レ出テ、急ヲ警察署ニ報ゼリ。警察署ニ於テハ直ニ詰合ノ警部補及ビ巡査八九名ヲ鎭撫ニ出シタル處、水兵ハ早已ニ近傍ヨリ無慮二百名計リモ集合シ、刀劍又ハ棍棒等ノ得物ヲ以テ警察署ニ向ツテ襲來スルニ會シ、遂ニ一場ノ爭鬪ヲ開キタリ、爲メニ右巡査二人ノ負傷者ヲ救援スル能ハズ。警察署ヨリハ巡査追々駈付ケルモ、一時ノ水兵ノ勢猛烈ニシテ、實ニ當ルベカラザル有樣ナリ。長崎警察署ニ於テハ廣馬場町ニ於テ巡査清國水兵ノ爲メ屢殺サレントスルノ狀況ナリト人民ガ急報スルニ依リ、詰合巡査數名ヲ直ニ人力車ニテ駈付ケシムル途中、第一ニ駈付ケタル巡査森利彥ハ思切橋ヲ涉リ、船大工町ニ至ル凡ソ五六步ノ處ニ於テ水兵ノ群集セシ中ヲ通過スル際、突然擊掛リ車上ヨリ引下ロシ亂擊シテ遂ニ倒レタリ（此巡査ハ重傷ノ爲メ翌日死亡セリ）此後丸山町ノ方ヨリモ二三十名ノ水兵集合シ、追々駈來ル巡査等ト茲ニ亦一場ノ爭鬪ヲ開キタリ。此等ノ騷擾ニ際シ人民最初ハ傍觀シ居タル處廣馬場ニ於テ巡査ハ無謂水兵ニ打殺セラレタリト誰レ云フトナク相傳ヘテ殺氣ヲ生ジ、騷擾ノ央ニ到リ何レヨリトモナク人民ハ棍棒、刀劍等ノ得物ヲ携ヘ水兵ト爭鬪ス。斯クテ午後十一時前ニ到リ自然ニ鎭靜セリ。

一　清國水兵ノ携ヘシ兇器ト認ムルモノ、及ビ水兵ノ帽子等同夜騷擾ノ場所ニ於テ巡査及ビ人民拾

ヒ取リ警察署ニ差出シタル證據物ハ別紙二通目錄ノ通リニ候。

一　暴動ノ起ルヤ、小官ハ日下知事ト警察本署ニ集會シ、事件ノ處分方法ヲ叶議シ、池上檢事、羽野檢事等ハ實況視察ノ事ヲ擔當シタリ。暴動鎮靜ニ至リ直ニ羽野檢事及ビ野間口警部長ヲ支那領事館ニ派遣シ、即時負傷檢視立會ノコトヲ求メタリ。領事館ニ於テ、梁書記生ヲ代理トシテ譯官劉ヲ屬シ、共ニ梅ケ崎警察署ニ在ル彼我負傷者ノ檢視ニ着手セリ。尤モ日下知事ト協議上々般ノ事件ハ重大ニ涉ルヲ以テ充分ノ證憑ヲ集取シ、勉メテ彼レノ猜忌ト口實トヲ避ケ加フルニ敏速ニ事ヲ結了シ、是ヨリ先ニスルヲ要點ト認ムルニ付、區々ノ事情慣習ヲ顧ミズ、初歩ヨリノ檢察官ノ手ニ一切ノコトヲ引受ケ、小官自ラ主任トナリ、檢事警察官ヲ指揮スルコトニ知事ノ同意ヲ求メタリ知事ニ於テモ警察官ニ諭示シタルヲ以テ、檢察官手足ノ運動上ニ於テ聊カ不便ヲ感ゼズ。故ニ該夜未明ニ到リ梅ケ崎長崎兩警察署ニ在ル負傷者等ノ檢視ヲ結了スルニ到リタリ。小官ハ知事ト同伴シ檢視中、兩署ノ死者負傷者ノ傷狀ヲ視ルニ、實ニ慘狀ヲ極メ、見ルニ忍ビザル有樣ナリシ。要スルニ巡査ノ負傷者ハ打撲傷ニ多ク、水兵ノ負傷者ハ刀傷ニ多シ。即チ別冊比較表ノ如シ。翌朝ニ至リ支那領事館ニ引揚ゲタル負傷者アルヲ以テ、其檢視立會ノコトヲ彼レヨリ求メタリ。依テ羽野檢事、野間口警部長ヲ伴ヒ、彼レノ設クル病院ニ到レル處、彼事ニ托シ緩慢ニ付シ、遂ニ其日檢視ヲ爲スヲ得ズ。翌日午前七時半ヲ約シ引揚ゲタリ。依リテ翌日ハ若シ斯ノ如ク緩慢ノ處置ニ出デタルトキハ、立會ヲ絶チ直ニ引揚ゲルコトヲ豫メ決シタリ。斯クテ約ノ如ク病院ニ臨ミシニ、果シテ醫師ノ不在其他ノコトニ托シ、延引ヲ請求シタルヲ以テ、斷然立歸ラントスルニ際シ、漸ク檢視決行シ、其夜ニ到リ全ク檢視ヲ終リタル其負傷者ハ三十一名ナリト雖ドモ、概シテ微傷ニシテ、巡査ニ取リテハ負傷ト名ケザルモノヽ如シ。思フニ彼レノ緩慢ハ勉メテ負傷者ノ人員ヲ多數ニセントシ、其取調ヲ日子ヲ要スルヲ以テノ策略ニ出シモノナランカ。

一　騷擾ノ翌日日下知事ニ協議シ、彼レノ先鞭ヲ防グ爲メ、是ヨリ原告トナルヲ必要トシ、彼レニ假リニ求刑ニ付テノ照會書ヲ領事ヘ向ケ發シタル其案ニ別紙寫ノ如シ。

一　檢事ノ分任ハ羽野檢事檢視ヲ主トシ、池上、駒留兩檢事、堀、村上兩檢事補等ハ專ラ兩警察署ニ派遣シ證據集取ニ從事シタリ。

一　暴動中人民ノ負傷者ハ翌々十八日ニ到リ追々屆出ヅル者アリ。此負傷者ノ檢視ヲ支那領事立會ヲ求メザルハ、一ハ時日ニ遲レ、彼レノ猜忌ヲ惹起スルノミナラズ、彼レニ於テモ檢視結了後際限ナク負傷者ト名ケ檢視ノ立會ヲ求ムルノ憂アリ。一ハ全體今般ノ事件ハ巡査ト水兵トノミノ葛藤ナレバ、充分我ニ勝利ノ見込アリ。然ルニ人民ト水兵トノ葛藤ニスレバ無名ノ騷擾ニシテ、我ニ不利益ノ見込ナリ。故ニ彼レヨリ人民ノ氏名ヲ揭ゲ、行害者トシテ請求スル時ハ致方ナシト雖ドモ、是ヨリ人民ヲ被害者トシテ請求スルトキハ却テ彼レノ利益ヲ惹起スルノ材料トナルノ姿ヲ

爲スニ到レバナリ。又人民此騷擾ニ加ハリ水兵ヲ苦メタル所以タルヤ、初發廣馬場ニ於テ無故巡査ヲ斬害シ、殊ニ巡査ノ人員少數ニシテ彼我衆寡敵セザルノ現狀ヲ知リ誰發意トナク、我國ノ情ヨリ忿怒ヲ生ジ巡査ニ應援ノ心ヲ以テ各々得物ヲ携ヘテ其場ニ加ハリタル狀況ナリ。故ニ人民ハ聊カ憚ル處ナク警察署ニ利器ヲ携ヘ公然加勢ヲ申出ヅルモノ數多アルヲ却テ說諭ニ困リタルノ有樣ナリ。斯ノ如キ狀況ナルヲ以テ、人民ノ負傷者公然彼レニ知ラセバ彼レ卽テ其負傷ヲ徵シ、行害者トシテ刑ヲ求ムル等ノコトアリテハ治民上實ニ忍ビザル所アルヲ以テ、是亦彼レニ檢視立會ヲ求ル所以ナリ。

一　此事件ニ付彼レヨリ知事ニ對シ已ニ昨日談判ノ緒ヲ開キタルコトハ已ニ電報ニテ御承知ノ筈ニ依リ、詳細ハ內々知事ノ相談ヲ受ケ承知致シ居ルモ知事ヨリ時々報告書ヲ出スベキニ付萬一事ノ齟齬アルヲ恐レ此報告書ニハ記載セズ。

一　負傷巡査及ビ證據人ノ取調書モ稍整頓シ、本院及始審廳書記雇員ニ至ル迄晝夜總掛リニテ謄寫又ハ飜譯等ニ取掛候得共何分數十人ニ涉ルコト故明後日ニ至ラザレバ求刑書送致ノ運ビニ相成間敷候。

一　今般ノ事件ニ付テハ院長及ビ知事ト互ニ職權ニ關スルコト內々協議シテ決行スルコトニ相談致シ都テ圓滑ニ運ビ居ルニ付御安心相成度候。右本日郵船出帆ニ際シ不取敢報告候也。

明治十九年八月二十日

長崎控訴院檢事長　林　誠

司法大臣伯爵　山田顯義殿

一

支那水兵暴動之際梅香崎警察署ニ於テ引上タル證據物品

一　刀（日本刀）　一本
一　竹杖（但仕込刀ノ鞘ナラン）　一本
一　赤帶（清國水兵ノ腹帶）　二本
一　黑帽（清國軍艦士官ノ帽ナラン）　一個
一　定遠兵船帽（清國水兵ノ帽）　三個
一　濟遠兵船帽（同　上）　三個
一　無記名帽（內四個ハ同上…內一個ハ通常表藁ニシテ同國士官ノ帽ナラン）　五個

林長崎控訴院檢事長ヨリ司法大臣ヘ報告

一 威遠練船帽（清國水兵ノ帽） 一個
〃 十七個

支那水兵暴動之際長崎警察署ニ於テ引上タル證據物品

一 樫ノ木丸棒 一本
一 仕込杖鞘無キモノ 二本
一 日本刀同上 一本
一 支那軍艦警吏ノ携ヘタル朱塗棒（内一本柄折レ） 二本
一 支那製鞭 一本
一 水兵制帽 八個
一 斬髪所標杭 一個
一 ハ ー カ 一本
一 支那製靴 一足
〃 十八個

同事件雜信

清國理事府ヘ照會ノ案（午後八時三十分發）

昨夜當港廣馬場町、船大工町其他近町ニ於テ本縣巡査職務ヲ行フニ當リ、貴國軍艦數多ノ水兵ニ暴行ヲ加ヘラレ、爲メニ死傷者若干名有之候。就テハ其際徵憑ヲ聚集シタル上、行害者ニ對シ至當ノ處分可及請求ニ付此段豫メ及御照會置候也。

明治十九年八月十六日

長崎始審裁判所
檢事 羽野知顯

清國領事府 蔡軒 宛

長崎控訴院　林檢事長

山田司法大臣

（八月十六日午二時發電報）

昨夜事件ノ起リハ午後八時半頃梅ヶ崎警察署詰巡査三名支那人ノ擧動ヲ視察スル爲メ、廣馬場町交番所ノ側ヲ巡邏中居留支那人五六名突然巡査ノ棒ヲ後ロヨリ奪ハントス。巡査ハ是ヲ防グ際勿チ百餘名ノ支那水兵所々ヨリ突出シ、三名ノ巡査ヲ取圍ミ、終ニ打臥セ内一名ノ巡査ハ卽死セリ。其他ハ第三報ノ通リナリ。又巡査ノ負傷ハ第二報ノ外ニ警部補二名巡査四名檢疫雇部四名アリシ後ハ調中。

長崎控訴院　林檢事長

山田司法大臣

（八月十六日午四時發）

捕ヘタル支那人ハ皆負傷者ナリ治療ノ都合アルヲ以テ支那官吏立會檢視ノ上既ニ引渡シ、更ニ縣立病院ニ預カリ治療中ナリ。

長崎控訴院　林檢事長

山田司法大臣

（八月十七日午一時五分發）

去ル一三日ノ暴動事件ハ今日支那領事ニ向ケ求刑ス。又昨夜ノ事件モ求刑スル筈ニテ既ニ領事ニ其旨ヲ掛合タリシ。同領事館ニアル怪我人ハ今日檢視終ラズ。又暴動ノ原因ニ關スル證人ハ今調中好キ都合ナリ。又負傷者ノ内巡査一名支那人一名今日死セリ。又知事ヨリ領事ニ向ケ水兵ノ上陸差留方ヲ掛合タル處領事ニ於テ承諾シタリ。

長崎控訴院　林檢事長

司法大臣

（八月十八日午二時十分）

人民ノ内ニモ數十名ノ負傷者アリタレドモ、談判上ノ都合アルニ付キ、支那領事ヘハ通知セズ。故ニ立會檢視セズ。

今日清國丁汝昌ニ會ス、四艘ノ軍艦ハ朝鮮各港ヲ經テ浦鹽斯德ニ至リ、夫レヨリ來着ノ趣ナリ東京徐大臣ヨリ彼ノ地ニ來レト電報ヲ送リタル由ナリ。

依テ北洋大臣ノ命令次第神戸ヲ經テ横濱ヘ廻航スベシトノ事ナリ。

明治十九年八月十三日發同十四日接

青木外務次官

長崎縣令

日下長崎縣知事來電

昨夜支那水兵人民ニ對シ暴行ヲ加ヘタルヲ以テ、取鎮メノ爲メ巡査出張セシ處右巡査ニ刀ヲ以テ傷ヲ負ハセタリ。水兵ニモ微傷アリ。委細ハ追テ上申ス。

右明治十九年八月十四日午後十二時十分發

本日支那水兵多數上陸今夜九時過我巡査ニ暴行ス。巡査負傷者ノ數ハ未ダ判然セザレドモ、五名ヲ下ラザルベシ。支那水兵ハ利器ヲ携ヘタル趣、支那人ニモ負傷者アル由、右不取敢申報ス。

右十九年八月十六日午前十二時四十分發

支那人ニハ死亡四人、重傷六人、輕傷九人、我巡査ニハ死亡一人重傷一人、輕傷十四人アリタリ。

右十九年八月十六日午前一時五十分發

暴行ハ梅ケ崎警察管内廣馬場、梅ケ崎町及ビ長崎警察管内元旅籠町、船大工町、元漆灰町ニ起リ、梅ケ崎ノ方ハ午後八時過ニ起リ十時過ニ鎮定長崎ノ方ハ八時半頃ニ起リ十一時頃ニ鎮定セリ。

右十九年八月十六日午前二時五十五分發

昨日支那水兵多數上陸シ、午後ニ至リ諸處支那人ノ家ニ隱レ居リ午後八時ニ至リ突然一人ノ支那

水兵廣馬場ヲ巡行スル巡査ノ後ロヨリ、棒ヲ取ラントスルヤ、忽チ百餘名ノ水兵諸所ヨリ突出シ、遂ニ其巡査ヲ殺シタリ。此報ヲ聞キ梅ケ崎警察署ヨリ巡査ヲ繰出シ互ニ負傷アリタリ。長崎警察署ニテハ此報ヲ聞キ詰合ノ巡査梅ケ崎警察署ヘ駈付ケントスル、途中、船大工町ニ於テ多數ノ支那水兵ニ支ヘラレ、悉ク刄傷ヲ受ク、遂ニ達スルコトヲ得ズ。折柄近傍人民得物ヲ携ヘ其水兵ニ打掛リ多數ノ水兵ヲ殺傷シタリ。水兵ノ内ニモ士官ラシキモノモ加ハリ指揮シタル由、現ニ士官一人即死シタリ。又昨夜報ジタル外ニ支那水兵十五六名ノ負傷者領事館ニ居ル樣ナリ。我人民ニモ負傷者アル由今調中。

明治十九年八月十六日午前十時十五分

日下長崎縣知事

青木外務次官

支那水兵受傷者中一人只今病院ニテ死去セリ。

十九年八月十六日午後十二時三十分

日下長崎縣知事

青木外務次官

昨夜重傷ヲ負ヒタル巡査一人只今死去セリ。

十九年八月十六日午後二時四十五分

日下長崎縣知事

青木外務次官

日下長崎縣知事來電

突然巡査ノ棒ヲ後ヨリ奪ハントス、巡査之ヲ防グ際忽チ百餘名ノ支那水兵所々ヨリ突出シ三名ノ巡査ヲ取圍ミ、遂ニ打伏セ内一名ノ巡査ハ即坐ニ死亡ス。昨夜事件ノ起ハ午後八時頃梅ケ崎警察署巡査三名支那人ノ擧動ヲ視察スル爲メ廣馬場交番所ノ傍ヲ巡邏中、居留支那人五六名死セリ其他ハ第四次開申ノ通。

右十六日午後五時二十分發

十五日暴行以來本日午後一時五十分初メテ清國領事來談ス。其要點ハ該暴行以來居留支那人ガ日本人ニ對シ恐懼ノ念ヲ懷キ居ルニ付、之ヲ安ンズル爲メ貴縣人民ニ諭達セラレタシトノ意ナリ本件ハ承諾ノ意ヲ表セリ。又午後八時支那副水師提督英人ラング水師提督及ビ領事ノ内意ヲ請ケ内談ニ來レリ。其要點ハ水師提督及ビ領事モ平和ノ談判ヲ望ミ居レリ貴官ノ意見ハ如何ント云フニアリ。本官ハ固ヨリ平和ニ結局ヲ了センコトヲ望ム旨答ヘ置ケリ。近キニ公然ノ談判ヲ始ムベシト委細ハ追テ上申スベシ。

明治十九年八月十八日午後十一時三十分

伊藤内閣總理大臣　日下長崎縣知事

十五日夜暴行顚末ノ概略ハ同午後十時發ノ攝津丸ニテ郵送セリ。

十九年八月十九日午前十二時十分

伊藤總理大臣　日下長崎縣知事

巡査負傷數第二次ヲ以テ報告ニ及ビシガ、尙其他ニ檢視濟ノ分警部補二人、巡査四人、人民四人未ダ檢視ヲ經ザル分警部補一人、巡査四人及ビ人民若干人ナリ。

十九年八月十九日午前十二時四十五分

伊藤内閣總理大臣　日下長崎縣知事

十九年八月九日午後三時二十分

伊藤總理大臣宛　長崎縣知事

十三日及ビ十五日清國水兵暴行ニ付清國領事ト談判ノ概略本日郵送セリ。

本日ノ談判ハ午後四時ニ初マリ五時三十分ニ終ル。今回ノ事件ハ政府又ハ命令官ノ意ニ出デタルモノニ非ズ、全ク水夫等ガ一時ノ暴行ニ止マリ、不意ノ出來事ナル旨ヲ副提督及ビ領事ヨリ確言セリ。本官モ斯ク思ヒ居ル旨ヲ答ヘ置ケリ。且ツ右ノ次第ニ付、ロカアル事件トシテ結局ヲ了センコ

トヲ申出タルニ付、承諾ノ旨ヲ答ヘヲケリ。

明治十九年八月十九日午後八時三十五分

外務省

伊藤大臣

日下長崎縣知事

本日談判ノ大略ハ先刻報告ノ通リナリ。併シナガラ十五日ノ暴行ハ十三日ノ事ニ原因シ、清國水兵ノ故意ニ出デタル如ク思ハルヽニ付、充分之ヲ糺ダサヾル可カラズ。又彼ヨリ暴行ヲ起シタル事實アルヲ以テ、充分彼我ノ曲直ヲ明ニセザル可カラズ。此ノ二件ハ本日已ニ談判ノ端ヲ開キ置キタルガ故ニ、其ノ結局ヲ了スルハ明後二十一日午前十時縣廳ニ於テノ再談判ニアルベシ。過刻電報ノ指令モアリシニヨリ念ノ爲メ續報ス。

十九年八月二十日午前十二時三十五分

伊藤總理大臣

日下長崎縣知事

本日ノ談判ハ午前十時ニ初マリ十二時十分ニ終ル。其ノ大要ハ本官ヨリ十三日及ビ十五日夜ノ顚末及ビ證據ヲ續述シ、此ノ事件ハ水兵ヨリ事ヲ起シタルト認定スル旨ヲ陳述シテ提督及ビ領事ノ意見ヲ問フ。提督ハ此件ハ未ダ取調ベヲ盡サヾルニ付、數日ノ猶豫ヲ與ヘラレタシト申述、領事ハ東京公使館ヨリ書記官ノ來ル筈ニ付、此件ハ右到着迄猶豫アリタシト申述ベタリ。然ルニ提督ハ領事ニ向テ未ダ清國政府ノ代理ヲキカザルマデハ書記官ノ來着如何ニ係ラズ談判スベキ旨ヲ述ベ互ニ數回ノ談論アリタリ。然レドモ遂ニ事實取調ベヲ了スル迄數日ノ猶豫ヲ與ヘラレタシトノ請ニヨリ、止ムヲ得ズ承諾セリ。

明治十九年八月二十一日午後四時三十五分

外務省

伊藤大臣

日下長崎縣知事

清國軍艦濟遠、威遠ノ二艦本日拔錨スレドモ、負傷者ハ尙ホ留メ置ク旨領事ヨリ通知アリタリ然シナガラ本日ハ暴風ノ爲メ未ダ拔錨セズ。

明治十九年八月二十一日午後七時十五分

外務省　　日下長崎縣知事

伊藤大臣

只今ニ至リテハ行衞知レザル水兵一名モナキ旨領事ヨリ只今確答ヲ得タリ。

明治十九年八月二十一日午後十五分

伊藤總理大臣　　日下長崎縣知事

本日談判ニ關スル電報ハ午後二時三十五分ニ到着シタルニ付、本日談判ノ間ニ合ハザリシ。併シナガラ談判ノ模樣ハ區々報道セシ如クナルヲ以テ不都合ハナカリシト存ズ。

十九年八月二十一日午後七時三十分

伊藤大臣　　日下長崎縣知事

（本日西南地方暴風ノ爲メ長崎ヘノ電信線不通トナリ山陰道ノ線ニ依リ通ジタルニ付此ノ遲延ヲナス者也。）

清國軍艦濟遠威遠ノ二艘今朝六時頃出帆セリ。

十九年八月二十二日午前十一時五分

伊藤總理大臣　　長崎縣知事

清國軍艦入港スル筈ニ付其ノ入港ヲ差留メ度故、コウメウ燈臺ニ於テ見張リヲ設ケ、該入港軍艦アルトキハ直チニ領事迄通知アリタキ旨清國水師指督ノ意ヲ受ケ、只今領事ヨリ照會アリ。本官ハ承諾ノ旨回答セリ。

明治十九年八月二十二日午後十二時四十分

伊藤總理大臣　　日下縣知事

十六日ノ朝當分ノ内水兵ノ上陸ヲ差留メ度旨領事ヘ請求シタレドモ十三日ノ件ニ付テハ之ヨリ請求シタルコトナシ。

明治十九年八月二十二日午後一時四十五分

日下縣知事

青木次官

提督丁汝昌ニ李鴻章ヨリ來ル二十六日、卽チ木曜日ニ長崎港ヲ發シ歸航スル樣命令アリ。然ルニ丁汝昌ヨリハ平和ノ談判ヲ結了スルニハ本提督ノ暫ク當地ニ滯在スルハ必要ナルコトヲ返答シタレドモ、李鴻章ハ之ヲ承諾セズ。命令ノ如ク長崎ヲ發スベシトノ訓令ヲ下シタル趣、只今ソク密ノ話ヲ英領事ヨリ承知セリ。然ルニ平和ノ談判ヲ結了スルニハ偏彼心ナキ英人提督ノ此ノ談判完結迄支那政府ノ名代人トシテ領事ト同ジク此ノ談判席ニ臨席スルハ必要ト考ヘラル。依テハ何卒閣下ヨリ支那公使ニ内談アリテ、支那公使ヨリ丁汝昌ノ一行ヲ此ノ談判完結迄長崎ニ滯在スルコトヲ李鴻章ニイチウスル譯ニハマイラズヤ。

明治十九年八月二十二日午後一時五分

日下長崎縣知事

伊藤總理大臣

暴行水兵ニ關スル求刑書ハ清國領事ニ於テ受取ルコトヲ承諾セリ。

明治十九年八月二十四日後五時十分

日下長崎縣知事

林長崎控訴院檢事長

伊藤總理大臣

今回ノ暴行事件ハ彼ヨリ端ヲ開キタルモノニテ、是非曲直ノ在ル處ハ證據明瞭ニテ、中外人民ノ共ニ認ムル處ナリ。然ルニ領事ヨリハ事實取調未ダ出來ザル趣ニテ談判ヲ延引シ、事實證據ヲコウレウシ、且ツ昨日呈出シタル書簡ノ趣ニ依レバ巡査ヨリ土民ヲワツリヨウシ、水兵ヲ屢殺云々ノ文言アリ。之ニ代リ是ヲ觀レバ領事ハ却テ我ヲ曲者卽チ被告トスルノ模樣アリ。故ニ曲直ノ上ニ於テハ一歩モ讓ラザル意氣込ニテ、彼ニ應接セザレバ曲直ノ位置ヲ顚倒スルノ恐レアリ。然ルニ昨日ノ電報ノ趣ニ依レバ提督ノ諭狀ヲ請求スルヲ要セズ云々トアレドモ、前文申述ベタル如キ事情アルニ依リ、談判ノ模樣ニ依リテハ諭狀ヲ請求スル場合モナシト計ラレズ。此段御含迄申述候。

構造歟

十九年八月二十五日後二時五十分

伊藤總理大臣　　日下長崎縣知事

清國軍艦定遠鎮遠ノ二艘明朝出港ノ旨提督ラングヨリ只今聞及ベリ。

十九年九月二日後四時二十分

伊藤內閣總理大臣　　日下長崎縣知事

第二回迄ノ會議ニ於テ決スル條件ヲ全ク取消スハ當方ハ不利益ト認ムレドモ、支那ノ委員等ニ於テ全クノ取消シヲ望ムトキハ、彼等ノ意ニ任セ初發ヨリ新ニ談判ヲ開クベキヤ否ヤ指令アリタシ。會議ハ明後六日月曜日午前十時ニ開キ度旨支那領事ニ申入レタリ。然レドモ未ダ返答ナシ。

明治十九年九月四日後三時三十分

伊藤總理大臣　　日下長崎縣知事

今日縣廳ニ於テノ會議ハ十時ニ始マリ十二時ニ終リタリ。此ノ會議ニ於テ來ル水曜日ヨリ連日午前九時半ヨリ十二時半迄開會スルコトヽ、記錄ハ英語ヲ用ルコトヲ決定セリ。

明治十九年九月六日後一時五十分

伊藤總理大臣　　日下長崎縣知事

日下長崎縣知事　　加藤祕書官

十九年八月十七日午前二時

青木次官不在拙者モ兩三日不在ニテ唯今歸レリ。八通ノ電報請取タリ鳩山ヨリ。電報シタル通、證據物十分集メルコト最モ肝要ナリ。就中最初支那水兵巡査ノ棒ヲ取ラントシ、忽チ百餘名出デ來リ右巡査ヲ殺シタル事實ニ付十分ノ證據ヲ得ルコト肝要ナリ。青木次官昨日歸ル。其後談判ノ模樣等委敷電報アルベシ。其港ニ日本軍艦幾隻居ルヤ、又各國軍艦幾隻居ルヤ。

上申書

明治十九年八月十五日長崎區清國人居留地廣馬場町立番所ノ義、兼テ巡査一名ナルモ同日ハ清國水兵等數十名同所酒店等ヘ集合シ、混雜ナルニ付、尙ホ二名ノ巡査ヲ派遣シ巡邏セシメ置候處、午後八時三十分頃ニ到リ同町角ヨリ突然一名ノ清國人（水兵ニアラズ居留人ナラン）立出デ、巡邏巡査ノ携棒ヲ奪ハントシ、或ハ暴行ヲ爲サントスルニ付、三名ノ巡査ハ懇篤說諭スルモ更ニ服セズ、遂ニ巡査ニ摑ミ掛ルヲ以テ之ヲ引離サントセシニ、俄然同町堂ニ在リタル二十名餘ノ清國水兵及同地ノ店舗ニアリシ同水兵等數十名立出デ、右暴行ノ清國人ヲ援ケ、棒或ハ拳ヲ以テ毆チ掛ルヲ、三名ノ巡査ハ正當ニ防衞スルモ、遂ニ清國水兵等ハ刀劍ヲ振ツテ一名ノ巡査ヲ斬殺シ、且二名ノ巡査ハ亂擊甚ダ急ナルヲ以テ殆ンド身體ノ自由ヲ失ヒ居ルモ、其近傍ヘ居合セタル人民等ノ援助ヲ得テ、一名ノ巡査ハ其場ヲ遁ゲ出デ歸署シテ其急ヲ報ズ。因テ直ニ在署ノ警部補ハ巡査六七名ヲ隨ヘ現場ヘ出張シタル處清國水兵等ハ殆ンド百餘名シテ包擊セラレ、何レモ創傷ヲ受ケ昏倒スルヲ、其近傍ニ居合セタル人民等清國水兵等ガ暴行ノ隙ヲ窺ヒ、倒レタル警部補巡査ヲ援ケ、或ハ病院ニ送リ又ハ歸署セシメ、在署セシ一名ノ警部補ハ初メ清國人等兇行ノ報ヲ清國理事府ヘ急報シタルニ付同府ヨリ

出張シタル副理事日本譯官及ビ巡査四名ト共ニ右現場ニ出張セシニ、清國人ノ遙ニ負傷アルヲ認メ、直ニ巡査ヲシテ當署ニ護送セシメタリ。然ルニ清國水兵等ノ喧嘩ハ其勢尙ホ當ル可ラザルノ景況ニ付、清國副領事ハ同町廣馬場橋ノ方ヘ向ケ立去リタルニ付、强テ日本譯官ヲ同行シ、廣馬場町中央ニ至リ、警部補ハ內國人ノ喧噪ヲ制シ、日本譯官ハ暴行水兵ノ兇行ヲ制セントスルモ、騷動煩雜ヲ極メ到底鎭定スル能ハザルヲ以テ、日本譯官ハ又タ廣馬場橋ノ方ニ向ヒ立去リタリ。因テ清國水兵等兇行ハ更ニ制スルモノナク、益暴行ヲ逞フシ、木石ヲ投ジ拔刀ヲ振ツテ兇害ヲ爲ス。故ニ當署巡査ハ勿論、初メ右ノ急變ヲ知リ出張シタル水上警察派出所詰警部補巡査及ビ非番巡査共出張シ、一面ハ水兵等ノ兇行ヲ防ギ、一面ハ我國人ノ動搖ヲ制セシム。時ニ水兵等ニ四十名當署ヘ向ケ再三襲ヒ來ル（此ノ時士官號令ヲ下シタルト見受ケタリ）因テ門外ニ防止シ、出張ノ警部補巡査ハ所々ニ散亂水兵等ノ爲メニ困メラレ、到底其果ルヲ知ラザル勢ヒニ付、總テ署前ニ引上ゲ、水兵等ノ來襲ヲ防ガシメ長崎警察署ヘ數回人ヲシテ應援ヲ求メシム。然ルニ長崎警察署ニ於テハ午後八時三十分過頃氏名不詳ノ男子見張所ヘ駈ケ來リ、急訴スルニ梅香崎警察署所轄內廣馬場居留地ニ於ケル梅香崎警察署廣馬場立番所ノ巡査清國水兵ノ爲メ慘酷ナル殺害ニ逢ヒタル旨陳述スル內、續々其急報ヲ得梅香崎警察署ノ乞援ニ應ジ不取敢詰合ノ巡査數名ヲ派出セシメタリ。後チ忽チ多數ノ清兵拔刀非常ノ暴擧ニ及ビタル報ニ接スルコト屢々ナリ故ニ到底支ユ可カラザルヲ知リ、豫備ノ爲メ當日非番巡査ヲ直チニ召集シ、追々

來署スル毎ニ其儘派出セシム。然カルニ最前巡査ヲ派出セシメシヨリ時未ダ十五分ヲ過ギズシテ、途中船大工町ニ於テ清兵ニ支碍セラレ、重傷ヲ被リタル巡査數名交々車上ヨリ歸署シ、其景勢支ユ能ハザルヲ告グ此時ニ際シ船大工町近邊ノ滿街ハ内外人民雜踏紛擾、清國水兵ハ益々暴擧ヲ逞フシ、石ヲ投ジ刀ヲ揮ヒ、十名内外ノ巡査ハ夫レガ爲メ負傷其勢支ユ能ハズ。不得止現場ヲ引上ゲ一同歸署後チ現場ノ模樣ヲ聞クニ同ジク午後十時過ニ及デ清兵漸ク散ジタコトヲ知レリ。爰ニ於テ彼我ノ負傷人ヲ保護シタリ。抑モ如此騷擾ヲ惹起セシハ全ク廣馬場ニ於ケル立番巡査ノ清國水兵ニ殺害セラレタル爲メ、梅香崎警察署ノ乞援ニ應ズルノ途中ニ在リテ巡査數名急行車上本石灰町ヲ經將ニ船大工町ニ入ラントスル時、同町思案橋ニ乘ズルヤ、清國水兵ハ士官體ノモノ先ツテ拔刀切リ懸リ、瞬時數名負傷セシメ、兼テ警部補代理ニ帶バシメタル劍ヲ奪ヒ、猶本石灰町ヲ蹂躙スルノ勢アルヲ以テ、其投石竝侵入防禦ノ用ニ供シ、暫ク應援ヲ待ツテ防ガントスルモ、何分數十名ノ清國兵前後ニ侵入シ、爲メニ防禦ナスコト難ク、然ルニ巡査ハ其亂暴ヲ制止セシ爲メ、清兵ニ近ヅカントスト雖モ、近ヅカシメズ、强テ之ニ迫ル時ハ只ダ巡査ハ清兵ニ不意ノ傷ヲ蒙ルノミニシテ勢之ニ敵スルコト能ハザルヲ以テ、不得止シテ巡査ヲ引揚ゲ一同警察署ヲ守リタリ。此日午後七時頃船大工町三番戸洋酒店中熊萬吉ノ店ニ清兵數名來リテ飲酒ス、同八時頃ニ至リ赤衣ヲ着スル一名ノ清兵本籠町ノ方ヨリ該酒店ノ前ニ來リタルヲ、該店ニ飲酒スル所ノ數名ノ水兵之ヲ呼入レタリ。然ルニ其水兵ハ白刃ヲ携ヘナガラ店内ニ入リ、衣袖ヲ捲キテ他ノ兵ヲシテ腕部ノ創傷ヲ纏束セシメ、而シテ共ニ談シ共ニ飲ム。幾クモナクシテ該水兵共等店外ニ立出デ、本籠町ノ方ニ向ヒ行キ、呼子笛ヲ吹クヲ聞キシニ、乍チニシテ數十名ノ水兵集リ來リ、追々市街騷然暴行ニ至リタルヲ以テ、店主ハ其危害ヲ被ランコトヲ恐レ、直ニ門戸ヲ閉鎖セリト云フ。之ニ由テ考フルニ該水兵等ハ吹笛ヲ以テ多衆ヲ集メ以テ長崎警察署巡査ノ梅香崎警察署ニ應援スルコトヲ防ゲントセシ者ニ似タリ。而シテ前ニ述ベタル思切橋ニ於テ巡査ノ一名ノ士官先ト爲リタル清兵ニ斬リ掛ケラレ負傷シタルハ、乃該兵等ノ要擊スル所トナリタルモノナラン。其水兵ノ一名腕部ニ劍傷ヲ負ヒタルハ（本籠町ヨリ酒店ニ入リタル赤衣ノ水兵ヲ云フ）蓋シ廣馬場所近傍ノ爭鬪ニ因リ傷キタル者ナラン。然リ而シテ船大工町ニ來リ吹笛ヲ以テ多數ノ兵ヲ召集シ又々寄合町、丸山町等ニ於テ多數ノ水兵喧噪横行雜踏ヲ極メタルハ、畢竟巡査ノ立入ヲ促シ、豫謀ノ目的ヲ達セント欲スル者ノ如シ。初メ長崎警察署ノ巡査廣馬場町ノ暴動ヲ聞キ、行テ之ヲ援ハント欲セシ者僅ニ十五分乃至二十分ノ間ニ於テ本石灰町又ハ船大工町等ニ至リテハ皆ナ不意ノ襲擊ニ逢ヒタルヲ以テ、續々負傷彼ノ水兵ノ暴行ヲ制シ、我ガ市民ノ雜踏ヲ鎭ムルヲ得ザリシモノナラント推測セラル。要スルニ清兵ハ豫メ不意ノ襲擊ヲ受ケタルヲ以テ殆ント進退相極メタル者ト相考候。詳細ハ顚末ヲ追々搜査シ得ルニ從ヒ上申可仕候不取敢連署ヲ以テ大略上申仕候也。

明治十九年八月十六日

上申書

長崎警察署長代理　警部　田川基明
梅香崎警察署長　小野木源次郎

日下長崎縣知事殿

第二回上申書

明治十九年八月十五日夜長崎廣馬場町ニ於テ清國水兵同所立番巡査ヘ暴行ヲ爲シ、遂ニ多數ノ死傷者ヲ見ルノ爭擾ニ至リタル始末概略曩ニ上申致置候處、尚ホ取調ブルニ同日午後ヨリ水兵等集リ同所思福機寶和棠其他一二ノ割烹店（何レモ清國人ノ割烹店ナリ）ニ出入シ、午後五時過頃ニ至リ益々水兵等集リ當時同所立番巡査喜多村香ニシテ午後六時巡査河村鍵太郎ト交代ス。其前ハ水兵等更ニ異狀アルヲ見ズ。其後十五六分時ヲ經テ警部補代理巡査阪本半四郎巡視シ、同所四ツ角路側小店ノ邊ニ河村ト凡ソ二尺計リヲ隔テ、水兵等ノ擧動其他立番部内ノ景況ヲ對話ノ際水兵一名阪本河村相對シタル間ヲ往來シ、尚ホ通行セントスルヲ以テ、阪本ハ河村ノ方ヘ身ヲ寄セ中間ヲ遮斷セシニ依リ、河村ノ後ヲ通行シ去ル。其擧動甚ダ傲慢ナルモ是レ水兵等ノ常ト思ヒ敢テ意トセズ。阪本ハ河村ト別レ舊唐館内ノ方ヘ凡ソ六七間モ至リシ處、舊唐館内ヨリ三名ノ水兵來リ、阪本ノ前面ヨリ突キ當リ、爲メニ阪本ノ冠帽飛ビテ地ニ墜ツ水兵ハ己レノ非法ヲ措テ却テ阪本ヘ何故突キ當リタルヤ無禮ナリト云フ形容ニテ、西洋小刀ヲ以テ阪本ノ面部ヘ擬ス。其際舊唐館内ノ方ヨリ二名ノ水兵來リ、右三名ノ水兵ヲ連レ去ル。因テ阪本ハ帽ヲ拾ヒ再ビ河村ニ逢ヒ水兵等ノ擧動常ナラズ、或ハ暴擧ヲ求ムルノ氣

アラン、故ニ忍耐彼レ如何ナル傲慢無禮ナルモ輕卒ニ事ヲ爲ス可カラズト訓戒ス。河村モ水兵等ノ擧動常ナラザルヲ知リ、到底一名ノ立番ニテ數十名ノ水兵等ト其雜沓モ取締ヲ爲ス能ハズ、因テ三四名ノ巡査派遣ヲ求ムト申シ出タルニ付、阪本ハ歸署ノ上ハ部長ニ議リ派出セシムベシト答ヘテ十善寺卿大浦卿間ヲ巡視歸署ノ後チ、巡査三四名臨時派遣ヲ部長警部補松崎惟民ニ議ル、其前警部補代理巡査藤山宗太郎廣馬場所通行ノ際、水兵等故ラニ突キ當リ、甚ダ疎暴ノ所爲アルニ付、到底三名ノ立番員ニテハ取締ヲ爲ス能ハズト思料シ已ニ部長ニ議シ、二名ノ巡査ヲ派遣セント非番巡査召集中ナリ。然ルニ廣馬場町立番河村ハ其後四五分時間ヲ經テ、前ニ阪本ニ横行シタル水兵來リ、西洋小刀ヲ以テ咽喉部ニ突キカヽル形容ヲ爲シ、且ツ頻リニ罵詈スル體ナルモ、言語分ラズ、時ニ二名ノ水兵來リ其水兵ヲ捕ヘ本籠町ノ方ヘ連レ去ル。其後一人ノ水兵河村ノ背ヨリ突キ當リ、爲メニ河村ハ倒レントシテ二三歩ヲ進ム、突キ當リタル水兵ハ凡ソ三間計リ通リ過ギ、何トカ罵リ引返シテ河村ノ目前ヲ通リ去ル。其後又タ三名ノ水兵前面ヨリ突キ當リテ去ル等、或ハ大キ棒ヲ杖キ睥睨シテ目前ヲ通行スル等、巡査ノ憤怒ヲ生ゼシムルノ所業ヲ爲ス甚ダシキモ忍耐午後七時三十四分頃ニ至リ巡査黑田雪章、福本富三郎出張セシヲ以テ、其後水兵等聊カ擧動ヲ愼ミ、午後八時頃ニ至リ河村ハ巡査喜多村香ト交代シ去ル、喜多村ハ黑田、福本ト共ニ同所立番中、廣馬場橋ノ方ヘ向ヒ七八間モ行歩シ、福本モ續テ同方ニ至ル。時ニ三名ノ清國人（水兵ニアラズ）其前面ニ立塞リ、携棒ヲ握リ手ヲ上ゲ面部ヲ撫デ、又ハ小刀ヲ取出シ面前ニ突キ附ケ、其他割烹店内ニアル水兵等ハ所持ノ陶器ヲ投ゲ當ル等粗暴至ラザルナシ。然レドモ福本ハ忍ンデ其粗暴ヲ甘ンジ、穩カニ清國人ヲ諭ス、喜多村ノ携棒ニモ又タ清國人手ヲ掛ケ嘲弄ヲ試ム、因テ何レモ穩カニ制シ、黑田ガ其場ニ來ルヲ見テ清國人等ガ粗暴ヲ告ゲ、且ツ清國人等ハ多人數ナルヲ以テ、自然彼レノ粗暴ニ應ジ輕急掛ル可ラズト相語リテ何レモ四ツ角ノ方ニ至ラント、黑田ハ福本ヨリ一二間先キニ進ミ、喜多村ハ福本ヨリ一間餘ヲ後ル、時ニ福本ハ内國人ノ腹部ヲ顯シ通行スルヲ認メ其說諭ヲナシ居タル際前ニ疎暴ヲ爲シタル清國人立出來リ、又タ福本ノ携棒ヲ奪ハントス。福本之レヲ拒ムニ尙ホ、一人ノ清國人後ロヨリ携棒ヲ握ル、因テ福本ハ携棒ノ前後ヲ取ラレ振リ離シタルニ、一人ノ清國人ワツト一聲ヲ發スルヤ、割烹店思福機寶和棠ニ居タル水兵等駈ケ出テ福本ヘ打チ掛ル、喜多村、黑田ハ福本ヲ救護セントスルヲ、水兵等取リ卷キ携タル棍棒ヲ以テ毆打ス。福本ハ鯨波ヲ爲シテ打掛ル水兵等ノ毆打ニ堪ヘズ打チ倒サレタルモ、尙ホ起上リ亂擊ノ棍棒刀劍ヲ防ギシモ已ニ身體打撲ノ爲メ充分ノ防禦ヲ爲ス能ハズ、梅香崎町ノ方ヲ差シテ引返ヘサントスルヲ再ビ打チ倒サレ其場ニ死亡シ、喜多村ハ亂擊ノ棍棒刀劍ヲ防ギ强テ福本ヲ救護セントスルニ當リ、福本ノ發スル一聲尋常ナラズ致命ノ聲ナラント思料シ到底己ノ身ヲ捨テ救助スルモ命ヲ全フセシムルヲ得ザルヲ察シ、其場ヲ退去セント廣馬場橋ノ方ヘ向フヤ、水兵ノ打チ掛ル棍棒頭部ニ當リ尙ホ臀部ヲ毆タレ、眩倒シタルヲ人民等救護清國人ハ家宅ニ引入レ

水ヲ與ヘテ其場ヲ避ケシム。黒田モ水兵等ノ取卷ク所トナリ、遂ニ携棒奪ハレ水兵等ノ亂擊ヲ防グ能ハズシテ打チ掛ル水兵ノ帽子ヲ奪ヒ、走リテ急ヲ署ニ告グ。其前人民等立番巡査ノ急ヲ署ニ報ズルヲ以テ、巡査小見川直彦、同大塚達男、同柴田國太郎、同木下才吉、同宮津吾八ハ徒手（以上檢疫專務ニテ携棒ヲ持タス）警部補代理巡査管政治、巡査江口嘉次郎ハ携棒ニテ、何レモ部長ノ指揮ヲ待タズ右ノ變ニ向フヤ、人民等途ニ要シテ到底徒手携棒ニテ立番巡査ノ急ヲ救フ能ハズト告グルモ、進デ廣馬場町ニ至ルヤ、數十名ノ水兵群集スルモ走セテ容易ニ同町四ツ角ニ至ル、時ニ四方群集ノ水兵相起リ各携ヘタル木石棍棒ニテ亂擊スルニ遭ヒ、徒手護身ノ具ナキモノハ勿論、警部補代理巡査管政治以下何レモ寸時ニシテ劍傷ヲ爲シ、宮津、大塚、江口ヲ除ク外ハ卽坐ニ眩倒スルヲ、人民等群集ノ中ニ救護シ、或ハ署ニ送リ又ハ己レノ宅ニ引キ生命ヲ全フセシム。其前警部補松崎惟民ハ廣馬場町急變ノ報ヲ得ルヤ、直ニ帶劍出張セントスル警部補巡査清松高義、同宮崎素、同阪本半四郎同山池信清佐村生三ヲ制シ、水兵ハ多人數ナル趣ナルヲ以テ各自合同進ンデ先ヅ立番ノ巡査ヲ救護シ且帶劍ハ防禦ニ不便手棒ヲ携ヘ苟モ輕擧ナキヲ以テス。因テ各携棒廣馬場橋ニ至ル、トキニ水上警察派出所詰警部補代理巡査船瀨猿太郎同川上民吉巡査弓削竹一等ニ遭遇、共ニ進デ廣馬場町四ツ角ニ至ルヤ、四方群集ノ水兵等各携ヘタル木石竹棒及ビ刀刃ノ類ヲ揮テ鯨波ヲ爲シ毆擊ス、因テ警部補松崎以下防禦スルノ暇ナク、瞬時ニシテ負傷シ、弓削川上ヲ除ク外其傷ニ倒レ或ハ携棒ヲ奪ハレ尙ホ毆打セラルヽヲ以テ、是又人民等ノ救助ニ依リ僅ニ命ヲ存シテ病院ニ至リ、又ハ歸署ス。此時ニ際シ警部補吉田嘉一郎ハ、出張ノ清國領事廳書記二名ト共ニ廣馬場町ニ出張、警部補江口峯吉、巡査坊所蔦吉郎同矢津宗運、同宮崎清吉郎、前ニ負傷ヲ免レタル警部補代理巡査管政治、同川上民吉、同大塚達男、同宮津吾八ハ所々散亂水兵ノ兇行ヲ防グ時ニ水兵ハ益々增加シ廣馬場町ハ勿論同町、橋上梅香崎町本籠町、新地町等ハ群集シ、當時多クハ拔刀ヲ携ヘ、木石瓦礫ヲ飛バシテ襲擊ス。依テ警部補吉田ニ於テ同行シタル領事館書記二名共其騷擾ヲ制スルヲ得ズ避ケテ退去ス。水兵等ハ暴威ヲ尙ホ逞フシテ木石ヲ飛バシ動モスレバ人民ヲ突襲ス。故ニ人民等モ多ク刀劍ヲ携ヘタル者アルヲ見認ム。然レドモ事急ニシテ之ヲ制スルノ隙ナク、時ニ水兵等ノ一手凡ソ三四十名當署ヲ襲ヒ門前ニ來ル、依テ警部補代理巡査卜部善一郎藤山宗太郎外一二名ヲ率ヒ防制シテ退去セシム。然レドモ尙再三襲擊シ諸方群集ノ水兵等ハ鯨波ヲ爲ス喧シク、到底諸方ニ在リテ彼レノ兇行ヲ制スルハ双方死傷ヲ生ズルノミナルヲ以テ、一同署前ニ引キ上ゲ、水兵ノ來署ヲ防制セシニ、水兵等モ諸方退散事鎭定ス。右騷擾ノ間捕護シタル兇行ノ水兵六名ニシテ、何レモ劍傷（二名重傷）ヲ爲シ、署員ニシテ負傷シタルハ警部補以下十七名、巡査卽死一名ニシテ木石等ヲ投擲セラレ或ハ些少ノ打撲ヲ受ケザル者ハ殆ンド無之候。

右ハ事實尙ホ盡サヾル處モ有之候間、尙ホ取調ノ上詳細上申可致候得共此段不取敢上申仕置候也。

明治十九年八月二十一日

梅香崎警察署長
警部　小野木源次郎

長崎縣知事　日下義雄殿

清國水兵暴行ノ顚末再應上申

今般清國兵暴行ニ付テハ本月十六日ヲ以テ大略ノ顚末ヲ具シ、梅香崎警察署長警部小野木源次郎ト連署上申仕候後尙百方搜査スル處、既ニ曩日上申候如ク、本件ハ初メ梅香崎警察署所轄當區廣馬場町ニ起リ、其餘兵當署部內ニ波及シ、船大工町及本籠町ニ起リ延テ本石灰町等ニ及ビタルモノト思料セラル。依テ左ニ其現狀ヲ陳述仕候。

本日十五日午後八時過頃當署詰巡査浦田傳助、糸山貞雄、常木左右衞、野村勇次郎等當日非番ナルヲ以テ、廣馬場町ニ遊歩ノ砌、一名ノ巡査カ數十名ノ清兵ニ取圍マレ亂打セラルルヲ目擊シ、之レヲ救護セントスルモ衆寡敵スル能ハザルヲ察シ、糸山貞雄、浦田傳助ノ兩名ハ當警察署ニ飛報シ常木左右衞、野村勇次郎ノ兩人ハ巡査合宿所ニ飛報セリ。右糸山、浦田兩人ノ報知ハ卽チ當警察署ガ廣馬場町ノ暴行ヲ知ルヲ得タル根元ニシテ、當署ハ此報ヲ得ルヤ直ニ居合セタル外勤巡査森利彥、本郷早雄、但木重八郎、大財精一、永田十藏、西藤作等ヲ現場ニ出張セシム。同巡査等ハ直ニ飛車シ鍛冶屋町、本石灰町ヲ經テ船大工町ニ向ヒタリシニ、森利彥ハ二人挽キナルヲ以テ他ノ巡査ヨリハ幾歩ヲ進メ、思切橋ヲ通過セントスルニ、既ニ該所ハ廣馬場町ニテ暴行セシ清兵ノ一部分ナル十

名許ノ者集リ居リタレドモ、森利彦ハ之ヲ悟ラザリシト車行ノ急ニシテ止メ難キトニ因リ、清兵ノ群中ニ進入スルヤ、乍チ前後左右ヨリ取圍マレ、車上ヨリ引落サレ、轉々格鬪シテ船大工町ナル料理店内田屋ノ戸前ニ至リ最モ劇シク創傷ヲ被リ、遂ニ同所ヨリ銅野町ヘ出ル角迄引摺ラレタリ。此時漸ク途中後レタル數名ノ巡査モ駈付ク、思切橋邊ニ於テ清兵ト甚シク鬪爭セリ。此際互ニ死傷アリテ現ニ巡査大財精一、本郷早雄等モ刀劍若クハ打撲傷セリ。暫クアツテ巡査人民一齊ニ喊聲ヲ發シタルニ、清兵概ネ本籠町ノ方ニ向ヒテ過ギタリ。此兵中ニハ銅野町或ハ本籠町ヨリ長崎病院ニ登ル坂路ニ散亂シタルモノアリ。是ニ於テ巡査ハ之ヲ追尾シ、未ダ廣馬場町ニ達セザル僅カ手前ノ所ニ於テ清兵ハ再ビ引戻シ攻メ來リタルヨリ、巡査ハ銅野町ニ出ル街角迄退キ聲ヲ放テ踏止リ在リシニ、清兵十有餘名拔劍其他ノ物件ヲ携ヘ隊伍ヲ整ヘ肅然トシテ丸山口(思切橋ノ邊)ヨリ來ルアリテ、人民及ビ巡査ハ前後ヨリ清兵ニ挾マレタルヲ以テ、人民ノ力ヲ合セテ兩手ニ別レテ喊聲ヲ發シタルニ、廣馬場町ノ方ニ去ル清兵ハ一散ニ亂走シタリト雖モ、丸山口ヨリ攻メ來リタル十名許リノ清兵ハ陶器類ヲ擲ツコト雨ノ如ク、互ニ格鬪然レドモ清兵ハ遂ニ亂レテ走リタリ。此時巡査西藤作ハ清兵ノ爲メニ腹ヲ刺サレタリ。此鬪爭中負傷セシ者數名アリ。初メ警察署ヨリ梅ケ崎警察署ニ應援セシガ爲メ車ヲ飛シテ馳セ付ケタル者ハ、右ニ述タル所ノ如ク途中清兵ノ拒ム所トナリ、互ニ格鬪負傷セリ。又警察署ヨリハ續キ數名ノ巡査ヲ派遣シタルヲ以テ、追々船大工町邊ニ來リタル者アリト雖モ、皆中途ニシテ清兵ニ拒マレ、一モ梅香崎署ニ達スルヲ得ズ。此爭鬪ニ際シ最モ清兵ノ殘暴ヲ被リ、苦楚ヲ嘗メシハ巡査森利彦、水足庄五郎ノ兩人ナリ。森利彦ノ現狀ハ右ニ述ベタル通リニシテ、而シテ水足庄五郎ハ初メ廣馬場町ニ事アリト聞キタルヨリ、直ニ道ヲ西濱町ニ取リ(西洋亭ノ前通リ)廣馬場町ニ行キシニ、同町ハ既ニ爭鬪止テ清兵ハ梅ケ崎署ノ近傍ニ廻リタル後ニテ、更ニ水兵等モ在ラザリシガ爲メ、本籠町ニ入リタリシニ、乍チ清兵ノ襲フ所トナリ遂ニ森利彦ガ斯ク前後ヨリ挾擊セラレ、殆ンド將ニ死セントセシモ、隙ヲ得テ人民ノ保護ヲ受ケ本籠町住民ノ家ニ入リ、辛フジテ生命ヲ全フセリ。然リト雖モ數十名ノ清兵ニ亂打暴擊セラレタルヲ以テ全身ニ負傷シ尙ホ危篤ノ容體ナリ。

又船大工町暴行ノ起ルニ先チ、寄合町ニ於テ清兵ノ多數相集リ暴行ヲ爲ス旨丸山町派出所詰巡査ニ於テ聞知シタルヲ以テ、同詰所巡査直チニ寄合町ニ出張セシガ、果シテ清兵數十名雜踏セリト雖モ更ニ暴行ノ模樣モアラザルヲ以テ之ヲ追尾シタルニ、該水兵等ハ漸ク船大工町ニ下リタリシニ、恰モ同町ニ於テ爭鬪ヲ生ジタルヲ以テ、派出所詰巡査ハ皆出張シテ共ニ鬪ヒタルコト故ニ、丸山町寄合町ノ如キハ最後ニ清兵亂走シテ一時雜踏ヲ極メタルナルベシト雖モ、別ニ巡査ハ鬪フガ如キ事ナシ。當日ノ爭鬪ハ全ク初メ廣馬場町ニ起リ、次ニ梅香崎町、船大工町、本籠町及ヒ思切橋近傍、本石灰町等ニ起リタル者ナリ故ニ當長崎警察署部内ニハ船大工町ヲ以テ初メトス。

以上ハ曩日上申仕候後捜査得タル所ニシテ、而シテ最早殆ント捜査ノ端緒盡クルニ至リタリ。詳細ノ事實ハ當署ヘ出張ノ檢事ニ於テ作リタル證人及ビ事實參考人等ノ訊問調書御一覽被下候ハヾ瞬然タルベシト被存候。船大工町及ビ本籠町ノ爭闘ノ現狀ハ別紙巡査ノ上申書ニテモ御參考ノ爲メ寫各一通及ビ圖面一葉相副上申仕候也。

別紙圖面ハ先ニ差上候檢事長ヨリ司法大臣ヘ差上タルモノト同樣ニ付之ヲ略ス

明治十九年八月七日

長崎警察署長代理
警部　田川基明

長崎縣知事　日下義雄殿

日誌

八月二十六日

正午十二時　暴行ノ狀況ヲ總理大臣ニ具狀センガ爲メ、清浦警保局長ハ屬官一名ヲ隨ヘ吉野川丸ニ乘ジテ歸京ス。

午後零時十分　白耳曼國軍艦アルカー號本日午前六時二十分入港シタル旨ヲ總理大臣ニ電報ス。

午後一時四十分　總理大臣ヨリ司法大臣雇カルクート及出浦司法書記官本日横濱出港ノ近江丸ニテ此ノ地ニ來ルベキコト、竝カルクートノ權限等ハ同人之ヲ携帶スル旨電報アリタリ。

八月二十七日

記事コレナシ。

八月二十八日

午前九時三十分　清浦警保局長ヨリ神戸着港ノ旨電報アリタリ。

午後七時　十三日及十五日暴行ノ顚末書並梅香崎及長崎警察署長第三回ノ上申書ヲ總理大臣ニ郵致ス。

八月二十九日

午後四時三十分　清國領事ヨリ英國大律師擔文(タンウエン)來崎ノコトニ付左ノ照會ヲ得タリ。

大清駐劄長崎正理事府蔡

爲　照會事照得我國駐東京

欽差大臣徐　特派參贊官楊樞到崎會辨業經照會在案茲又奉我

欽差大臣劄開特委英國大律師擔文來崎會辨並劄發擔文收執等因奉此相應照會爲此照會。

貴縣知事請煩

查照可也須至照會者

右　照　會

原文ニ脫ス

大日本長崎縣知事日下

光緒十二年八月初一日　　得字第壹百貳拾伍號

譯　文

拜啓致候陳者東京在留我國公使ヨリ參贊官楊樞ヲ長崎ヘ派遣シ會辨セシメラレ候儀ハ已ニ御照會置候處今般又タ特ニ英國大律師擔文(タンウエン)ニ委ネ長崎ニ來テ會辨セシメ並ニ劄文(達文ヲ云フ)ヲ擔文ニ相渡置タル旨我公使ヨリ達セラレ候條右樣御承知相成度此段及御照會候　拜具

光緒十二年八月一日

清國領事　蔡　軒

大日本長崎縣知事日下貴下

午後四時三十五分　清領事並參贊官楊樞譯官楊錦ヲ隨ヘ官宅ヲ訪フ折節他行中ニテ面會セザリシ。

八月三十日

午後零時三十分　昨二十九日清領事ノ照會ニ付同領事ヘ左ノ照會ヲナシタリ。

以手紙啓達候陳者貴國水兵暴行一件ニ付貴曆光緒十二年八月一日付ヲ以テ東京在留貴國公使ヨリ參贊官楊樞ヲ派遣セラレ且今般特ニ英國大律師擔文氏ニ委ネ長崎ニ來テ會辨セシメ竝ニ同氏ニ劄文ヲ渡置タル旨貴國公使ヨリ通知相成タル趣御照會相成拜誦致候然ルニ本件第一回談判ニ於テ今回ノ事件ハ地方ノ出來コトナルヲ以テ地方限リニ結了スルコトニ双方協議相濟所候ニ付本官ハ長崎縣知事卽地方官ノ資格ヲ以テ貴國領事ト談判ヲ開キ居候就テハ右楊樞及擔文氏ノ會辨セラルヽ云フ貴官ノ顧問トシテ談判ノ席ニ列セラルヽ義ト存候ヘ共此段爲念及御照會候也　拜具

明治十九年八月三十日

清國領事　蔡　軒　貴下　　知事　名

譯文

大日本長崎縣知事日下　　爲

照會事照得貴國水兵暴行一案接准貴曆光緒十三年八月初一日

來文內開我國駐東京　欽差大臣徐特派參贊官楊樞到崎玆又奉我　欽差大臣劄開特委英國大律師擔文來崎會辨竝劄發擔文收執等固准此本知事查此案業於第一回會議以今回事件實係地方生事故在地方議決等因彼此協議妥當在案是以本知事卽以地方官之格與

貴理事開議在案但

來文內所開楊樞及擔文二君前來會辨云々之意本知事以爲此二君乃爲貴理事之顧問（敝國所謂顧問者乃止干參與謀事而無有會公議同之主權）同列會議之席此照會

貴理事請煩查照是否

示覆可也須至照會者

右　照　會

大清駐劄長崎正理事府蔡

明治十九年八月三十日

午後三時二十五分　司法省雇カルクートヨリ馬關發ノ電報ヲ以テ本日午後十二時當港ヘ着船ノ旨通知アリタリ。

午後五時五分　清領事ヨリ楊樞及擔文氏ノ來崎ニ關シ左ノ回答ヲナシタリ。

大清駐劄長崎正理事府蔡　　爲

照覆事照得光緒拾貳年捌月初二日接准
來文內開楊樞及擔文二君前來會辨云々之意本知事以爲此二君乃爲貴理事之顧問同列會議之席
是否示覆等因准此查此二君乃係我國
欽差大臣徐　以案關重大特派來崎會辨此案之員竝非本理事之顧問相應照覆爲此照覆
貴縣知事請煩
查照須至照覆者
右　照　覆

大日本長崎縣知事日下

光緒十二年捌月初二日　　得字第一百二十玖號

譯文

拜啓我曆光緒十二年八月二日附ノ貴翰ヲ以テ楊樞及擔文ノ二君來崎會辨セラルヽハ乃チ貴理事ノ顧問トシテ會議ノ席ニ列セラルヽ儀ナルヤ否ヤ回答有之度云々ノ旨御照會有之正ニ了承然ルニ此ノ二君ハ乃チ我國欽差大臣徐氏ガ案ノ量大ニ關スルヲ以テ特ニ派シテ崎ニ來リ本案ヲ會辯スルノ具ニシテ決シテ本理事ノ顧問ニアラズ依テ此段及御回答候條宜シク御查照有之度候　拜具

光緒十二年八月二日

清國領事　蔡　軒

大日本長崎縣知事日下貴下

八月三十一日

午前二時　司法省雇カルクート竝ニ司法書記官出浦力雄著崎。
午前十時　楊樞及擔文氏來崎ノコトニ關スル昨日諸領事ヨリノ回答ニ付質疑ノ爲メ同領事ヲ訪フ。
午後一時二十分　總理大臣ヨリ談判上ニ關シ左ノ電報アリタリ。
清浦警保局長歸京事情及ビ貴意ノアル所ヲ詳悉シ猶熟考スルニ、今般ノ事件ハ其起因何等ノ事故ニ出ルニモセヨ、到底地方ニ於テ不時ノ出來事タルコト明瞭ナル上ハ、縱令如何ナル事情アルモ、兩國ノ關係トシテ外交上ノ問題トナスニ足ラズ。故ニ事局モ亦其地ニ於テ結ハザルヲ得ズ要スルニ談判ヲ以テ先ヅ曲直ヲ爭ヒ然ル後裁判ニ移サントスルハ終局ヲ得ル能ハザ

ルヲ恐ル縮令今日ノ勢俄カニ談判ヲ中止スルコトヲ得ズシテ再ビ之ヲ防クモ、曲直ヲ論ジ事局ヲ結ブハ之ヲ裁判ニ委ネザル可カラズ。既ニ「カルクート」モ著崎セバ、同人ト協議ヲ遂ゲ裁判ニ移シ之ヲ以テ終局トセンコトヲ務ム可シ。

午後一時三十分　清浦警保局長ヨリ事情委シク上陳シタレドモ總理大臣外務次官邊ノ論ハ今日訓令セラレタル通リナレバ最早再ビ出張ニ及ザル旨云々ノ電報アリタリ。

午後一時三十五分　總理大臣ヨリ「ドラモンド」ハ未ダ著崎セザルカノ問答アリタリ。

午後二時十五分　「ドラモンド」ハ去ル二十七日著崎セシモ未ダ面會セズ。併シ本日午後三時同氏來訪ノ筈又「カアクード」ハ今朝二時著崎シタル旨ヲ總理大臣ニ電報シタリ。

午後三時　會辨委員英國大律師擔文及同會辨委員文案羅貞意譯官楊錦ヲ隨ヘ來訪後四時二十分ニ至ルマデ在廳。

午後四時二十五分　總理大臣ヘ左ノ電報ヲ發ス。

今回支那ニテ會辨委員ヲ員ジ我政府ニテモ之ニ對スル委員ヲ命ゼラレタル上ハ、本件ハ地方出來事トナシ、裁判所ノミニテ結了スルコト難ガルベシ。即チ國ト國トノ談判ト相成ルベク、就テハ是マデノ談判ハ無效ニ歸シ、更ニ談判ヲ開クコトニ可相成念ノ爲メ申上置ク、且ツ委員ノ權限ニ付委任狀ノ郵送ヲ乞フ。

九月一日

午前十時　委員名ヲ以テ總理大臣ヘ委任狀ヲ送ラルヽ郵便ノ日取ヲ問合ス。

午後三時二十五分　支那軍艦定遠鎮遠ノ二隻明朝出港ノ旨提督ヨリ聞及ビシ由ヲ總理大臣ニ電報ス。

九月二日

午前十一時　提督ラング及羅貞意來訪。

午後四時　清領事及會辨委員擔文ヲ訪フ。

其談話筆記左ノ如シ。

知事　貴官等ハ今回ノ事件ヲ地方限リノ出來事トシテ談判ヲ結了スル爲メノ會辨委員ナルヤ。

領事擔文　否國ト國トノ交渉事件トシテ談判スル爲メノ會辨委員ナリ。

知事　然ラバ貴官等ハ今回ノ事件ヲ國交際ニ關スル事件トシテ談判セラルヽ積リニテ其全權ヲ有セラルヽモノナルヤ。

領事　然リ。
擔文
知事　何人ヨリ其全權ヲ附與セラレタルヤ。
領事　東京駐在我國公使ヨリ附與セラレタリ。公使ヨリ附與セラレタル此權力ハ本國政府ヨリ附
擔文　與セラレタルト同樣ナリ。如何トナレバ本國政府ハ公使ヲ經テ本官等ニ傳ヘラレタルモノ
ナレバナリ。
知事　其權力ハ如何ナル點マデ及ブモノナリヤ。
領事　未ダ委任狀ノ到達ナキヲ以テ詳カニセズ。
擔文
知事　委任狀到達サレタルトキハ本官等ノ委任狀ト交換シテ互ニ相示サンコトヲ希望ス。
領事　諾。
擔文

八月三日

正午十二時　清領事ヨリ同國軍艦定遠鎮遠ノ二艦本日午前十時ヲ以テ暫ク本國ニ歸航シ、後日仍ホ來港スベキ旨ノ通知ヲ得タリ。

午後一時十分　清國軍艦定遠鎮遠ノ二艦本日午前十時ヲ以テ暫ク本國ニ歸航シ、後日又來港スル旨領事ヨリ通知アリタル旨ヲ總理大臣ニ電報ス。